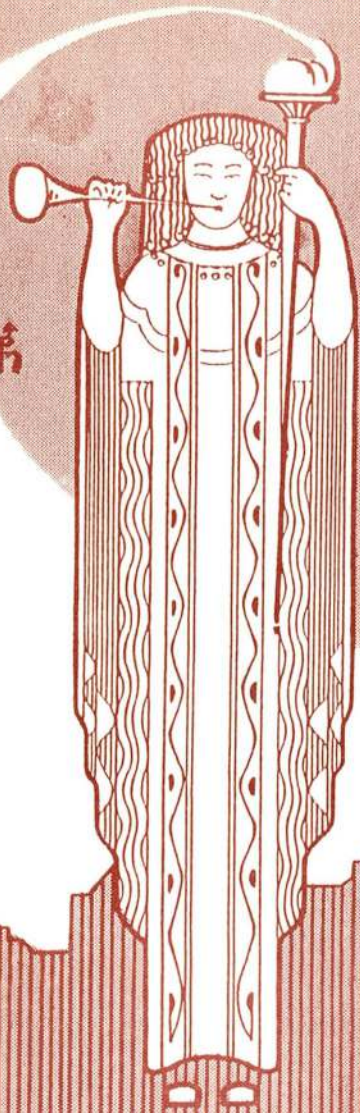
日本建築協會雜誌



第二輯　第一號

大正八年一月二十五日

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ發展ヲ期スルヲ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラント希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ヲ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラント欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ股會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ毀ヲ否スルノ行爲アリ、シルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ招集シ其議長トナリ會務ヲ處理ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トナスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トナスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告、討論會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

本會ノ行フ事業左ノ如シ

第十九條

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ會百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ク

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別贊助員ハ特別贊助費年額金六圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年二月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

關西建築協會雜誌

大正八年一月

改題

日本建築協會雜誌

關西建築協會改名

日本建築協會

改題之辭

我關西建築協會は現代社會の新時運に促されて呱々の聲を擧げたる以來、既に意義ある二星霜を閲し、幾多の畫策と着實なる期圖を實行し、世上識者の多大なる後援と會員各自の熱烈なる努力とに育まれて、今や確實なる基礎と遠大なる抱負を把持して益々社會に貢獻する處あらんとす。

顧れば我協會は關西在住の建築家の協應經營に據りて其端を發せしと雖、既に本會の内容と本會の事業は漸を追ふて輪廓を大にし來り、曩に深重なる意義を体現せる我通稱『關西』の二字を保留し茲に實名『日本』を加冠するの機運到來せるを祝福せざらんとするも得べからず。

時なる哉、平和到來の第一年、朝晴雪清らなる大正八年初頭に於て我『關西建築協會』は、元服改名して『日本建築協會』となれり。我敬愛信賴する現代社會の識者は莞爾として名付親たることを快諾せらるゝを信じて疑はざる也

斯くして我協會唯一の機關雜誌たる『關西建築協會雜誌』も其多難多事なりし一年有半、其奮闘努力の實績を經歷して茲に『日本建築協會雜誌』の題名を授けられたり。さらば名實相協ふ本誌の將來は益堅實なる發展を遂げんことを期して待つべき也。

茲に前途を祝福して改題の辭となす云爾。

日本建築協會雜誌 第貳輯 第壹號

目次

□繪
□本會第一回懸賞應募入選圖案（二色版）
□巴里市とヴエルサイユ市　□ヴエルサイユ宮殿（一）（二）
□ヴエルサイユ市と其庭園　□宮殿内の畫廊
□ヴエルサイユ宮殿平面圖　□庭園内の壯觀（一）（二）（三）（四）

△戰後の住宅政策……會員　片岡安……一
△東京大改造論（一）……會員　片岡安……二
△デモクラシーと建築……東京帝國大學教授　工學博士　佐野利器……一四
△英國に於ける都市計畫法……大阪高等商業學校　教授　法學士　伊藤眞雄……二三
△建築樣式論……特別賛助員　伊藤清造……二八
△都市と建築……會員　片岡安……四二
□大阪市市區改正に就て……東京帝國大學　教授　法學博士　渡邊鐵藏氏演……五五
□我國大都市改善の必要……内務省都市　計畫課長　池田宏氏演……六二
□都市の建築……

□都市改良問題……前内務大臣 法學博士 水野錬太郎氏演……六八
△現代社會觀（一）……會員 茅 海 生……七六
□神前結婚の過去及現在……七八
△戰後に於ける倫敦の住居問題（上）……會員 M I 生……八三
△京都古建築觀（五）……特別賛助員 伊藤清造……八九
△東大寺建築史（六）……會員 須藤眞金……九三
△回想錄（上）……會員 野 人 生……一〇三
△時報……一〇八
□都市計畫法案の內容……內務省都市計畫課
□建築法案の內容……同 上
□議院建築意匠設計懸賞募集に關する質疑應答……臨時議院建築局
△會報……一一四
△編輯たより……一二〇

附錄

ブリユツセル市建築條例（上）……一三頁

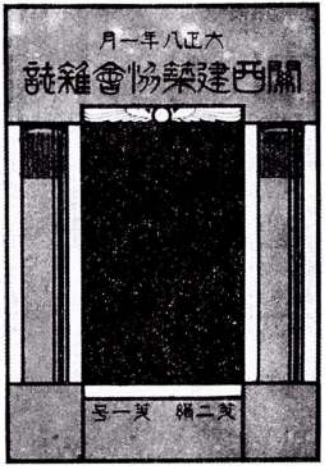
暖房 通風
製氷 冷藏
給氷 衛生
工事 其他

合資會社
高田商會

東京 丸之內
大阪 中之島

第一回懸賞應募入選圖案及選外佳作圖案

入選（内藤太郎君案）



入選（内藤太郎君案）



選外佳作（伊藤清造君案）



入選（松本儀八君案）



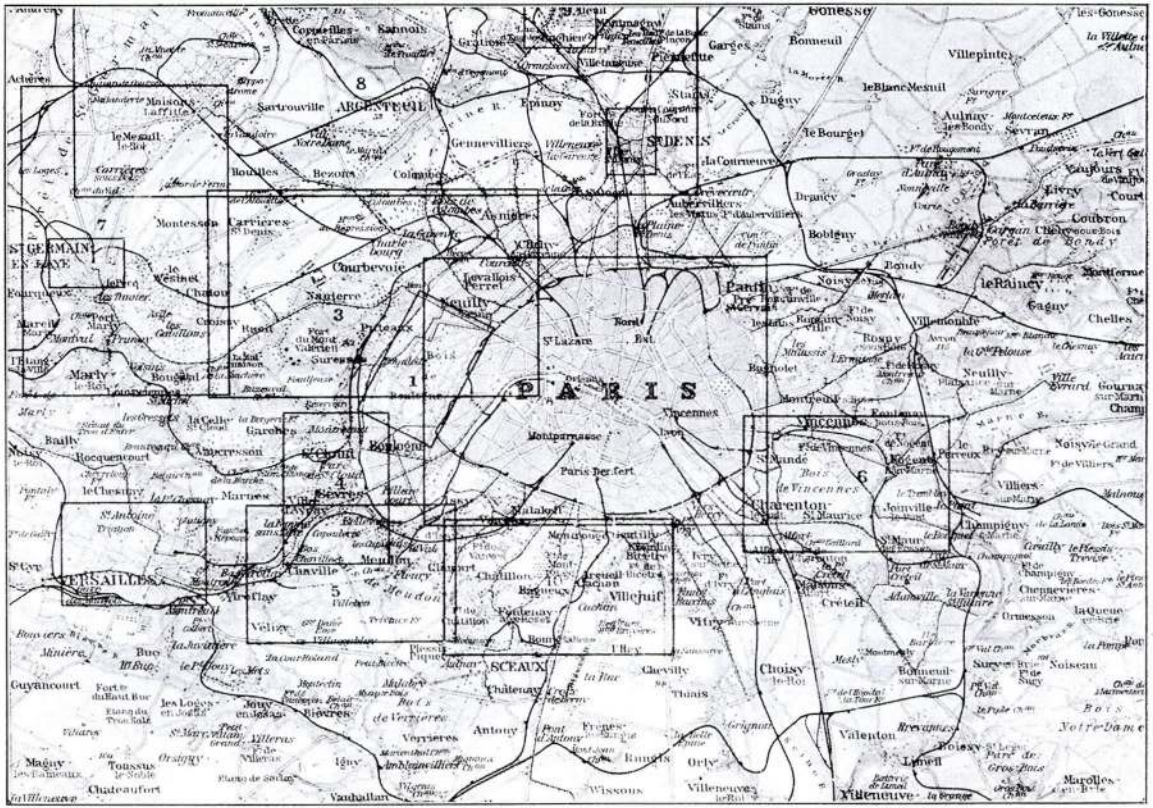
入選（古賀卿實君案）

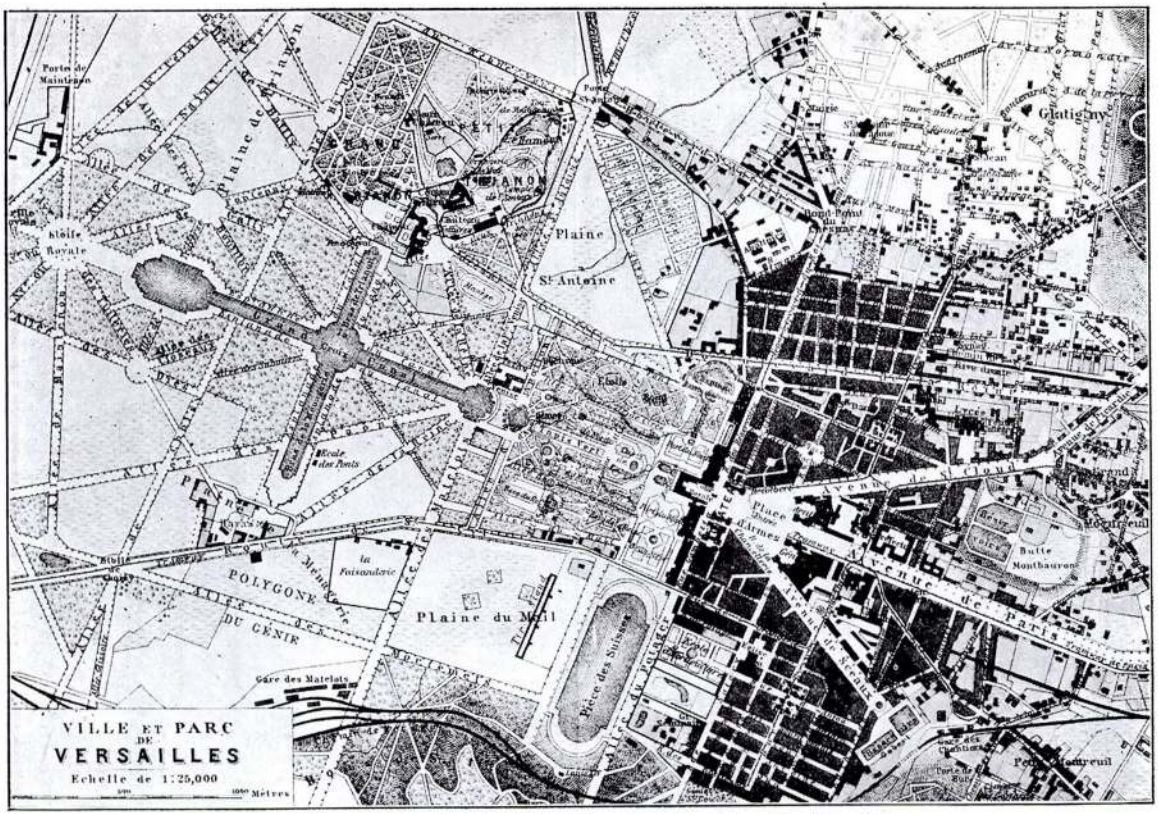


選外佳作（瀬川博君案）



注意　印刷の都合により色彩に變更を來したるは甚だ遺憾とする處にして作者の御寛容を乞はざるべからず

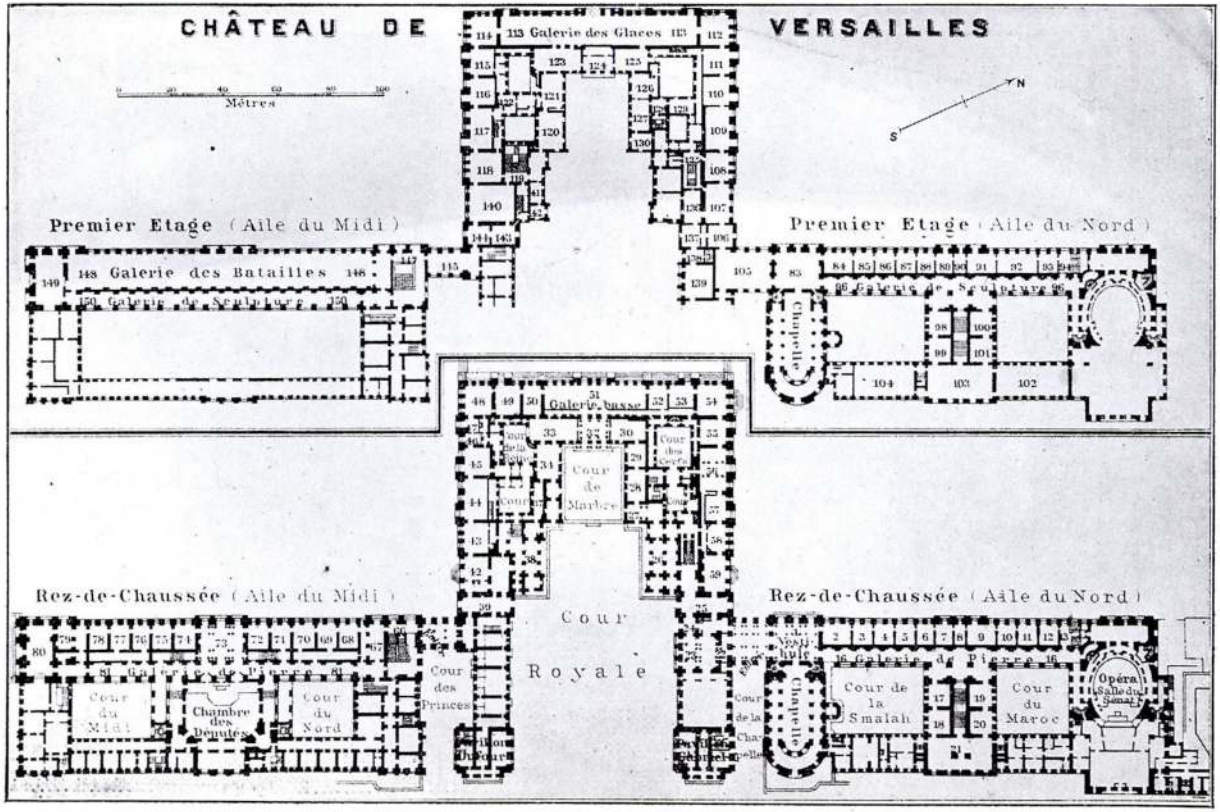

PARIS
VERSAILLES
SCEAUX
ARGENTEUIL
SDENIS
Gonesse
Villepinte
Aulnay
Sevran
Livry
Coubron
Clichy
Bobigny
Bondy
Pantin
Noisy
le Raincy
Gagny
Chelles
Villemomble
Rosny
Neuilly
Vincennes
Montreuil
Fontenay
Joinville
Champigny
Noisy le Grand
Villiers
Chennevieres
Creteil
Choisy
Bonneuil
Thiais
Valenton
Boissy
Limeil
Villeneuve
Orly
Rungis
Antony
Verrieres
Chatillon
Meudon
Clamart
Issy
Vanves
Malakoff
Montparnasse
Vaugirard
Passy
Auteuil
Bois de Boulogne
Suresnes
Puteaux
Courbevoie
Nanterre
Rueil
Nanterre
Colombes
Bezons
Gennevilliers
Asnieres
Bois de Colombes
Bois de Vincennes
Bois de Meudon
Bois de Boulogne
Bois de Bondy
Bois de Vincennes
Bois de Verrieres
Bois de Clamart
Bois de Fausses Reposes
Bois de Vaucresson
Bois de Rueil
Bois de Bezons
Bois de Gennevilliers
Bois de Colombes
Bois de Nanterre
Bois de Puteaux
Bois de Suresnes
Bois de Boulogne
Bois de Vincennes
Bois de Meudon



市ユイサルエヴるた然整衢街

佛王ルイ十四世が一千六百八十二年以降其居住地として居た丈あつて廣々とした此都は街衢整然として有名なる建物が澤山ある、ヴエルサイユ宮殿は實に市の中軸をなして居る。一帶に砂地であるから水のないのが缺點であるけれどもヴエルサイユ宮後庭の林泉には惜しげもなく水道の水を湛へてゐる。

ヴエルサイユ宮はルイ八世時代の獵狩地であつた時代の建物をルイ十四世が一六六二年に大擴張工事を初めてから豪華壯麗の大建物になつた、最初の建築技師はルイボー氏である。次いでジエー・ハーヂュアン・マンサール氏が關係した、有名な鏡の間は氏の造る所である其後氏は南北の兩翼を擴張した、全部完成したのが一六六八年である。

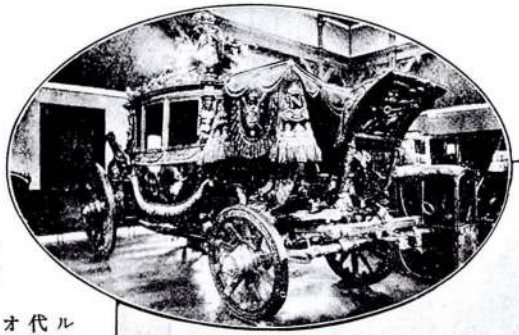


ヴエルサイユ宮殿平面圖

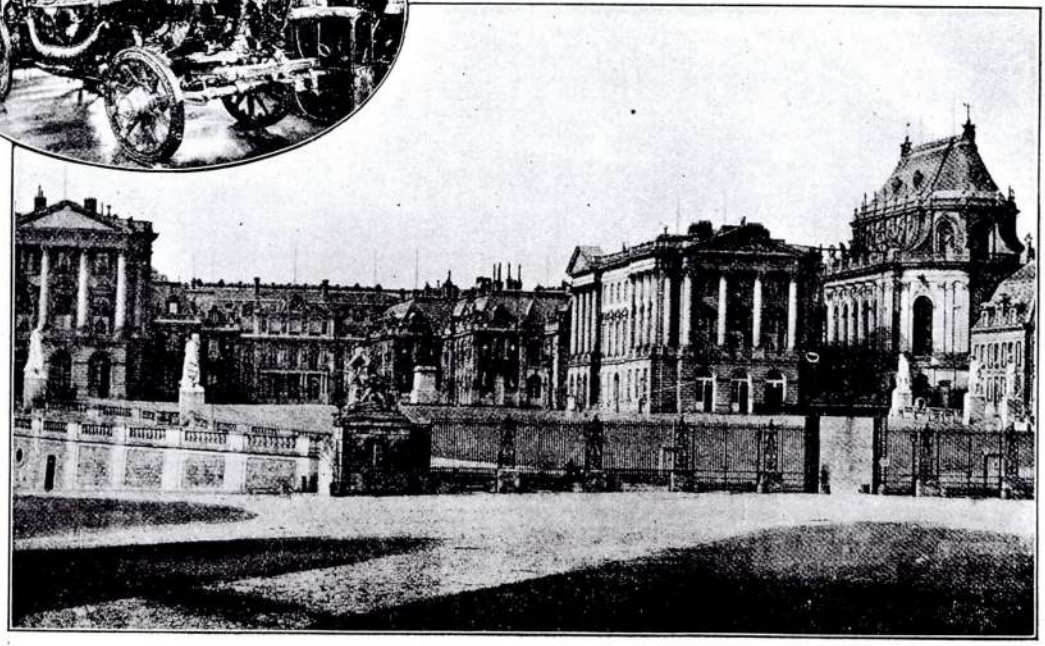


ヴエルサイユ宮殿の全景

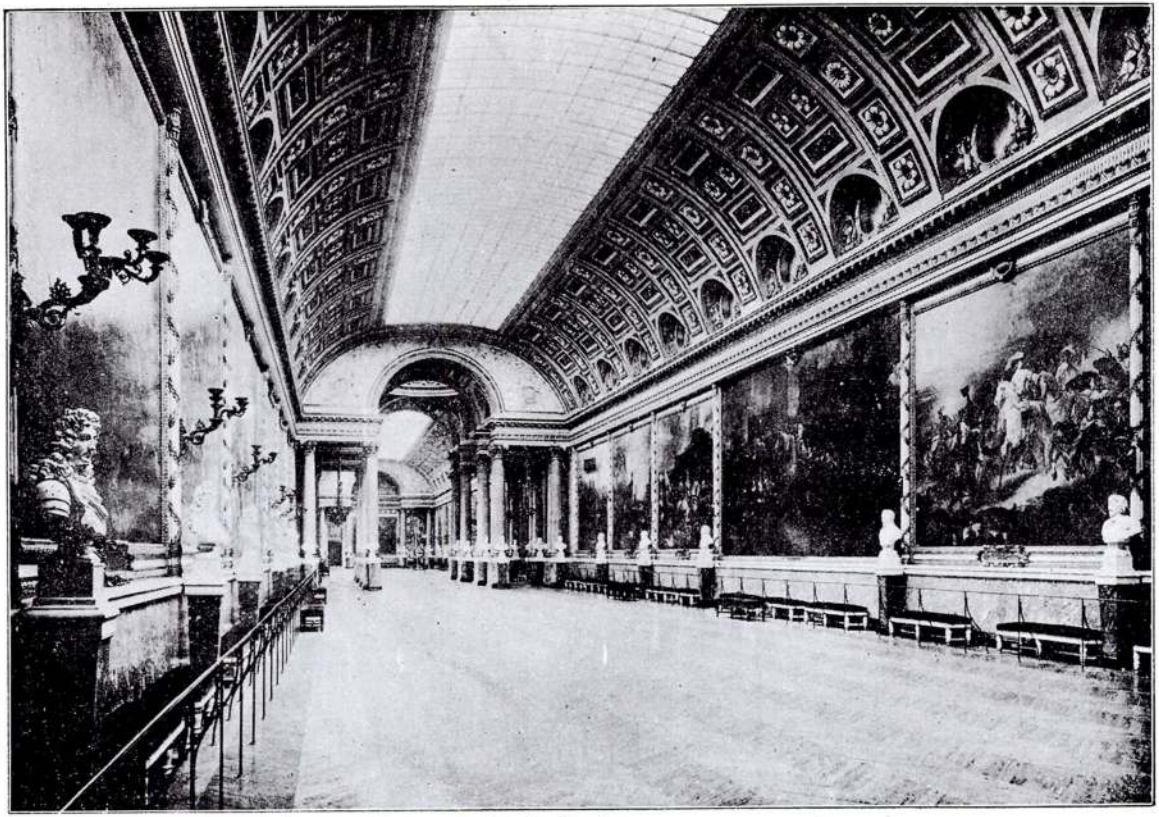
ヴエルサイユ宮はルイ十四世の居城であつた其規模の雄大と輪奐の美は佛國六大宮殿の一と數へられ亦世界罕に覩る一大宮城である、東京の青山御所は範を此宮殿に據つたとの事である、其敷地公園後庭及建物を容れて工費約四億萬圓に上つてゐるさうである。全部の工事が完成せらるゝ迄前後四十四年を費したのである。



ルイ王朝の豪華に成る此宮殿からルイ十六世は歴代の因果を負ふて斷頭臺に上された。其後ナポレオン皇帝亦此處に豪奢を極めた、上圖は其即位式に使用した馬車である、普佛戰爭の當時は獨王ヴヰリアム一世の本營となり獨逸皇帝の載冠式場となつた。今や時勢轉換兒暴なる獨帝の審判場たらんとしてゐる。

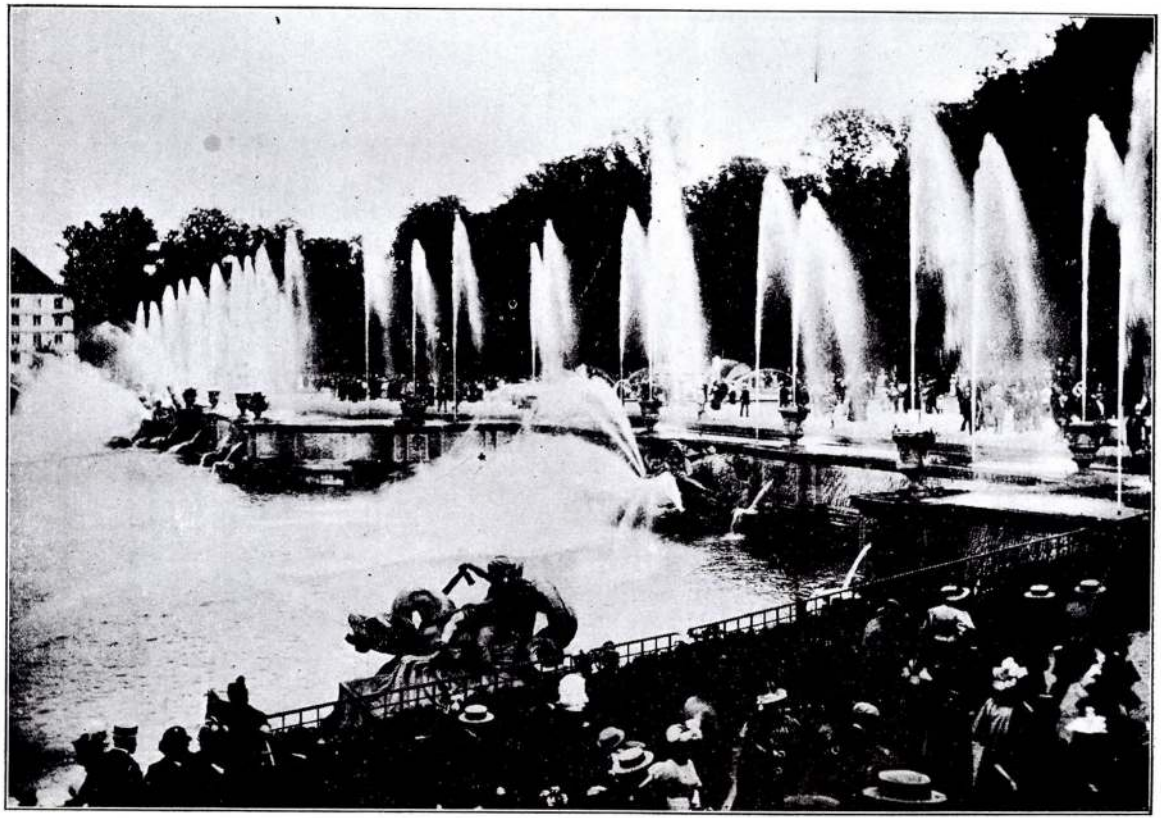


ヴエルサイユ宮殿の近景



ヴエルサイユ宮殿内「戰爭の廣間」

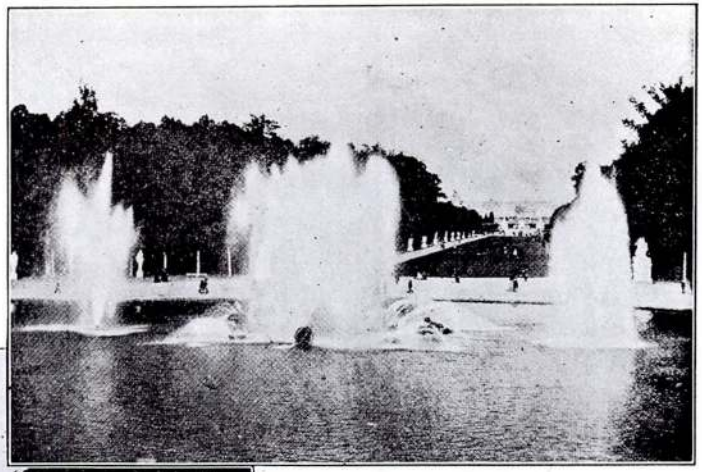
斯の室はヴエルサイユ宮殿南翼の大廣間である。佛國の歷史に現れた戰爭の繪畫をベルトラン以下近代の畫伯が彩管に成つたものである。大理石の半身像は孰れも戰死せる將軍提督の武勳を記念せるものである。今や世界大戰後の講和會場となつた殿內に集まる各國使臣は感慨無量であらう。



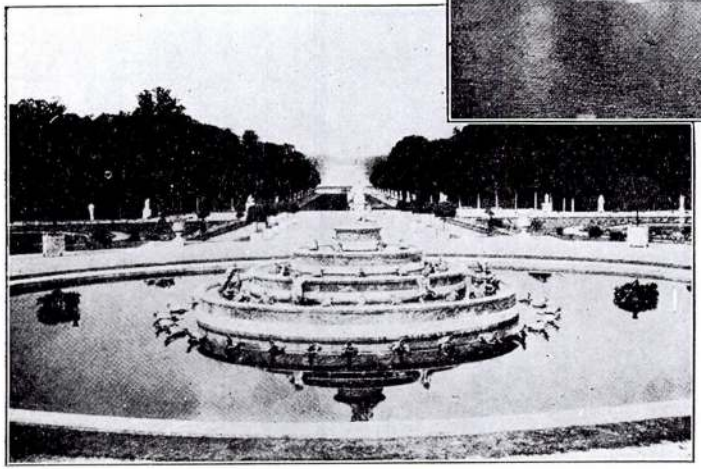
ヴェルサイユ宮殿後苑の海王池泉

無比の虚榮と空前の虐政のために咀ひの的となつた路易王朝の歡樂の跡である、國帑を傾けて後宮三千の麗膚を浴せしめた淫樂の池泉は又皇帝釣魚の樂園であつた、無數の巨魚は今に無心の姿を浮べて居るさうだが、風雨多年遂に世界平和の神の旅館となつたのである、一種の皮肉ではあるまいか。

ヴエルサイユ宮殿後苑の林泉

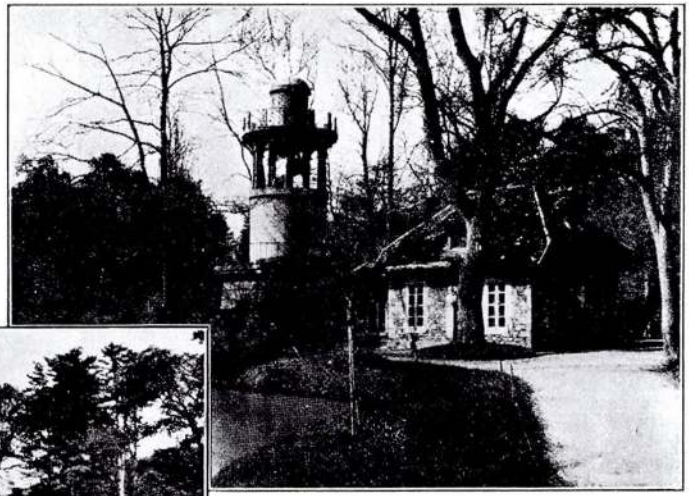


宮苑後庭の壯麗は遊覽客の眼を驚してゐる。豪華雄大の規圖を遺憾なく成就した當代建築家の手腕は實に後代の範となつてゐるのである。

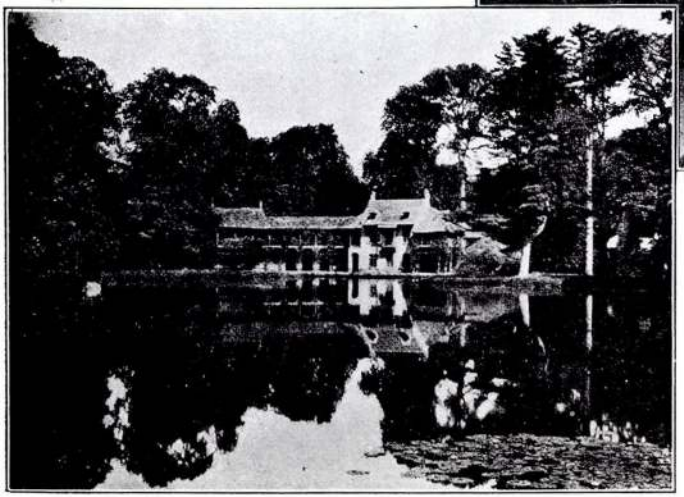


此等の噴水は一箇月に一回時間を期して噴出せしめて居るが數十本一齊迸射の清泉が日光に相映じ四邊の綠林と相應じて遊客の樂しき杖を曳かしめてゐる。

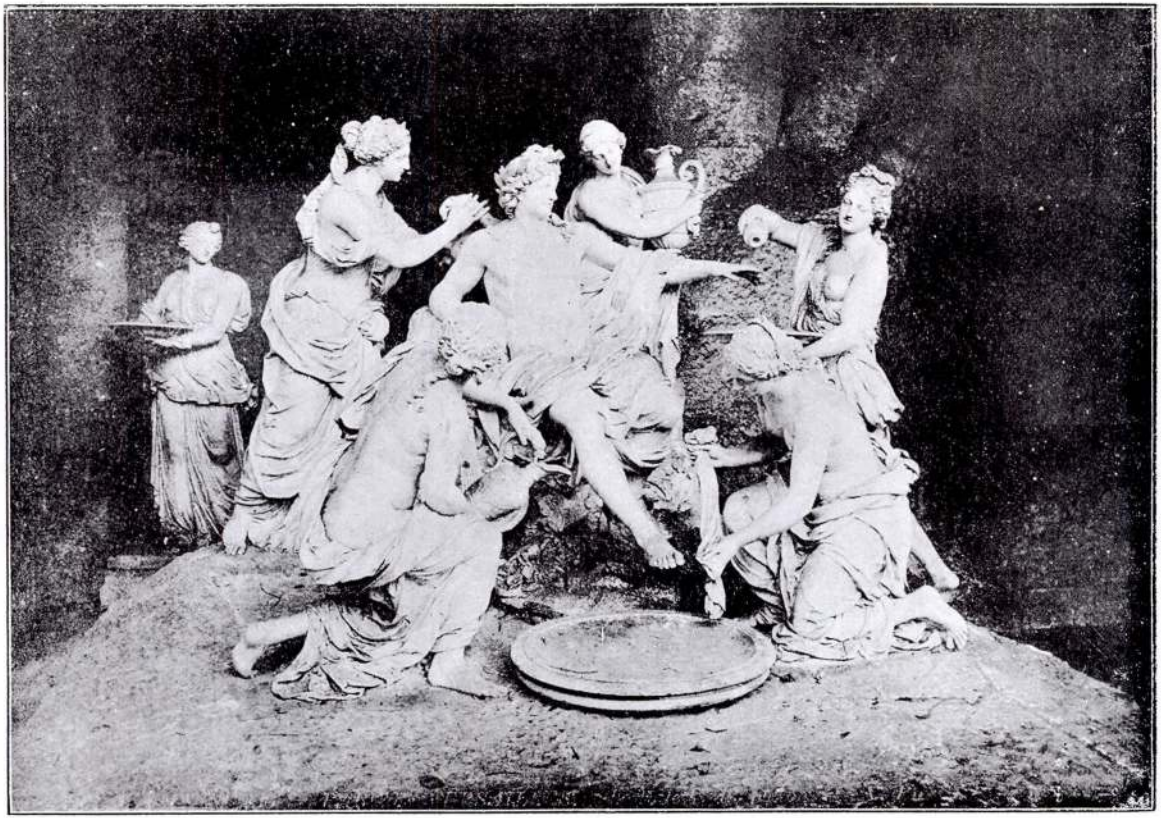
ヴエルサイユ宮殿後園の幽邃



プチトリアノン宮庭はルイ十四世が皇后マリー・アントネットの爲めに造りたる英國式の庭園である。今日にても尙多く舊態を存し當時植ゑ付たる外國樹も水車。藁屋も其儘に當時の俤を傳へてゐる。

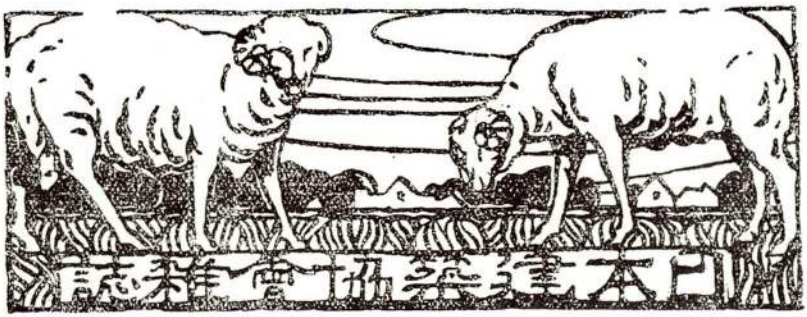


下圖は「瑞西の夢」を湖面を隔てゝ望んだ處である、幽邃な此の閑境を苦心經營したのは有名なる當代の庭園家アントレール・ノートル氏である。



「粧化のロポア」作傑の園後殿宮 ユイサルエヴ

これは有名なる「アポロの化粧」である幽邃靜寂なる後庭の洞窟に安置してある、アポロは「光明の神」である又「智識音樂及清純の神」とされてゐる、ルイ十四世は恒にアポロに自らを擬し遂に此を像らしめて其驕奢の傑を後代に遺した。古今絶觀の大作であるといふ。



戰後の住宅政策

社會生活の安定と其向上を期するは戰後經營の最大要求なり、食糧問題と言ひ、一般救濟事業の經營と言ふも、住宅の整備を以て其根蒂となさゞるはなし。我國にては古來住居は唯因襲の遺產として父祖傳來のものを使用するを一般の風習とせしも、今や社會の情態は一變し、世界的經濟の急潮に乘じて、其緊張せる活動を必要とするに至り、吾人の生活は新裝せる便利にして、然かも衛生的に、經濟的に又科學的に洗練されたる住宅に其本據を有せざるに於ては、到底其肉体と精神の健全なる發達を期するを得ざるなり。而して斯かる時代の要求は、之を社會各箇人の力に依りて解決せしむること到底不可能事たるを免がれず。此に於て國家は其國法の力により、公共團体は又其衆合力により一定の住宅政策を確立し、合理的の住宅公營又は其保護をなし、以て社會生活の安定と其向上を畫策するの急要たるを感ぜざる能はず。之れ即がて戰後經營の第一着手にして、各般の社會政策の根源なりとす。世の先覺者宜しく此政策の確立に努力すべきにあらずや。



東京市大改造論(二)

會員　片岡　安

一　總　說
二　交通狀態より見たる計畫
三　衛生及風紀論
四　經濟上の觀察
五　都市美觀
六　結　論

東京市街衢大改造の急要なるは敢て呶々するを要せぬ問題であるけれども、實際其方針を研究して具体的計畫を樹つるには、各方面の廣き深き觀察と考索を蒐め、始めて永遠的に彈力性に富める完全なる立案をなし得るのである。此編は直ちに其立案の基礎たる程精緻なる觀察を遂げたものではない。唯近時各方面の無自覺なる俗論や不徹底の近眼者流の意見が憶面もなく發

表されて、善良なる市民を迷はし、熱誠なる都市改良論者の不斷の骨折りを帳消したらしめんとする傾向あるを慨し、先づ第一着に現時の帝都たる東京市の大改造の大方針に就き聊意見を敷衍し、以て一般識者の覺醒を促がさんとするのである。吾人は我東京市を以て將來恒久的に我國の帝都たるべき都市とは思惟せざるものであるけれども、關東八州の中樞にして信越、東山、北海各地よりの集散市場たる意味に於て、將來永遠に益々發展の機運に向ふものであると信ずるが故に、新帝都建設の計畫とは何等杆格を生ずることなく、其大改造の急要は目下の大問題として取扱はねばならぬのである。

一　總　說

現時の帝都たる我東京市は德川幕府の居城たりし關係上、其實質形体は全く封建時代の都市其儘にして、最近二三十年間に多少其市區を改良したりとは言へ、大体に於て現代都市の實質を具備しては居ないのである。而して現代文明の趨勢は大都市の急激なる發展を促がすこと益急なるものあり、旁々我東京市は其都市の市區組織を一變せねばならぬ機運に到達したのである、否其機運は已に十數年前に到達したのであるが、朝野識者の間にさへ今日まで其機運を洞察し得なかつたやうな始末である。幸にも近時其大改造の急要を唱ふるもの續出し、我東京市の永遠的改善計畫は諸方面に論議せらるゝに至りしは、吾人の最も愉快とするところである。乍併今日まで唱へられし議論は主として其改善計畫の必要なるを說くに止まり、抽象的に其趨勢を推定する以外には何等具体的計

畫を發表したるものなきを遺憾とする。殊に其抽象的意見なるものも大抵は街路通過の際に目擊したる貧弱狹小なる事實に基礎を有する直覺觀に過ざるに於ては、都市の大勢より出發せんとする合理的推算論者は到底それ等の意見を聞くに勝へぬのである。

都市が漸次發展して、其人口を增し其地域を擴大する際に、舊來の市の中樞地區の狀況が如何なる變態に陷るやを考ふるに、先づ第一に其街路の交通雜踏を起し、第二には其交通機關の不完全を感じ、第三には衛生上の欠陷に惱み、第四には風紀の保全、生活の安寧を維持するに苦しみ、第五には都市街衢の体裁を亂雜不秩序に陷らしめねば已まぬのである。近代の文明國の都市が銳意其改善計畫を實施してそれ等の欠陷を處理し來りし徑路を見るに、其立案の方法及實施の手段必ずしも相全しからぬのであるが、其改善計畫を緊急と認め、着々其實行に努めつゝ來りし其精神に至つては、大差なきを見るのである。假令へば英國の諸都市は市の外延的交通計畫は疾くに其立案を樹てたけれども、內面交通機關の經營と交通雜踏の處理には甚だ立後れたる如き、或は巴里の如く都市街衢の体裁を第一として之を完備したにも拘らず、其衛生狀態の向上に於て甚だ遲鈍なるが如き、或は北米諸都市の大部に於て頻りに高層建築を建て連ねて經濟上の勝利を誇りながら今は其弊毒に勝へざらんとするが如き、數へ來れば各國の各都市それぞれ其欠点を暴露しつゝあるのは事實である。併ながら其大体の方針に於ては都市發展より生ずる上述の欠陷を防止すべき改善策に就て相當の考慮をなし其計畫を實施し又は實施しつゝあることを認むるのである。然るに我東京市は其發展に伴ふ交通處理に對する畫策を有するや、其頽廢せんとしつゝある衛生狀態を救濟して之を向上せ

んとする計畫を有するや、其市民の生活の安寧を保護し、風紀を維持するの方針確立せるや、或は都市として其体裁を具ふるや等數へ來れば一として何等の畫策を有せざるの狀態であると言ふを妨げないのである。

交通處理の不充分なる爲めに都市の發展が如何に沮害さるゝや、又現に日々市民が受くる其の活動能率防碍は幾何の分量に達するやを考ふる時は、我東京市の交通處理に對する經營振りの其不徹底さは驚嘆に値するものである。而して其當事者の態度は唯臨時の應急策に忙殺されて其以上には少しも考慮を費して居ないことを見る時に吾人は之を默過し得ないのも當然である。本年の鐵道時報新年號に東京市交通の現狀救濟に付き名士の意見を掲載しあるを見るに、何れも其改善の急要を認めざるはないのであるが、又全時に其意見の不透明なる点に於て大体一致するは見逃がすべからざる事柄である。

田尻市長曰く『十年後の社會は、決して今日の社會ではない、隨て彼の電車計畫の如きも、あれを以て十分とは言はれぬ、否甚だ不充分であるかも知れぬが、然し今日只今の事に差支へて苦んで居る折柄じや、二十年三十年先の事まではなか〳〵手が届かぬ。……成る程東京市の電車はその輸送力が不充分であるに相違ない、殊に朝夕通勤者の往復時間には異常の混雜を呈して居る、老人や婦女子の乘車は甚だ困難である、全く危險である、或は命がけかも知れぬ、然し何も命がけで電車に乘らぬとも好からうじやないか、一体日本人は徒歩する事を好まぬ、特に近來の都人士にそれが甚しい、僅か二三丁の處も電車に乘る、車に乘る、自働車を飛ばす、それも簡單に

乘れる事なら好いが、殆んど命がけじやないか、愚劣な話じや、第一不經濟じや。……通勤者が一齊に徒歩する事になれば、電車の輻輳は大分緩和せられる、電車を混亂せしむる主なる原因の一は、慥かに通勤者の乘車にある、乘車が絶對に惡いと言ふ譯ではないが、なるべく歩行くが好い、その人自身に取つては健康上に好く兼ねて經濟ではあり、又電車輻輳の緩和策ともなる。』

田尻市長の市電改善策は主として市民に徒歩を勸めるに過ぎない。徒歩主義は初歩の學校生活にあるものには或る程度までは實行出來るかも知れぬが。實際論としては全く空論であつて、田舍の小邑に適用出來る意見である。又其實行の出來るような田舍の小邑にては市街電氣軌道は經濟の原則により成立はせぬのである。以上の談話は田尻市長の市内交通機關に對する觀察の如何に狹小にして又如何に突飛なるかを見るに足るのである。東京市民が已に二百萬人を超へ近き將來に於て三百萬人に達せんとするに際し、尚市内交通機關の大擴張を考究せずして消極的に徒歩主義により、現在の應急策とせんとするが如きは、事余りに突飛にして殆んど問題とする價値さへないのであるが、今左に其大數のみを擧げて數理的に交通狀態の大樣を說明して置きたい。

東京市の市電線路は其延長百六十哩にして一日平均約一千臺の車輛を運轉し、一ケ年の延乘客數は貳億六七千萬人である。而して其乘客の增加は、大正元年（線路延長一四〇、四哩）より大正五年（線路延長一五九、一四哩）の間に於て約四千萬人であるから、今後四年計畫を以て着手された五十四哩の延長の出來する頃には、大正五年度の乘客數よりも更に一億人に近き增加を見るのは恐らく間違なき推定であるであらう。して見れば現在の主要線路たる日本橋通りの如きは今後四五年

を待たずして運轉不能に陷りはせぬかと思はれる。若しそれ都市の大發展と其活動力の增進に伴ふ交通量增加を考へ、歐米都市の如くに東京市民が一ケ年平均三百回の乘車をなすに至る場合を想像すれば、東京市電の乘客數は九億萬人を算することも、永遠策としては考慮せねばならぬのである以上は唯現時の乘客雜沓を一時の現象として取扱はんとする直覺論者の如何に淺識なるやを數字的に說明せん目的に過ぎないけれども、東京市內の交通を今後如何に處理せんとするやの眞贊の問題は、唯其等の數字のみを以て論據としたり、又は其計畫の基点とする譯にゆかないのは論ずるまでもない。

東京市が今日海上及運河の適當なる交通政策を有せざることは又非常に誤れる方針である、東京が折角東京灣頭に位地を占めながら其市街及運輸機關の系統が殆んど海上と無關係に出來て居ることは、東京市の今後の發展上に非常に不都合な点であると思はれる。東京築港の計畫は三十年前よりの宿題にして、憂國の士により數次其急要を愬へられながら未だ其解決の出來ないのは、如何に東京市民の無自覺なるやを示して余りあると言ふべきである。水上運輸の問題は主として貨物に關係して居るから、電車の如く直接其の行詰りを知り得る機會少しと雖も、都市の發展と其經濟活動力の增進に甚大なる影響を及ぼすこと、市內交通機關以上のものあるを知らねばならぬのである。現時の市內交通機關整備の急要なるは言ふまでもなきことながら、其方策としては當面の應急策と共に、外延的の交通機關との關係を基礎としたる內面的永遠計畫を考究して、其立案を樹立するを要するのである。而して其外延的交通計畫には陸上と水上との二方面が主從の別なく、互に一致相

助けるように組織さるゝことが肝要である。此点に於ては我東京市は全く其方針を誤り、幹線鐵道の配置と市内交通機關との連絡なく、水上交通との連絡に至つては全く其設備なきの狀態である、此等の諸方面の連絡を最もよく調和せしむる組織的永遠計畫を立案すること、之れ吾人今後の最急最要の問題でなくてはならぬのである。

近來地下鐵道の問題が稍眞面目に話題に上りつゝあるは、時代の一進歩と見られるけれども其議論概ね精緻を欠き、其計畫も主として現在の市内交通系統の上に一新機關を添ふる程度に之を主張するに過ぎない。吾人は地下鐵道が果して技術上平易に之を東京市の下町に可能ならしめ得るや否やを研究したものでないから、先づ其出發点に於て疑問を有するものなるも、東京市が漸次其地域を擴大する以上市内高速交通機關の急要を考ふる点に於ては、一般地下鐵道主張論者と一致するものである。然しながら實際鐵道幹線が市内を縦貫するを以て意とせざる現狀より考ふるに、先づ第一着に品川方面より上野方面に達する縦貫高速電車は高架線によるを捷徑とせざるを得ない。國有鐵道が高架線により市内を縦斷するを見逃しながら、市設の交通機關を全く別に取扱ふの要はない筈である。むしろ現在の鐵道幹線と市内高速電車とを一物に取扱ふ方針を採り相當の改善と調和を計るを最も適當の方策と思ふのである。而して山の手方面に向つて市内を横斷する線路は隧道式によるを最も便利とするが、其連絡に就ては多少の困難を感ずるであらうと思はれる。何れにしても我東京市はその中心地帶に於ける宮城及諸官衙の城壁隔墻によりて、其外圍地帶各方面の直接連絡を絶たるゝ中古式組織其儘であることが、其完全なる交通系統立案に困難なる障碍となつて居るの

である。其解決の方策に就ては交通狀態より見たる計畫の章に於て之を述べて見たい。

又本年より愈實施されんとする京濱間の新國道築造の如き、事固より必須の肝要なる計畫に屬するは言ふまでもないが、市内の幹線街路の計畫を未定の儘に殘し置き、又奥羽街道、中仙道街道等の連絡を考へば、鐵道及港灣終点との關係を考へざる國道の築造は、其成工の上に於て果して幾何の効果を發生するものなるやを危まざるを得ないのである。其他本年より運轉を開始せんとする市内乘合自働車の經營の如きは、其成績は唯全くの臨時應急策としての以外に何等市内の交通處理に貢獻するものではないであらうと思はれる。而して其反面に發生する損害に至ては蓋し容易ならぬものあるを知らねばならぬ。現在の我東京市の街路の築造面は殆んど其大部を軟弱なる泥砂の踏み堅めたるものとする狀態であるから、一噸以上の重量を四輪にて支ふる自働車の疾走に耐へられぬのは當然であつて、路面の凹凸損傷を急ならしめ、泥汁、粉塵の甚しき狀態を招致することは、一般市民の尤も苦痛とするところである。況して街路交通に關する制裁緩漫にして市民の訓練足らず交通警察の制度不備なる今日に於ては、乘合自働車に依つて生ずる通行事故の頻々たるは約そ想像出來ないことはないのである。交通警察の制度行届き、路面築造の相當に行渡りたる後に、始めて其効力を發揮し得べき乘合自働車の經營を、現時の過渡不秩序の時代に敢行せんとするは、聊か蛮勇の嫌なきにあらずやと思はれる。

乘合自働車によりて大都市群集の交通處理をなすことは、交通學者の一派によりては、最善の方策と見做されて居る位便利にして且つ彈力性に富む手段であつて、吾人も我東京市は所詮此方法を

最後の良策とすべきものであると考ふるけれども、倫敦市に於けるが如く其成果を擧げんには、全く上述の路面築造の完備と、交通警察の行届きたる後にあらざれば、絶對に之を採用すべきものでないのである。倫敦に於ては、市の中樞地帶には路面軌道を禁じ、地下鐵道及自働車に據らしめて居る、而して乘合自働車の乘客は大体に於て市内交通機關乘客總人員の三割以上を占めるのである一九一三年度の統計によれば、全市内交通機關乘客延人員は二十三億七千余萬人にして、乘合自働車のものは正さに七億三千三百九拾萬人に達して居るのである。我東京市の電車が參億に足らざる乘客を適當に處理し得ざるに、彼は乘合自働車によりて其倍數以上の乘客を取扱ひつゝあるを知る時は、我市民は其交通處理に關してもう少し自覺すべきではないかと思はれる。

要するに交通機關の整備と街路系統の組織は、其都市の動脈たるべきものであるから、其徹底的計畫を立つることは、決して理想とか空論とか言ふべきものではない。都市の凡ての經營の根本であると言ふ意味に於て、當事者たると市民たるとの別なく、共に一致協力し深き考慮を費して、緊急に其立案をなさねばならぬのである。昨年我土木學會、鐵道協會等の專問學者は相會合して、我東京市の交通處理に關する方策の研究に取かゝつたのであるが、未だ何等具体的の意見を發表せざるのみならず、輿論の喚起をも努めざるは甚だ物足らぬ心地する。吾人は敢て土木專門家の意見を侮る譯ではないけれども、斯かる社會全般に關係する大問題は輿論と共に協力一致して其立案をなさんことを希望せざるを得ない。何れにしても鐵道協會や土木學會などの博識先覺の士が、今日まで我東京市の交通狀態行詰まりを傍觀し來りし態度は、余り見上げた仕打ではなかつたと言はれ

ても或は辯解の辭はなからうと思はれる。

次に我東京市の衛生上の設備は如何なる程度にあるや、その市民の健康狀態は一般文明都市の程度に達しつゝあるやを見るに、之亦甚だ不滿足の狀態に逡巡して、漸次行詰まりの事實を暴露しつゝあるを如何にも淋しく感せざるを得ないのである。其上水給與は十分に行渡り居るや、下水設備の完成するは果して幾何の年月を要するや、汚物處理の方法は如何、結核療養所の設備は如何、市場の統一及其經營は如何、數へ來れば一として文明都市當然の衛生設備を完全に經營しては居ないのである。隨つて市民の衛生狀態の向上は遲々として進捗せず、其死亡率は我國六大都市中の最高位を占め、世界の大都市中露西亞、墺洪國を除きては其右に出づるものなきの狀態である。殊に肺結核患者の多數なる、腸窒扶斯患者の依然として其病勢を低下せざる等は、到底現代の文明都市の衛生狀態と見る譯にゆかないのである。之を歐米都市の三十年前の狀態に比するか、或は黑人都市又は支那朝鮮の都市の程度と比較すべき狀況であつて、現代の進歩せる衛生設備を有する都市とは比肩するを許さざるを遺憾とする。現代の文明は人生の健康を向上し、其長壽を保護するを最美の精華とするのである。此意味に於て我東京市は尙文明未開の都市として取扱はるゝ憂なきにあらず我々文明國民として寔に恥かしき次第である、衛生上の設備に就て現代科學の敎ゆる最善を盡すこと、之れ我東京市が今後最も急速に努力すべき要点でなくてはならぬのである。

更に歩を轉じて我東京市民は常に其生命財産を安固に保全し得るや否やを考ふるに、其不安定と危害の危險率は過去三百年間恐らく文明國中稀に見る程の高率なるものであつた、又現在は其境遇

より未だ脫却し得ないものと認めねばならぬ。江戸城開都以來三百年の間に於ける大火は實に頻々たるものであつた、のみならず其損害の莫大なるものありしは記錄によりて約そ想像出來るのである。彼の明曆三年の大火の如き其最も著しき實例であつて、恐らく古今東西を通じての最大の災害であつたと言はれて居る。又震災に關しても可なり恐るべき慘害を受けた事實少からず、就中彼の安政二年の震災は羅馬のポンペイ埋沒の慘害と東西相對の稀有の出來事と言つても可いのである。而して我東京市は古來數次被り來りたるその恐るべき火災及震害を、現在及今後に亘り之を十分に防禦し得るやと言ふに、實はその防備に就ては餘り徹底したる組織を有して居ないのである。即ち吾人の生命財產を安全に保護すべき家屋そのものが、脆弱可燃性の木造建築を主体とし、偶然の出來事に對する抵抗力さへもなく、市民は常に戰々兢々天運に一生の安全を依托すると言ふも不可なき狀態に甘んじて居るのである。唯因襲の久しき其苟且主義の生活を左程苦痛と感ぜざるまでのことにして、現代の預見思想より觀る時は、全く野蠻未開の風習としか見る譯にゆかない。

斯かる不安定の都市は、其市民各個の生活より見るも、實に恐るべきものであるが、更に之を國家の前途に考ふる時は、其發展上の基礎に常に不安の分子を加味するのであつて、決して此の儘に今後の文明を繼續せしむるを許さぬのである。宜しく市民の活動に便宜と安定を與ふべき組織に改善して、各般の建設を最も科學的に合理的に又秩序よく進捗せしめねばならぬのである。我東京市の現時の雜然たる不秩序は全く現代文明より見て、一組織の下にある都市の狀態と見るを許さぬので、其膨脹の順序及經營の無方針なる等より推定しても、全く中古式小都邑の集團に過ぎないので

ある。今や世界の文明は益科學的に、組織的に、又世界的に發展せんとする機運殷盛なるものあり獨り我國のみ中古式の文明を其首都の構成に存續しつゝあるは、餘りに甚しき時代錯誤にはあらずやと思はれる。即ち現狀の改善が時代機運の促進であると言ふ意味に於ても、今や我東京市は其大改造を要する時機に瀕して居るのである。

要するに、我東京市は舊江戸城を其儘襲踏したる一中古式都市なるが故に、其組織は中樞區に於ける幕府の居城及各武家の邸宅が、其都市の凡てであつて、周圍の市街は唯中樞區に於ける士人の消費を受負ふ商人の集團に過ぎなかつたのである。之れ其市街の組織が現代の經濟生活に添はざる所以であつて、敢て之を怪むの要はないのである。故に若し我東京市を現代の經濟組織に合致せしめんには、一大改造の決心を以て其經營の衝に當らねばならぬのである。試に思へ、元祿時代の市內外の交通狀態と、現代及今後の文明が必要とする交通狀態との間に於ける甚しき相違は、其市街の組織に一大改造を要求すること當然であつて、唯其一部の道路擴築をなす位では到底其目的を達し得ない筈である。又之を經濟的に考ふるに、其市民の營業及其他の活動が火災その他の災厄に對して、絶對に安全ならざれば、到底眞實の組織的發達を期することは出來ない筈である。之れ吾人が我東京市の大改造に關する方針を立論し、聊か具体的に其計畫に觸れ、以て先覺の士に愬へんとする所以である。（總說終）



「デモクラシー」と建築

東京帝國大學教授
工學博士　佐野利器

（於本會第一回大會）

今日關西建築協會の請待に應じまして、暫時のお話を致しますことを光榮に存じます。

題しましてデモクラシーと建築と致したのであります、其の意はデモクラシーの思想が建築に及ぼした影響に就てお話しやうといふのではない、寧ろデモクラシー思想に基いた建築觀と言ひますか、或は更に適切に言へば建築者としての社會觀と申上げた方が宜いかと思ひます。デモクラシーの思想を言ひますと、或は皆さんから危險思想であるかの如く考へられ勝でありますが、私の話は建築談であります、建築は堅實本位の技術であります、堅實な基礎の上に堅實に築造すべき技術であります、從つて此の談には危險なる分子を含む筈が無いのでございますから豫め御安心を願ひたうございます。

デモクラシーの思想とは何を言ふのでありますか、私の信じまする所に據れば、否寧ろ私の申します所のものは、萬人の意思の平等を謂ふのであります、平等なる意思といふ事を指すのであります、兵馬の權力とか又は金錢の權力とか所謂兵權金權といやうな者に對しまして、人間本來の權力であるべき所の人權を指すのであります、露西亞を崩潰しました所の所謂過激思想、或は獨逸を支離滅裂ならしめんとしつゝあります所のボルシエビズムといふやうな所謂危險思想を指すのでは無いのであります。全く意

味の異つたものでありまして和衷共同の精神に基いて、我が國体に就いて言へば、益其の基礎を鞏固にすべき結果を企圖する所の主義であるのであります。諸君、デモクラシーの思想は何に對して起つたものでありますか、一言にして盡せば主として金權に對する人權の覺醒であると思ふのであります、金の權力の無遠慮な或は無作法な跳梁、跋扈に對する人間本來の權力の覺醒であると思ふのであります、社會組織寧ろ經濟組織に對する反撥の聲であると思ふのであります。近世に於ける理化學の進歩發達といふものは、經濟組織をどう變化するに至りしかに就いては私の申すまでも無いことでありますが總ての有ゆる家庭的の小産業が大産業組織に變じましたのであります。又變じつゝあるのである。從つて社會は大資本家と勞働者とに二分せられやうとしつゝあるのであります。所謂中産階級なるものは漸々に逐ひ落されまして勞働者側に入り、世を擧げて大資本家と勞働者との二つに區分されんとしつゝあるのであります、試みに歐米各國の財産調べを擧げて見やうと思ひます。尤も之は戰前の調べであります。戰前に於て世界一の金持の國であると言はれた英吉利に於て大金滿家を始めにして駢べまして、其の中の百分の二の人間を取りますと其の百分の二の人間の所有して居る全財産といふものは、英吉利にある所の全財産の七十二プロセントを占有して居るといふことであります。乃ち其の殘り二八プロセントを九十八プロセントの人間が又不平等に分割して持つて居るといふ有樣であります。佛蘭西に於ても此の百分の二プロセント即ち名付けて金滿家といふならば人口の百分の二に占有せられて居る全財産は國の全財産中の約六割であるさうです。獨逸に於ては五十九プロセント、亞米利加に於ては五十七プロセントであると聞いて居ります。此の如く世界一の金持の國であると言はれて居ります所の英吉利は之を言ひ換へますれば、同時に世界一の貧乏人國と謂はなければならぬのであります、一面から言へば悲慘なる國であると申して差支ないの

であります。此の如く富の不平等な分配になつたことは、要するに所謂自由なる産業、自由なる經濟の組織に基くものと考へるのであります。現在のやうな自由經濟組織の續行する間は所詮此の結果を來すことを免れぬと思ふ。日本に於ても現在の自由經濟の歐米の例に倣つて此の儘に經濟組織の繼續するならば、假りに金持の國となることが出來たとしても同時に悲慘なる貧乏人國に陷ることを覺悟せなければならぬと思ひます。實に自由經濟組織は同時に金權政治其のものでありまして、一方から言ふと萬民に對する生活難の原因であります。元、生活難といふのは何でありますか、所謂生活に必要なる物資の缺乏に外ならぬのである、世の中の幾千萬の勞働者が朝から晩まで汗水流して働いて居つて產業に從事して尙且物資の不足を告ぐるといふことは何の爲でありますか。即ち朝から晩まで所謂生活に不必要なる物資の製造に從事して居る結果であると思ひます、若し世の中の幾千萬の勞働者が擧つて生活に必要な食物を作り衣服を造り、家を造りましたならば、茲に物資の缺乏はある筈が無いと思ひます、即ち生活難の氣遣ひは無いのである、ツマリ生活難の存するのは朝から晩まで骨を折りながら、生活に必要な品物を造つて居らぬ結果で、勞働者自身其の必要とせざるものを製造しつゝある結果に外ならぬと思ひます、諸君は試みに生產工場種別表を御覽になると判ると思ひます、如何に多くの勞働が無益なことに浪費せられて居るかを知ることが出來ると思ひます、又卑近なる例を取りましても彼の主要なる交通機關である所の自動車が最も多く如何なるものに利用せられて居るか、即ち遊治郎、藝妓等の合乘に用ゐらるゝことが最も統計上多いといふことを聞きますること、如何に諸種の重要なる機關が無益に浪費せられて居るかの一ぱんを知ることが出來る、此の如き勞働の浪費といふことは結局自由の購買力自由の需要に對する自由なる供給を可能ならしむる所謂自由經濟組織の弊であることを私は感じて已まぬのであります。自由經濟組織なる

ものは生活難を導く所の因であり同時に金權政治の本である、諸君は歐洲の自由經濟金權政治に對して果してどういふ感があられまするか、一身一家眷族を犧牲に供しまして國難に赴き血稅を拂ふ所の多數の壯丁がある一方に、同一の原因に依つて美酒美食に飽くことを得る所の成金を輩出し得る此の金權政治或は自由經濟組織に對して誰か心から正當なりと思ふものでありませうぞ、又國に正貨が增加したといふことは慶すべきことには違ひないと思ひますが、併しながら同時に其の當然の結果として最も神聖なる業務に從事して居る小學敎員其の他多數の餓死に均しき悽慘なる生活に陷るものを生ずるやうな所謂自由經濟組織金權政治といふものに對して誰か心から之で宜しいと思ふものでありませうぞ、實に私はデモクラシー即ち意思の平等平等意思の叫びといふことは當然のことゝ思ふのであります。

然らばデモクラシーは何を要求するのでありますか、如何にして萬民を幸福ならしめんと欲するのであるか、デモクラシーは元意思の平等である、所謂人權を主義とするのである、簡單に之を言ひますならば欲する儘を自由に申述べませうならば、先以て大々的に萬民の權利を擴張することにあると思ひます、即ち選擧權の擴張である。先づ以て人權を認むるといふことである、而して同時に公權の擴張であると思ひます、所謂中央集權に依つて盛に社會政策を行ふにある、經濟運營の如きは擧げて之を公權の管理に屬せしむるといふことにあります、斯うやつてこそ初めて意思の平等も行はれ、人權の主義も行はれ、和衷共同して萬民が幸福なることを得るのである、而して國家は所謂私の觀る所を以てすれば遂に斯くならなければ滿足の出來得べきものではないと私は思ふものであります而して斯くなる爲には平穩無事に少しの危險無しに最も安全に茲に到達するの途は金の權力を所有して居らるゝ所の金滿家諸君の自發的の公共心に待たなければならぬと思ふ金滿家諸君のデモクラシーの思想に待たなければならぬと思

ひます。

茲に私が柄にもなきデモクラシーの說を申述べました所以は、第一に意思の平等なる思想は私をして之を述べしむるまで普及した思想であるといふことを肯定して頂きたい爲と、モ一つは共同生活の單位であるべき所の都市の生活即ち市民生活の向上に就いて論ぜんとする所の前提となさんと欲したのであります。

實に都市生活を幸福ならしむるの途は詮し詰めればデモクラシーの思想、所謂自發的の公共心を金の權力を有する者が有つにあると申したいのである、市は自治である、讀んで字の如く自ら治むるのである、市は如何にして自ら治めつゝあるかは私の申すまでも無いことで、市會があり市參事會がある、市の大小の政事は悉く市會の決議を經るのである、市會は一の議決機關ではありますが殆ど市の全部の行政を爲すものであると看て差支ないのである、而して此の市會を形くる所の市會議員は如何にして選まれるかを考へて見て頂きたい、即ち都市の中には約二乃至三プロセント（百分の二乃至三）の比較的多額納稅者なる公民がある、百分の二乃至三と言へば前の歐米の財產調べを揭げました時に述べた金滿家と唱へた數に稍均しいのであります、其の公民を三分しまして而も納稅額に依つて不平等に三分して、各分が市會議員の三分の一宛を選擧し得る所謂三級制度なるものが是であります、大阪市に就いて言ふならば、六十六名の市會議員の中其の三分の一は特別に大きな金滿家數百人に依つて選擧せられ、他の三分の一は中等の金滿家數千人に依つて選出せられ殘る他の三分の一は殘りの數萬人に依つて選出せらるゝのであります。而して他の百幾十萬の市民は一人の代表者をも有たぬのである、斯ういふ制度でありますが故に、若しも假りに一級二級の代表者が意思を同うしたなれば三級以下百幾十萬人の意思の如何に拘らず市政を施行することが可能なる組織であります、恐らく諸種の制度中市の政治程金權の政治は無いものであらうと私は考へます。實にデモクラシーの思想

は萬民に必要なるにあらずして金持階級の者に殊に必要なる思想であると思ひます、若し金滿家階級に所謂人權主義、デモクラシーの理解が無かつたと假定したならば、市民生活は實に悲慘なるものに陷らなければならぬといふ結論が出るのであります、先程關博士は英吉利の宰相ロイドジョージ氏の演說を引合に出されましたが私も之を先月の二十一日の新聞で一見しまして感慨無量でありました、英吉利の宰相は殊に舊來の金力制度の非なるを論じ、而して最後に斷案を下して前の關博士の引用せられたる通り所謂住居問題は國家的事業ならざるべからずといふ結論を述べられたのである、元來英吉利は餘程以前から金權の弊に陷つて居る國でありまして、從つて之を救うが爲に國民の生活難を救ひ、彼等を衞生的に救うが爲に社會政策として住居法なるものを設けて居つた國であります、而して國家も公共團体も此の住居問題に對しては相當の努力を既往に於て爲し來りまして、他の何れの國よりも此の點に於て最も力を注いで居つた國であるにも拘らず遂に宰相をして此の如き言を爲さしむるに至つたのは、畢竟住宅が猶非衞生的であるといふだけの單純な原因では無いと私は思ひます、今に於て英國は金權政治に對する何等かの異つた考へを以て事を爲すにあらずんば遂に彼の歐洲の他の列强が被つたやうな過激派思想に依つて國を覆へさるゝ憂が無いではないかと案じたのではないでせうか、私は單純な住居問題のみでは無いと思ひます、今に於て大に考慮し注意する所が無かつたならば萬民の幸福を得ることが出來ないのみならず、甚だしきは國を覆へすやうなことになりはせぬかといふことを惧れた結果、ロイド・ジョージ氏をして此の如き言を爲さしめたものであると考ふることが果して誤りでありませうか。

近來米國に於ても同樣なことが察せらるゝのであります、ウイルソン大統領が自ら講和に臨まれるのは、其間に思想上の大なる問題が含まれて居るものであると考へることは果して誤りでありませうか、亞米利加も近來は大に中央集

權、公權を擴張致しまして金力の自由を束縛して居ります、而して大に社會政策を行はんとしつゝあることは、既に諸君御承知の通りであります、私共の手許に參りました所の建築學の色々な雜誌を見ましても、近來は殆ど毎號住居問題を國家の社會政策として論ぜざるものは無いのである。諸君萬民を幸福ならしめんが爲、國家を泰山の安きに置かんが爲めには金權の無遠慮なる自由を許すべきではない、萬民を幸福ならしむるの最も安全なる途は實に金權を有する所謂金滿家諸君の公共心即デモクラシーの思想に依るべきであるといふことを私は感じて止まぬのであります、卑近な一例を申すならば、市内に於ける邸宅の宅地でありますが、一軒の住宅として數千坪の土地を占有して居る人があります、都市の生活には一定の限度がありまして一人に非常な大地積を占領せらるれば他の幾十百人は住む場所を失ふに至ることになる、大阪には割合に少いことゝ考へますが、東京には數萬坪の一宅地があります、一萬坪の宅地は優に一千人の住宅地に用ゐることが出來る、理想を言ふならば都市に於ける宅地の一家に對する最大限はあつて宜い筈である、一方に於て都市の人口密度を不適當ならしめざらんが爲に、一人に就いての最小限度に就て心痛せねばならぬ時に達して居るのであります、それにも拘らず一方に於ては多數の市民の住居に當つるを得る所の大なる宅地を一人の占有して居ることは決して可と謂ふべきではない、又先刻葛野工學士の述べられた中にもある如く、公共的の建築物は萬民の享有なるべき性質の建築であるから之は別問題でありますが、一私人の建築物に非常な豪奢を極めて之を誇とすることは、所謂勞力及び材料の浪費であります。只之を實質的ならしむる事に於てのみ其の可なるを認むる、都市の家屋の要件の一は其の耐火的なるにあります、願くば凡ての都市建築は耐火的なれ、少くも區劃、線路を畫してなりと耐火的なれ、實に耐火は家屋密集上の要件である、斯くの如く都市には實質上の必要なる欠くべからざる要求があり

ます、之を充すことこそ、貴むべけれ、誇とすべけれ、一富豪の金的誇たる豪奢それいまわしさの極みではないでありませうか。

建築談を續けますことは時間の關係上茲で切上げまして、最後に未だ申上げたいことがありますから其事のみを申述べやうと思ひます。前に市政に就いて市會のことを述べましたが再び市會の問題に觸れたいと思ひます、市政は市民生活の殆ど全部に干與する所の、廣汎なる權限廣汎なる職務を有して居るのであります。市政中最も重要なる事項の一ツは所謂都市計畫事業であることは私の申述べる迄も無いことで都市の發達と人口の增加と共に又都市の產業の發達と共に都市は之に伴て漸々に改良せられなければならぬものであります。都市の發達と共に都市が改良せられずんば都市の發達は阻害されるのみならず、市民生活は段々悲慘なるものに赴くである、當大阪市には幸ひにして理事者として關博士のやうな又直木博士のやうな有數の學者を有して居られます、恐らく其の畫策は偉大にして且貴重なるものであらうと思ひます。併しながら市會が之を欲せざれば幾ら貴重な畫策と雖も反古紙同樣である、屢私は他の市會に就いて觀察しますのに、市會に於ては所謂市民の負擔輕減の名の下に隨分貴重なる畫策が葬り去らるゝことがあるのであります。併しながら考へて見ますると、市民を代表し市民の負擔輕減といふことを述べる時に、果して市會議員は市民を代表するものであるか否やを思ふ者であります。時の市會に於て欲する所は百幾十萬の市民の欲する所であるや否や疑はしいこともあるのであります。又市會の欲せざる所は必ずしも百幾十萬市民の欲せざる所であるとも極つて居ないと思ふのである。實に市の行政は金權に依つて自由にし得る制度であるだけに、デモクラシーの精神は殊に金權諸君に理解して頂くことを必要とするのであります。冀くは多少なりとも購買力を有する諸君、大に購買力を有する所の諸君、所謂金權諸君は其の購買力を濫用することなく、此の人權主義に基いて和衷共同の精神に依つて、一口に言へば此のデモクラシーの思想に基いて、萬民の爲に幸福なる途を講ぜられん事を希望して已まざるのであります(了)



英國の都市計畫法 (一)

大阪高等商業學校敎授 法學士 伊藤眞雄

余は本誌第壹輯第五、六、七號に於て、英國に於ける「住居」及「都市計畫」法令と題し、先づ同條例の第一編「勞働者の住居」に關する規定の要領を說明し、次に便宜上第二編を後に廻はして先づ第三編『府縣保健醫員の任命並に其職務』及び府縣の公共保健並に住居委員の設置に關する規定を要說した。故に茲には更に第二編の「都市計畫」に關する規定が掲げなければならぬ。仍て以下便宜上標題を改めて英國の都市計畫法と稱して之を述べやうと思ふ。

都市計畫に關する規定は「住居」及「都市計畫」條例の全規定七十六節の中僅かに十四節を占むるに過ぎぬものであるけれども、此規定は實に英國の住居政策上初めて都市計畫法併用の新時代を開いたものとして最も重要なるものである

此條例の法案は一九〇九年二月十七日に衆議院に提出せられたのであるが、同年四月五日に第二讀會が開かれた時其席上に於て、此法案の提出者であつて當時の地方政務廳長官として有名なるジョーン、バーンス氏が爲したる演說の中、都市計畫に關する一節に左の如く述べて居る。

『此法案中都市計畫に關する部分は、我國の立法上全く新規なるものである。而かも余は本案の現はれたることの甚だ晩きを憾む。今日倫敦の貧民窟イースト、エンド又はリヴアプール、

リーヅ、マンチエスター及びグラスゴー等の諸市に到らん者は、我國が今より百年若くは少くとも五十年以前に於て本法と同樣なる或規定を缺如したるが爲に、其結果多くの男子婦女及び兒童に對して其健康上道德上に又其幸福並に愉樂の上に如何なる影響を及ぼしたるかを明言し得る者は無からうけれども、而かも何人も皆、縱ひ法規の制定は晩しとは雖も全く之を爲さゞるには優り、又衆議院としては社會に對し、殊に膨脹しつゝある工業的社會に對して、過去に於けるとは大に優りたる方法にて自ら意識的に其發達を造形するの機會を之に與ふべき、今日の此機會を失ふべきに非ずとの、確定的決論に到着するであらう。若し議員諸君の中未だイースト・エンドを知らざる人々が最近余の爲したる視察に同道したらんには、余は諸君に對し、若し吾人にして四五十年以前に於て本案を有したりしならば、彼のウエスト・ハム公園・ヘーノールト森林・エピング森林の東部及びリー河等の附近又其他の場所の如きも其近隣に建てられたる家屋との間に良く均合ひが保持せられ、隨つて公園及び公開空地の風致は如何に增進せられたであらうかを、實地に就て指摘することを得たであらう。家屋を建築するに方り、多くの場合に行はるゝが如く、河又は運河の岸邊に密接して之を建つるが如きは、我貧民に對して決して公正と謂ふことを得ぬ。之等の地は適當なる道路の設計をなさば愉快且つ健康なる風致を成し得べきものである。又街路の設計を誤り道路は其方角を誤り、日光不十分に、而かも風當り常に強きか又は通風全く絕へたる所に之を設け、又は若し本條例に依らば社會全体の利益の爲めに—單に現代の人民のみならず、殊に其住居及び其環境の內に呪はれたる不幸なる多くの兒童の利益の爲めに—之を有益に利用し得べき天然の有形的機會を無視して、最も障害多き所に道路を布設するが如きは、決して公正なる事では無い。本法案の都市計畫に關する部分は從來之に對して多少の非難は免れなんだけれども、一般には大に歡迎せられたる所であつて、

予は特に此部分は來六月迄には已に成文法となるべきを確信する者である。

次に都市計畫の大に成功すべきものなることは人々皆一致する所であるが、此の成功を得んが爲めには、先づ中央廳が現在に於けるよりも遙に優大なる監督權を有すべきことが根本的に必要である。或議員諸君は、過去に於て都市計畫を妨げたるものは、特殊の利害や箇人的利害又は地方的利害の關係者が餘りに其偏頗又は利己的なる目的を充さんことに熱中し、夫が爲め地方の土地所有者は彼の見界偏狹なる地方廳との間に—地方廳は必ずしも最公平なる人物のみから成立せぬことあるを免れぬ—協定成立することを能はざりし場合であつて、而かも斯る協定は中央廳の干渉あらば成立し得べきである、と唱へらるゝことは余の知る所である。又之が爲めには地方政務廳が多大の干渉權を有することを必要とし、即ち先づ地方審査に依り次には實地の踏査研究に依て能く場合の異同を辨別し、彼の好訴なる地主又は偏狹なる地方廳議員等がなす所の、地方全体の利害の爲には非ざる或些細なる地方的又は箇人的苦情—斯る事の爲に、善良なる地主が其土地の發達を圖り又は公共心に富める會社が改善を行ふことを妨害せらるゝ場合が甚だ多い—に關する紛爭の爲に、社會をして其利益を害せらるゝことなからしめ、地方廳は唯だ其奉任する社會の利害のみに依て影響を受くるものたらしめざる可らずとは、之れ實に本院に於ける朝野兩黨の孰れも是認する所である。吾人も亦地方政務廳は中央廳として從來よりも廣大なる監督を行ふことを必要と認むる者である。而かも此監督の爲には本廳は只本法案の本來の目的上根本的に必要なる權限のみに限りて之を執らんとするに過ぎぬのである。(故に反對論者の惧るゝが如き官僚萬能の弊を生ずるが如き虞はない)云々。

次いで此法案は同年八月三十日及び三十一日に衆議院に於て論議せられ、九月十四日には貴族院の第二讀會を經、同月二十二日及び二十三日の委員會に於て大に制限的修正を加へられ、十

月四日の貴族院に於ける報告會に於て更に修正せられ、同月中旬に開かれたる第三讀會に於ても亦多少の修正を加へられ、隨つて原案に於ける中央廳の權能は數回の修正に依り大に制限を受けたのであるが、終に十二月三日に國王の裁可を得るに至つた。其後此條例に依る都市計畫の實施に關して地方政務廳が發したる布告の中左の如く言ふて居る。

『本條例に於ける都市計畫の目的は、將來都市附近に於ける土地の發達は、地方廳又は土地所有者の作製する設計に依り、其土地及び其近隣地の使用に關して、適當なる衛生狀態、風致及び便利を確保すべき方法にて行はる可きことを保證せんが爲なり。從來に於ては、種々なる土地所有者の利害の衝突の爲め、及び地方廳が毫も各場合に於ける殊特の事情並に特殊の必要に應じて土地の發達を指導監督するの權能を有せざりしが爲め、土地の發達に當りては、其大小を問はず、毫も近隣地の風致及び便利を顧ることなく、單に或土地の直接の利害のみを顧慮して行はるゝこと多かりき。

地方廳は、其地方區內に發達の徵候明かなる土地ある場合には、社會の爲に其發達を指導監督せんが爲め、本條例の提供する機會に對して十分の考慮を拂ふと共に、今日に在りては地方納稅者の力能く之を豫防し得べき弊害に對して過去の納稅者は、其豫防を怠りたるの結果常に重大なる負擔に苦みたることを忘るべからず云々』

又曰く、

『本條例は、土地の發達に關して、土地所有者と地方廳との間に新たなる關係を作りたると共に、又兩者をして一般の利益の增進の爲に互に相協働せしめんことを目的とするものなり。合意及び協働は、都市計畫を行ふに當りて、能く之をして經濟的ならしめ、之をして成功多からしむるものなれば、其實施上最も緊要なるものなるが、而かも之が爲には、設計成り政務廳の認可を請求するに至る迄の準備的商議の爲に、多くの時日を必要とすべきは當然の結果なり。

而して都市計畫の利益は今や社會の普く認むる所にして、多くの地方廳の協議會、建築家、技師、測量師等の諸會議及び諸地方に於ける公開演說會等の到る所旺に開かるゝは即ち之を證するものなるが、本條例及び之に依る手續は我國に於ては全く新規のものなることを顧れば、今日迄に實施せられたる其成績は寧ろ大に滿足すべきものと謂はざるべからず。

本條例に依て設計の作製の爲に已に確定的行動を執れる地方廳は頗る多數あると共に、又土地所有者及び其他の者にして、都市計畫の形式に依らず一層優良なる土地發達方法を採れる者も亦少からず、且又本條例に依る實際の設計の作製とは關係なく、只本條例の規定せる權能の存在することのみに依て、已に甚だ有利なる影響を齎らしたることをも認め得るなり。云々』

都市計畫に關する條例は英國にては尙全然新しきものであるから、隨て其規定が土地所有者及び家屋建設者の自由に干涉するに當りては、寧ろ大に控目になつて居るが、而も之に依て今や初めて國家が都市の造營に關與し、之れに關する從來の誤謬を豫防することに盡力するに至つたのである。夫迄は建築に設計に關して法律上認められたる干涉としては、只僅かに地方規則に依つて街路の幅員並に体裁及建築材料等に關しては取締りを爲し得るに過ぎなんだのであつて、彼の議會の協賛を經て特別法として制定せられたる特別地方條例が施行せられ居る都市の外は、地方廳は街路の構設に關しては其位地又は方向等には毫も干涉するの權能を有せず、其結果多くの大都市の周圍に於ける郊外の地區は皆不統一亂雜なる狀態に陷るに至つたのである。是に於てか本條例は、地方廳をして先づ都市計畫の設計を作らしめ、之に依て將來建築せらるべき地域に關して豫め其建築せられ得べき方法を規定する事を得せしめ、以て地方廳に廣汎なる權能を附與したるのみならず、更に現存の街衢に關しても規定せられたる或方法に依るの外は建築を禁ずることを得せしめた。故に若し地方廳が其附與せられたる權能を適當に行使

するならば、從來多くの大都市に於て觀たるが如き、其郊外地區をば舊來の狹隘なる街道に沿ふて自由に家屋の建築せらるゝがまゝに放任し其結果後日に至りて巨費を投じて之れを擴張整理するの必要に迫らるゝが如き困難は、之を豫防することを得んと期望せられて居るのであるが、併し又多くの識者は、本條例の規定するが如き溫和なる都市計畫法は早晩廢止せられて之れよりも尙一層峻烈嚴格なる全く新規の都市計畫法の基礎として採用せらるゝに至るべきは疑なしと期待して居るのである。

此第二編都市計畫の規定は左の如くに編成せられて居る。

一、都市計畫設計の作製及び之が認可。(第五四節)

二、都市計畫設計の內容。(第五五節)

三、地方政務廳の制定する施行規程。(第五六節)

四、設計の强行に關する權限。(第五七節)

五、設計の爲めに有害なる影響を蒙りたる財產に關する賠償等。(第五八節)

六、賠償を除斥又は制限する場合。(第五九節)

七、地方廳が設計中に含まれたる土地を取得すること。(第六〇節)

八、地方廳が都市計畫設計の作製又は實施を怠りたる場合に於ける地方政務廳の權限(第六一節)

九、地方政務廳の決裁 (第六二節)

十、地方政務廳の審查 (第六三節)

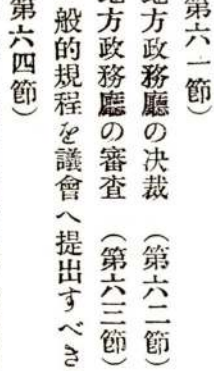
十一、一般的規程を議會へ提出すべきこと(第六四節)

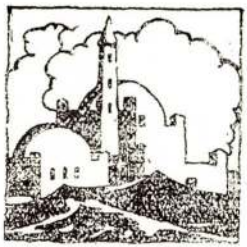
十二、地方廳の定義及其費用。(第六五節)

十三、ロンドンに對する適用。(第六六節)

十四、蘇格蘭に對する適用。(第六七節)

以下其各規定の本文を擧げよう。(未完)





建築様式論

特別賛助員　伊藤清造

一緒言

此處に論議し様とする處の建築様式といふ問題は、極めて廣義に解釋しやうと思ふ、即ち建築藝術に關聯した總べての美術の様式を總括してゐるものとする、一体此の歴史的建築様式といふ様な問題は予輩の如き淺學菲才の徒の輕々に論議すべきではない、併し一方から考へて見ると又それも一つの義務であるとも言へよう、それは斯の問題が建築家の當然社會に對して明快な解答を與へねばならない底のものでありながらまだその運ひに至つてゐないといふ事に關して、予輩駑なりともその解決に幾分の機會を齎らすことの出來るならば又斯界の爲めに敢へて徒事ではないと思ふからである。

嘗て予輩は造船協會雜纂の第十五號に於いて田中學士の船内裝飾概論を一讀して斯道の門外漢が如何に我が建築藝術を解してゐるかの一斑を知ることが出來ると同時に、此の様式問題といふ底のものを徹底的に解答することは現下の建築家の急務であることを知つたのである。

本誌第十三號に於いて會員波江學士はその高見「演劇と建築」の最後に様式問題の研究を他日公表したいといふ意味を書いてをられるから近い間に氏によつて明快な解決の與へられることゝ予輩は鶴首して待つてゐるのであるが、併し氏の高見の出づるのを待つてゐることが斯學

に忠なる所以でもないと考へた所から、おこがましくも、氏に先んじて私見を披瀝しようと思ひついたのである、幸にして、波江氏は勿論先輩諸先生の御叱正を仰ぐことが出來れば望外の光榮である。

二　樣式といふ言葉に就いて

先づ「樣式」といふ言葉の意義から詮議してみると、此の「樣式」といふ字は勿論英語の style の譯されたものであろうから style の語源から詮議することが順序である style といふ字は獨逸語の vunstil や佛蘭西語の Le style と共に皆希臘語の στυλος といふ字から出てゐる、この στυλος はラテン語の stilus と同一のもので即ち英語の column といふ意味の字である、今日の文學でいふ所の此の style といふ言葉も、英國の Edmund Gosse に從ふならばやはり此のラテン語の stilus から出たものであつて古代に於いては字を書くのは蠟を引いた薄い板に光筆を以つて書いたもので此の光筆の事を stylus といつたので此處から文學上の今日の style といふ言葉が出たのだといふが、建築にあつても style といふ言葉はもとは單に column のみに用ひられたものである事が知られるのである。

併し style といふ字の original meaning は以上の樣であるけれ共、現今では餘程違つた方面に使用せられてをつて、藝術上では此の style といふ字は一つの individuality character といふ意味に屢々用ひられてゐる我邦でもこの樣式といふ意味の言葉は單に「式」といふ字に依つても表はされ、何式といつた場合には特にその個性人格方面のことを言ひ表はした場合が極めて多い樣である、そして、內外共に style 又は樣式といふ言葉は今日ではその形式 (formular) を表はした場合よりもその內容 (expression) を言ひ表はした場合の方が藝術用語上には多い樣に思はれる。

三　樣式の起源に就いて

樣式即ち style といふ言葉の起原は略以上の

様であるが、それが建築樣式として今日肯定されてゐる樣な所謂埃及樣式とか希臘樣式とかいつたものゝ起原に就いて少しく考察することゝしよう、大体に於いてその樣式起原は、主觀的の方面と客觀的の方面との二つを考察することが最も妥當の樣であるが、客觀的方面といふのは即ち自然界本位の發達であつて、主觀的方面といふのは即ち人間の心本位の進路である、此の兩者のものが今日の建築樣式の起原と發展經路とに常に密接な關係をなしてゐるのであつて心的本位に發展し樣とした建築も物的の條件に支配されてその充分の發展も遂げられなかつたといふ實例や、物的の諸種な條件の爲めに反つて偉大な樣式を大成したといふ樣な實例は、予輩が、世界の建築史を研究してゆく上に常に想倒する所である、今便宜上此の兩者に就いて予輩の考察を深くしてゆくけれ共、もとより兩者が個々別々に建築樣式の上に干渉して來たものでは決してないのである。

客觀的方面、此れに先きにも述べた樣に物的本位、自然界本位の發展である、此の中には、材料、氣候、地勢、歷史的遺物の有無等を分けることが出來ようと思ふ、又主觀的方面、此れは心的本位、人間本位であつて此の中には更らに、風俗習慣、信仰迷信、民族歷史、審美思想等を區別する事が出來るのである、今此等に就いて簡單ながら逐條的に論述することゝしよう

材料、材料が建築樣式に干渉してゐることは、今更ら論ずる迄もない程顯著な事實である、埃及建築の Lintel system は可成り大いな石材を産することに依つて干渉された樣式の著しい實例である、同じような origin や system を以つてゐる支那建築と日本佛寺建築とがその石材、木材といふ材料の爲めに今日の樣な特殊な結果を生じたような事例は世界の建築史上に幾多の證據が書かれてゐる Egypt や Greek の建築に於いてその column に著しい太さを持つてゐる事も石材といふ材料に關する物理學的の羈絆がその全般を負ふてゐるではないか、德川時代の墓表に木造佛寺建築の細部が應用せられた實例

數多を見る時には、同じ墓でありながら石材と木材とに依つて自然に變つてくる形式の順序を明快に知悉することが出來るのである。

氣候。氣候の問題も建築樣式問題に關して久しい間それを支配して來たものである、熱帶的な土地にはその百度の熱度を避け得る樣な形式が生じてゐるし、光線の多量な地方にはその建築物の lighting の上に特殊の形式が生じてゐる前者の例としては希臘等はその著しいものであるし、後者の場合では印度の sun-window 等は好い例である、暖國的な我邦の建築物に於いては寢殿造りにせよ、我家造りにせよその opening や lighting は最も合理的の發達をなしたものといつて好い、總べて建築物に於いてその lighting や opening 乃至は ventilating の問題が今日重大に考へられてゐる一事に就いて見ても、氣候といふ問題が此等の諸問題を通じて如何にその建築樣式に干渉をなして居るかは容易に看取せらるゝ所であろう。

地勢。地勢は此處では廣い意味に用ひたのであつてその民族を中心としての總べての地理的環境を言つたものである、故に普通に論ずる所の地勢以外に自然景や交通等が含まれたものであることは勿論である、交通といふのは材料を運搬するといふ爲めの交通を意味するのは勿論であるけれ共、これが建築樣式に成果を生ずることは大なる問題ではない、而し此處で特に交通を稱するのは他民族との交通を意味するものであつてこれはやがて他種民族の文化の輸入の根底の條件として決して看過すべき問題ではない印度建築に希臘文明の分子が入つてゐることや日本建築が支那朝鮮から渡來してその固有の樣式に非常な影響を與へたことは著明な事實である、又地勢に就いて考へてみると、河水の流域地方とか海岸地方とか、又は山岳地方、平原地方等と種々なる條件によつて區別することが出來る、埃及の Lock cut tomb や phyramid 等はこれ等の事實を語つてゐる、我邦で於いてさへも、平原地で行はれた、百濟樣佛堂伽藍を始め禪宗樣佛堂伽藍等もあれば、山間に行はれた

の密敷伽藍の配置等もあるのである、岩石の巨大なのを以つて建築した印度建築や、河岸の絶壁に依つて行つた埃及建築等は、如何に地勢の及ぼす影響の大なるかを思はすのである。

自然景に關しては後に論ずる民族の審美思想に至大な關係を有してゐるから後に述べることにするけれ共、美くしい自然を以つた希臘人や日本人が作り上げた建築をみても如何に重大であるかを知ることが出來る。

歷史的遺物の有無、人間はその本來の性質として、特に未開の人間に於いては一層であるが、どうしても傳統とか因襲とかいつたような事を根本から脫却することが出來ない、此處に新らしいものを創造しようとする場合に於いても、知らず識らずの間にその傳習とか因襲とかいふものに捉はれることはと數の免る可らざる處である、故にその民族の有する歷史的の遺物の有無といふことはその民族の建築樣式を論ずるに當つて必ず先づ考へねばならない事項がある、鎌倉時代の建築物に就いて考へてみても、京都の遺物と奈良の遺物と鎌倉の遺物とは非常に面白い事實を語つてゐる（此の事に關しては他日發表する機會があると思ふ）Renaissance の運動が、逸早く伊太利で起つたのは決して偶然の事實ではない。

風俗習慣。建築樣式を決定する上に於いてその民族の有つてゐる所の風俗習慣の問題は決して忽諸にすべきではない、此の事柄は予輩が論議するまでもなく、衣食住の中の重要な部分を占めてゐる建築が、衣食と共にその民族の風俗習慣と深甚な交涉を有つてゐることは、餘りに自明の事に過ぎてゐる。

信仰迷信。現世的で未來といふ事に眼を着けなかつた希臘人の建築、靈希魂不滅を信じて極端に未來の事を考へた埃及人の建築、一般に多神敎を信じた古代民族の建築、それ等は實に明かにこの信仰迷信が建築樣式に重大な關係を有してこれを示してゐる、我邦に於いても、祭政一致政敎一致といつた國家の狀況がその時代々々の建築に如何に影響してをつたかを見ても、至極

看取し易き事柄であらう。

民族歴史。一民族の歴史がその建築様式に可成り有力な干渉をなしてゐる事は爭はれない事實であらう、史的精練といふ事はその民族の文化には非常に有力な要素である、古來から大なる文化を殘した民族は必ず大なる歴史を有した民族である、誤解のない様に附言するが、予輩が此處に民族歴史といふのはその民族固有の神話傳説をも含むでの意味である、これを客觀的の方面としたのはそれ等に對する民族一般の觀念如何といふ問題を指示したからである。

審美的思想。凡そ一建築様式の決定に當つて以上掲げた様な諸種の問題に關聯してその統一をなし硬化をなし一様式を纏めるの根本の力は、即ちその民族の有する審美思想である、審美思想が建築様式決定に重大な且つ密接な關係を有してゐることは寧ろ當然に過ぎた事柄であつてもつと根本的に、人類に建築が生じた起源は、この人類の本來に存する審美思想に依るものであることを知つたならば、その建築が發達して様式を生じ、美術の價値を生じたに至つた過程に審美思想が不斷にその動機をなしてをつた事は最も當然にして必然の數でなければならないのである、外國に於いても、文明史家や社會學者や乃至は人類學者等の間にあつても、略一致した説のあるのは、衣服や建築が人類に生じたのは必要上の目的ではなくて、贅澤な裝飾上の目的であるといふにある、その一班として今予輩はカーライルの衣裳哲學を繙いてみても、彼れが衣服の起源を裝飾に歸してゐることを知るのであるが、建築等も全く同様に説かれてゐる己にこうした建築に審美思想の關與する所の重大なるは明かであるが、この審美思想といふ民族心理の一面は前にも少し説いた様に、自然景に又親しい接觸を以つてゐる、一般に美術の動機には種々あるけれ共、その重大な要素をなしてゐるのは、自然の imitation であつて、進歩しない時代の美學者に依つて美術は自然の模倣であるを説かれてをつたのに見ても明かである そして所謂本能的動機 instinctive motive の如

きは決して重大な要素ではない、斯様に觀るならば、民族の審美眼を透徹しての自然といふものは非常に深大な影響を建築樣式の上に與へてゐる、埃及の建築に clustered lotus bud や plain lotus bud の capital が行はれたのも、希臘建築に acauthus の capital が用ひられたのも、所詮此の問題の證據である、而してその自然景の美と醜とは又大いに干渉する所がある、自然美觀に不知不識修養された民族の審美思想は驚くべきものがある、風光明媚の希臘には、パルテノンがあるし、四時爛漫の日本には、鳳凰堂がある、又支那南北兩地方によつてあの著しい形式の差を美術の上に生じたことも決して看過すべき問題ではない。

以上論じ來つた處の數多の條件が相關的の交涉を以つて此處に一建築樣式を決定するものであるが、此處に予輩は再び「樣式 style」といふ言葉の意味に關して考へねばならない、成程以上論じ來つた所に依つて、予輩は Egyptian style, Greek style, Gothic style といつたものに就いては稍知悉することが出來たのであるが、然らばもう少し細部に入つて考へてみて Adam style, Heppelwhite style といつた樣な事柄に關しては如何なる解釋を與へるであらうか、先づ予輩は此の問題を說明しなければならないのである、かういふ場合の、樣式起源は、一にその作家の Individuality of character に歸せなければならない、如何にその作家が意想天外に走せる樣な天才的創造力を持つてをるとしてもその意想たるや到底その時代その社會その現實を根本に於いて超脫することが出來ないからその Individuality of character はその天才の環境に結合されたものであつて如何にしてもその Social solidarity を無視する譯には行かないのである、かうした天才藝術の樣式はその作家に屬した Individuality of character とその天才の總べての環境がその樣式決定に必要な要素であると考へるが最も至當ではあるまいかと思ふ。

四　樣式に準據するとは如何なる事か

予輩はよくあれは復興式建築であるとか近世式建築であるとか、又はこれはアダム式の椅子であるとかセラートン式の卓子であるとかいつた言葉を聞くがそれは一體如何なる意義であらうか、樣式に準據するといふことは如何なる事であらうか先づ此の問題を考察してみやう、此の事は大體に次の三通りに分けることが出來ると思はれる即ち。

一、樣式の復源的表出。
二、樣式の內容再現。
三、折衷的樣式表出。

今此の三つの問題に依つて尙多少予輩の論議を續けることゝしやう。

樣式の復原的表出。 此の事柄は歷史的樣式の一種の copy であるこの copy と單純にいふ中には更らに細かく考へて二つを區別することが出來る、一つは純然たる copy であつて例へば historical monument の雛形を作る樣な場合であるし、他の一つは、勿論 plan, elevation は異つてはゐるけれども、それに可成的歷史の樣式を損はずに apply しやうとするものである、例へば今希臘式の建築を行ふとするに當つてその plan を定めるに事情の許す限り octa style ならば octa style に hexa style ならば doric order に定めてその柱には doric order を忠實に應用するとか pediment に希臘風俗の relief を表はすとか、材料には鐵筋コンクリートを使用してもその大體は lintel system に倣つた effect を出すとかいつたやり方はそれであらう前者の場合は現今の建築藝術界には論ずるに足らない問題であるが、後者の場合に至つては、尙現今建築藝術界の樣式といふ問題に對して可成り力を有してゐる樣である。

樣式の內容再現。 藝術の一般論としては普通に形式、內容、材料の三つを論じてゐるが、此處にいふ處の內容再現とは即ち此の形式、內容、材料の三の中の內容（表現 expression）に重きをなしたことを意味するのであつて、內容の爲めには必ずしも形式の如何を論ずるの必要を認めないのである、例へば此處に一つの樣式を取

り來つてこれに準據して他の作品を創作するといふ場合に於いてその樣式全般に通ずる特性が slender であるとか manliness であるとかいふ以上に更らに細かい點にまでその氣分を吟味して、かういふ方面の心持ちを表はさうとする行き方は、予輩が此處に內容の再現とするものであつて、何となしに何々式らしいといふ心持を生ぜしめる事が必要となつて來る、そして、このやうなやり方は必ずしも形式の末葉に拘束するの必要を認めないのである、而してその形式に對する立場は寧ろ批評的であり改鼠的である予輩の見地からすると、此の內容再現といふことは、歷史的樣式を再現するといふことに關しては理想であるとするものであるけれ共この詳細なる論議は後の項に於いて行ふことゝして此處には、簡單に內容再現の說明のみに止めておく。

折衷的樣式表出。此の折衷的といふのは歷史的樣式と作家の創意的手法との折衷及びこの一方には歷史的樣式と近世式との折衷例へば Mode rn Renaissance style といつた樣なものも包括してゐることゝする、此の行き方は予輩は純粹の樣式再現であるとはしないけれ共、又一方からは樣式再現の一面でなければならないのである、以上論じ來つた樣に樣式に準據するといふことは如何なる事かといふ問題に對して、現今普通に且つ最も多く存在してゐる行き方の大略を論じ竭したのであるが、さて予輩は以上の大體三つの行き方の中孰れを理想的と稱すべきであるか、又予輩は如何にして眞純なる歷史的樣式に進むべきであらうかといふ問題を論議しなければならない。

五　樣式再現の理想

前項に於いて予輩は樣式再現法の三種を揭げたけれ共、予輩はその中內容再現法を以つて歷史的樣式再現の理想と信ずるものである、であるから今斯の內容再現に關して予輩の見地を徹底的に論じ樣と思ふ。

予輩は先きに第三項の樣式の起原を論じた場

合に詳はしく論及した樣に樣式の起原は極めて複雜した環境から出發してゐる爲めに、純理論の立場からは如何なる方法に依るとも、歷史的樣式を再現して—第四項に於いて論じた處の二三の方法に依りて—眞に藝術的の價値ある存在とすることは、絕對に不可能である、予輩は先づ此の絕對に不可能である理由から論じなければならない。

樣式を再現（予輩が本論文に於いて樣式再現といつてゐるのは、歷史的建築樣式に準據して他の作品を製出してこれをその準據した樣式に從つて何々式と稱することに對して用ひた言葉であることを約束する）を行ふには先づその準據し樣と思ふ所の樣式を徹底的に理解しなければならない、此の事柄は單に、ゴシック樣式にはボインテット、アーチが用ひてあり、フライイング、バットレスが用ひてあるといふことを知る事ではない、又そのボインテット、アーチがどんな感じを與へてゐるか、フライイング、バットレスがどんな要求から出たものかを知つた社會の全般を知る事でなければならない、併し此處に考へねばならない事は、予輩が第四項の一に於いて論じた處の樣式の復原的表出の事であるが、此の事は、樣式の起源を徹底的に考察する迄もなくその形式をそのまゝ copy する事である爲めに、言はゞ過去の建築樣式を如何に巧みに自個の建築に應用せしむるかの技術であつてその仕事は職人的であり模倣的であつて嚴正な意味に於いて決して予輩の論ずる處の建築藝術の內には指すべきではないのである故に、予輩は此處では此の問題は問はない事として次に予輩の論を進めて行こう。

その樣式を大成した處の民族又は天才の社會的環境を徹底的に理解するといふことは、爾かく容易の事ではない、予輩は先づこれを純理論の立場からして不可能であるとしなければならない、徹底的に理解することは、自個の感情をその中に投入することである、この事は他國人にあつては到底想像する事の出來ない程に明かな不可能性を帶びてゐる、面倒臭い論理の手續

きに依つて長たらしく述べ立てる迄もなく、平常は洋服を着たり靴をはいたりしてゐる日本人が風邪にかゝつたといつて和服を着なければおさまらない様な事でどうしてほんとうの西洋式が分るであろうか、茶漬けに香の物があつさりとしてゐるといふ事を根本から忘れて終つて、一にも二にもバタでなければおさまりがつかなくなるまで西洋式に没入しなければ、いくら永く留學した所で眞の西洋式は分らない筈である

又西洋人にしても、四疊半の茅屋で澁茶の味をほんとうに知つてみなければ、又は青疊に紋縁の座敷で、ほんとうに脇息によりかかつてみて未生流の生花をつくづく眺めて見なければ、到底眞純な、長押や鴨居を使つてみたり床や違ひ棚の設計は出來そうもない、試みに予輩は、Room tintifull といふ書物を繙いてみて、その中の日本式の室が如何に彼等によつて取り扱はれてゐるかを見てもこの間の消息は自明の事に屬してゐる、予輩は今純理論的に悲觀論を咀嚼して來たけれ共、然らば歴史的様式の再現は不可能であり價値を認めることは出來ないであらうか、尚此の事に就いて多少論議しなければならない。

予輩は此處に予輩の論議を進行させる爲めに先づ二つの方面から開始しなければならない、予輩は建築様式（style）を論ずるに當つて、一方には Greek style とか Gothic style とかいふものを肯定し他の一方に於いては別に Adam style とか Chippendaile style とかいふものを肯定して來たのであるが今此の二の方面から予輩の論議を開始することゝする一の場合に於いて、様式の再現は必ずその内容を再現することでなければならない、内容を再現する事は必ずしも形式を墨守するの必要を認めないである、予輩は多少過激な極端論を提唱する様ではあるけれ共眞純な藝術的價値上に於ける様式再現はその歴史的様式の形式を一も用ふることなくしてその心持ち（感じ）を表現することでなければならないと信ずる、例へば希臘の建築に胴張りのある圓柱が用ひられてあるからといつて必

ずしもこの同樣の圓柱を用ひなければ希臘式を再現せしむることは不可能であらうか、又は希臘建築には domical roof がないからといつてこれを用ひたならば希臘式といふことが出來ないであろうか、斯の事に關しては予輩は純理論者としてにあらずして、予輩作家としての見地からしても尙且つ必ずしも胴張りの柱を使用せずとも domical roof を使用しても、明かに希臘式と稱し得るものと斷言し、且つ希臘式の心持ちは表現し得らるゝものと信じてゐる。

事例を尙小なる事に求めて見るならば、此處に藤原時代式の建築を設計するに當つて、予輩は藤原時代の建築遺物に表はれた手法以外に他の手法を用ひることは許されないであろうか、その細藝にせよ木割にせよ乃至は構造に關しても。予輩は斯の場合にその建築のどこかに唐破風を使用したとする、これは普通に鎌倉時代から行はれたものであると考へられてゐるけれ共此の爲めに、唐破風を使用した建築を藤原時代式と稱することは許されないであろうか、又高欄の親柱に逆蓮頭を用ひたからといつてそれは藤原時代式といふことが許されないであろうか藤原時代式を設計するに當つてその手法を和樣に據りその細藝にその時代の他の多くの遺物に表はれた各々を用ふることは作家に取つては容易の仕事である、これに依つて藤原時代らしい心持ちを表現することは極めて容易である、それは、其時代が生み出した細藝である、爲めにその時代の心持ちは不言の裡にその中に現はれてゐるし、且つ又その細藝が鳳凰堂の何であるとか、中尊寺金色堂の何々であるとかとすれば、それも透徹して其藤原時代に對する聯想を作用せしむることも可能であるし藤原時代の特長だといはれる建築史上の根據を取れば、習慣の上から自然に藤原時代を肯定することが出來得るのであつて、これが極めて作家に取つては易々たる事業であゝ丈け藝術としての價値は極めて疑はしいものであろう。

如斯の見地は建築史の遺物の考定と藝術としての樣式再現とを混同した所の論議でなければ

ならない、この建築には礎盤や綜のある柱が使用してあるから藤原時代式ではないとするのは建築史家の考證であつて、藝術としての樣式再現ではない、希くは唐樣建築の手法を自在に應用して尙且つ藤原文化の餘韻を彷彿たらしめ、希臘羅馬の手法を自由に取捨して王朝美術の餘影を偲ばしめることが眞なる作家の努力でありたい、そこに始めて尊い光りは放たれるべきではなからうか。

又二の場合を考へてみると、其內容再現といふことは人格の再現であつて Adam style に準據するといふことは Robert Adam & William Adam の人格に準據することである、此の爲には第一に予輩は彼の知己であることを要する彼の全人格を理解することが必要である、單に Adam style とは Greek ornament を自由に用ひたのが特徵である位に肯定することは事格本に彩いて誤つてゐる、かくの如くにしてアダム式を再現するの場合にあつては必ずしもその形式に捕はれるの要を認めないことは、一の場合に論じ盡した所であるか、その人格を理解することは同時にその社會を理解しなければならない、これ Guan 氏の言をかれば、「社會的環境の創造力としての天才」を解する所以であるからである。

かくして予輩の提唱する所の樣式再現の理想は、形式を捨てゝ內容を再現しようとする点にあるのである、故にその作品は必ず形式の末を論せらるべきではなくて內容の本を論せらるべきが至當でなければならないのである。

六　結　論

以上各項に論じた所で略建築樣式といふ問題に關してその Adam を徹底せしめ得たと信ずる故に、此處にはその樣式に準據した作品の藝術上の價値如何を論議しこれを以て本稿の結論にかへることゝする。

予輩の見る處では、建築藝術の上に歷史的樣式再現を云爲することは、最も末義の事に屬すると信ずる、偉大なそうして深遠な建築藝術は

歷史に記された建築樣式の上に建設せらるべき底のものではない、樣式再現は建築家の價値を決定する根據にはならない、勿論樣式再現といふことは建築藝術の一部分であることは予輩としても否定すべきではない、然しながら如何に歷史的樣式に通じてゐるかの問題は、如何に大なる建築家であるかの問題ではない、眞純な意味に於いての建築家は自己の生命を如何に空間に存在せしむるかの問題である、建築が現今の科學の殆んど總べてのものに親しい交渉を有し否寧ろ其上に建設せられながら尙且つその總べてを放擲し來つて、一個生命ある線と色との存在の前に犧牲として何物も惜しとしない所は、確かに現今建築家の寞大と識見に依る所であつて、且建築が一方には偉大なる科學であると同時に一方に深遠な藝術である所以である、こうした現今の建築界に過去の民族が大成した樣式を殆んど或る意味に於いての coppy 乍らそれ等がどうして眞の價値上に肯定せられるであらうか、予輩は前に提唱した所に依つてこゝには Adam style の內容再現をなし得たものとする然るに、これは予輩の見た所の Individuality of character であつて他の人の見たるそれではない、又形式の再現を行ふものとすればそれはその作家の藝術家としての生命に於いて何等の價値を認めることは出來ない、又其作品に就いては一つの復原的存在以外に出ることは出來ない、であるから、建築家がその建築樣式の再現には如何にしてその內容を理解すべきか、如何にしてその理解を表現すべきかに就いて最も深刻な苦心の過程を經驗し、其眞純なる理解の上に樣式再現の意義を體得しなければならない、故に輕薄な手續に依つてその作品を何々式と稱することは純理論の歸結とし許さるべきではない、又藝術價値論上の要求としても又等しく許さるべきではないと信ずる、故に予輩の信ずる所では、何々式と言ふ樣な、不明瞭な言葉よりも suggested by……tsyleとか……style influence……adaptation といふ樣な言葉に依つてその藝術上の責任を明かにすべきではないだらう

かと信ずる。

以上畧予輩は建築樣式に關する卑見を述べ終つたのであるが、論を結ぶに方つて、歷史的樣式は建築家に取つては人類の審美思想發達の苦心の過程としてその記錄及びその製作心理の動機としての存在以外には決して藥籠中に收めらるべきスケッチの材料ではない、建築家のみならず一般藝術家……の責任はよりよく自己を生かす爲めにより好き自己の樣式を創造することであることを一言しておく。（終）

◆ジョンラスキン◆

ジョンラスキン氏（一八一九年―一九〇〇年）は、近代英國の誇りとする處の有名なる文藝批評者であつて、彼れの爲に、英國の美術界は確に革新されたのである。其著述や論說は、凡て深刻なる藝術觀に精練されたる人生觀であつた。有名なる著書『建築の七燈』や、『ヴエニスの石』は、我邦でも隨分と讀まれてゐる。併し乍ら、彼れの偉大なる處は、美術界の革新よりも、寧ろ社會改良の大精神であつたことは、彼れの高弟クック氏の著述にて明である。彼れが、オックス、フオード大學に教鞭を取りし際に、七萬圓を義捐して、セント、ジヨージ商社を創立し、模範工場を造り、勞働者の改良を企て、之に附隨して科學研究の博物館をも建てた。（セツフヰルド博物館）最近英國の社會改良の穩健なる思想は、實に彼れに負ふ處が多いのである。



都市と建築

◆大阪市區改正に就て

會員　片岡安　演

（本會第一回大會）

諸君、私は今日大阪市の大問題であります所の大阪市の市區改正と云ふ問題に就いて、聊か意見を申述べたいと思ふのであります。

大阪市區改正の事業は大阪市に取りましては實に重大の問題でありまして、又總ての都市行政或は總ての經營の根源であるのでありますたしか十四五年前のことゝ記憶致しますが、大阪市會議員の二三の方からして市區改正を立案すべしと云ふことを當事者に建議されたことがありました、併しながら其當時は不幸にして斯かる大問題も有耶無耶の裡に葬り去られ、何等の輿論をも喚起し得なかつたのであります。其當時私は考へまするのに、如何に民論が弱く又都市住民の一般の智識の程度が低いと雖も、斯かる都市行政の中心である人が多數を以て建議したことが、何等の反響をも惹かずして葬り去られたと云ふことは、何等か他に理由があるだらうと思つたのであります。其理由を熟々考へて見まするに、建議者其自身が唯何となしに、東京市が市區改正をやつて居るから大阪市も之をやつて見やうではないかと云ふ單純な常識論直覺論等から來たのでありまして、何等深い自信が無かつたのではないか想像致します。建議者發案者が何等自信無く又深く理解する所無か

つたならば、建議なり又それに伴ふ總ての行動が輿論から迎へらるゝ道理は無いのであります又自信無く理解の淺き發案と云ふものに少しも力の無いのは當然のことであります既に過去に於て斯かる建議は有つたけれども、此の如きものは却て大阪市の改造問題を延びさした以外に何等の効果も無かつたものかと私は信ずるのであります。私共は幸か不幸か現在建築の技術家として盡瘁して居りますから、都市の發展と云ふ意味から、斯かる國家の政策に就きまして何等かの貢献をしなければならぬ立場に居るのであります。此市區改正と云ふことは、歐米各國に於きましては必ずしも建築技術家の事業では無いのでありまして、政治家實業家其他所謂世の中の先覺者が率先して唱へて、さうして技術家の意見を求め之を斷行すべき順序に運んで居るのでありますけれども、我國に於いては不幸にして總ての文明が過渡時代でありますから、世の中の先覺者が斯かる物質文明の建設と云ふことに就いては、餘り深く研究をされて居らぬのであります、して見まするど吾々は此文明施設の建設に餘りに理解のない先覺者が覺醒するまで待つて居つたならば、日本の文明と云ふものはいつまでも行き詰りの儘であつて、何日の日にか吾々は眞實に文明の日に到着することが出來やうかと云ふことを疑はしむるのであります故に吾々建築技術に關係して居りますものが自分の餘暇を利用し、又自分の智識を基礎として此市區改正事業の根本方針を定め之に關する計畫を立案するのに微力を盡すべく決心した次第であります。此市區改正事業の根本方針を解決し其計畫を立案すると云ふことは大にしては我國の文明又小にしては大阪市の爲め、又關西地方の有ゆる發展の爲に最も必要であると考へる次第であります。

私共が此大阪市區改正の緊急なる行以を唱へ出しましたのは、實に極めて新しいとでありまず、何故にモツト早くから唱へなかつたかと云ふお叱りがあるかも知れませぬが、それは全く吾々の不覺でありまして、モー十年或は二十年

前に唱へて宜かつたのであります、兎に角過去のことは咎めても仕方が無いと致しまして、私共は昨年から此問題に對して非常に深い注意を拂ひ、どうしても之を現實にしたいと云ふ決心を以て之を社會に訴へ始めたのであります、之は單に一人二人の智識或は又二三の人の力では決して實行出來ぬのでありまして、之は社會の先覺者の協同の力に待つと同時に各專門の方々が一致して之に當らなければ此事業は完全に出來ぬのであります、併しながら此の如き陣立に對しては必ず先鞭者が無くてはならぬのであります、ソコデ私共淺才薄識をも顧みず此事業の前衛となり先鞭となりまして、奮闘を續くる考を以て出發したのであります、私は昨年の春東京の都市協會——此都市協會と云ふのは都市行政の根本問題を解決すると云ふ意味で組織され內務省の大官其他東京市政に關係して居るもの並に市政の前途を憂ふる人士等から成り立つて居る所の會であります——此都市協會で一場の講演を試みたことがあります、其際私の唱へました議論の要點は、東京は我國の文明の中心である、此二十世紀の都市文明を以て我國を代表して居ります以上、東京市が我國の總ての文明の先覺であるのでありますから、此東京と云ふものゝ改善即ち改造と云ふことを諸君は何故にお考へにならないかと云ふことの質問を發しまして、さうして東京の現狀を指摘したのでありました。東京の市區改正は明治二十二年から大正五年に亘りまして殆ど二十幾年間に三千萬圓からの金を費して如何なることを爲したかと云ふに、唯馬場先門通りが廣くなつたとか或は銀座の通りが四五間廣くなつたと云ふこと以外に何等の事業をも殘して居らぬのみならずそれが與へて居る損害と云ふものは實に甚大なるものがあります、即ち文明の都市となります所の骨組を造るべき所の市區改正委員會が、其根本組織を考へずして、唯枝葉の小さな問題に沒頭し其枝葉を弄り散らした結果、今日東京の市區の組織はどうして之を改造するかと云ふ案が容易に立たぬのであります、斯かる間違つた所の立

案をしたものは誰であるかと云ふことを尋ねても直接の責任者は居ないような譯であります、凡そ如何なる事業を計畫するにしても、其計畫の責任者の無いと云ふことはありませぬ、況や斯かる大計畫を立てるには尚更のことでありますが、斯かる事業の計畫に立案者である責任者の無いと云ふことは有り得べからざる話でありますが、東京の市區改正計畫と云ふものは其街路の系統其他總ての點に於て誠に不秩序極まるもので、而も誰も責任者が無い、全く支離滅裂の系統になつて居ります、然るに誰一人之を改造せんともしないのみならず、又どうすれば之を改造することが出來るかと云ふ考案をやつたものも無いであります、斯かる無計畫の狀態では、東京の前途はどうなるかと云ふことを色々の統計並に色々の方面からして之を解剖して之を批判したのであります。其際には當路の責任者である內務大臣を始め一二の高官其他の人が出て居られましたが、多少の刺戟はあつたかも知れませぬがどうも未だ感じが鈍いやうに思ひましたから、更に色々の方法に依つて之を刺戟せんと欲して歸阪した譯であります。其後東京と云ふものは東京の東京ではない日本の東京である以上、吾々はいつまでも之を冷眼視して居る譯には行かぬ、如何なる機會を利用しても當路者を大に刺戟して此改良事業に對して相當の機關を設くるとか或は立案する方法を立つべきことを決心し、其後着々此決心を斷行するだけの行動を採つて居るのであります。

此都市改良事業は單に東京のみの問題では無くして正に我が大阪の問題であるのであります、幸ひなる哉我が大阪に於きましては東京の如く間違つた施設は未だ出來て居らぬのであります、即ち是からの施設をしなければならぬと云ふやうな改良に好適當の事情にあると申して良いのであります、此事情にある以上此好時機を逸せずして大阪の將來の計畫を考へると云ふことは、吾々に取りまして重大と云ふよりは寧ろ緊急な問題であります。ソコデ私は斯かる空漠な唯必要であると云ふやうな議論のみを以て

諸君に對することを欲しないのであります、一々之を解剖致しまして各種の方面から之を論斷したのでありますが、不幸にして今日の講演會は時間が限られて居りますから、甚だ不本意でありますが、唯色々の方面から研究しました所の各種の結論を綜合致しましたものをお並らべして諸君の御參考に供したいと思ひます。

第一に大阪市か此現狀を何時まで維持するやと云ふことが問題であります、之は申上げるまでもなく非常な勢ひで以て膨脹するのであります、乃ち大阪と云ふものゝ地積が何倍にか擴がり又人口も數倍になると云ふのが現在の趨勢からして爭ふべからざる事實であります、或は悲觀論者はそれは景氣の好い時は大阪も段々大きくなるだらうが、一朝不景氣が來たならばさう大きくはなることはあるまいと云ふ風に考へらるゝ方もありませう、併しそれは非常なる間違ひかと思ひます、之を數十年來の統計に徵して見ましても、亦世界の經濟の波及と云ふものがどう云ふ風に波動しつゝありやと云ふことを考へましても、此私の推定は殆ど間違ひが無いと深く信じて居る次第であります、獨り我國のみならず、世界各國の大都市は何れも非常な勢ひを以て增大膨脹し、人口が增し地積が大きくなると云ふことは、今日各先進國の都市何れも皆同じやうな狀態を呈して居るのであります、今日は其事情を一々申上げます時間が無いので甚だ殘念でありますが、事實は明瞭に之を指摘して居るのであります。英吉利の倫敦は諸君が御存知の如く世界の最大都市で其人口は五六百萬と豫て聞いて居りました處が一昨年のセンサスに據りますと八百四十七萬と云ふ人口になつて居ります、實に非常なる比例で人口が膨脹しつゝあると言はねばならぬのであります、即ち十年間に百萬人位づゝ殖えて居ります、さうして三十年來此比例を續け殆ど淀みなく來て居りますから、今後は少くともそれより以上の比例で殖ゑると云ふことは推定が出來るのであります而して此推定は恐らく殆んど誤りが無いかと思ひます。して見れば一昨年のセンサスに於て倫

敦の人口は八百四十七萬人でありますから、是が一千萬の人口に達するには今後二十七年間を要したらば宜いのであります、又紐育に致しましても、最近に於ては十年に百二十萬の人口が殖ゑて居りますから數十年の後には一千萬の人口に達することは、明瞭に之を推定することが出來ます、又市俄古の如きは少し下つて十年間に五十萬位の殖ゑ方を示して居りますが、今日は十年間に五十萬の比例でありますけれども彼の附近の商工業の發達から推定すれば是が漸次向上して六十萬になり、八十萬になり、遂には矢張り倫敦、紐育のやうに毎十年間に百萬の人口が殖ゑるようになるのは或は到着し得る推定であるかと思ひます、又其他の都市に就いての例を申しましても、獨逸などに至りますと最近に諸工業の盛になり出しました都市は何れも非常な勢ひを以て膨脹して居ります、彼のクルップ工場のあるエッセン市の如きは最近までは其人口は十萬人以内の所でありましたが今日では五十萬人以上になつて居ります、是等は今日の傾向が其處へ以て來なければならない事情があつて已むを得ずさう云ふ有樣に人口が殖ゑるのであります。

我國に於きましても、東京、大阪の此兩大都市は十年間に何れも三四十萬の人口が殖ゑて居ります、尤も多少年に依つては差がありますけれども、之は景氣不景氣に因ることもありませうが大躰に於て餘り大なる差はございませぬ寧ろ近來は益其曲線が強くなつて既に三十萬であつたものが四十萬、五十萬と云ふ傾向になつて進んで參りました、若し大阪が此率を以て進んで參りますものとすれば先づ四十萬の增加と見て宜い——最近四五年の統計を見ますと三十五萬になつて居ります——デ、十年間に四十萬人宛殖ゑると假定すれば、今後三十年經ちますと百二十萬の人口が殖ゑる譯であります、現在既に百五十萬以上の人口がありますから今後三十年の後には我が大阪の人口は三百萬に達するだらうと思われます、それならば此三百萬の人口で止まるかと言ふと中々それで止まるものでは

ありませぬ、どうしても更らに四百萬人となり四百五十萬人になると云ふとは、自然の趨勢であると言ふてよろしいのであります、而して大都會の市民は其交通の關係或は又衛生上の關係其他有ゆる事情から致しまして、餘りに小さい地積に之を詰め込むことは出來ないのであります、どうしても一人當り相當の面積がなければ完全なる都會を成し得ないのであります、それで私等の考へに據りまするに大阪が三百萬の人口になつた曉は、其地積が五千萬坪の地積を要すると云ふことは、決して過大な計算ではなく又是以上の人口を此五千萬坪の中に入れると云ふことは出來ないかと思ふのであります、然るに現在大阪市の面積は僅かに一千七百萬坪、而も其中築港方面の何百萬坪と云ふものは宛ら荒野のやうになつて利用されず、實際使はれて居りますのは千二三百萬坪程である、さうして此千二三百萬坪の地積に於ける交通狀態はどうであると考へて見ますと、問題が稍具躰的になつて來るのでありますが、今日諸君が電車にお乘りになつたら其運轉に於て殆ど差支を生じて居る程行詰りをお感じになることゝ思ひます、併しながら此行詰りの運輸狀態の改善は唯車輛を增したとか或は運轉手の數を殖やして、之を優待したと云ふこと位で以て解決が出來るであらうと思ふ方がありましたらば、之は根本的に間違つて居るのであります、若し諸君が此車輛の數を增し又運轉手の數を多くして見たのみで、我大阪市の發展と共に日々增進して行く所の交通量の殖ゑ方をどうして處理して行くことが出來ませうか、詰まり其根本に遡らなければ本當の解決は出來ないのであります、若し假に車輛を改良し運轉手を倍にした所で、今日運び切れないお客が當分の間少しく樂に運べる位に過ぎないのであります、都市が發展するに從ひまして此交通量の增大すると云ふことは、實に驚くべきものがある。私共が市區改正の緊急己むを得ざる所以を唱へましたその第一の要点は、此交通量增大の傾向に鑑みたからであります。

文明都市の交通量が如何なる有樣で增大する

か、道路――街路を通過する人が如何に殖ゑるかと云ふことは非常に愼重に考へなければならぬ問題であります、之を數字的に現しまするとと先づ普通交通量の標準に致します所のものは、市内の交通機關が運びまする人間を延人數で見るのが一番早いと思ひます、之は一々細かい統計を申上げませぬが、歐米各國の大都市では住民の數に之を割當て見まするとと、都市住民が毎一人一ケ年間に三百回乘ると云ふのが今日の統計であります、此一人一年に三百回乘ると云ふことは最近の統計でありますけれども、更に此傾向が段々著しくなつて居ることは事實であります、之を我大阪の將來に考へますとと、今日は百五十萬の人間がありますから假に三百回宛乘つたものと假定して四億五千萬の人を市内交通機關が運ばなければなりませぬ、それならば現在どの位の人を市電が運んで居るかと申せば大正三年には漸く一億一千萬の人を運んで居るに過ぎない、又大正五年の統計に據ると一億四千五百萬運んで居るのであります、之を市民全体に割り當てまするに漸く一人の人が一年に百回足らずしか乘車して居らぬのであります、今年は多分二億位になるだらうと思ひますが、二億になつた所で百回か百二十回であります、若し十數年の後に市民の乘車率が一年三百回となりますれば、現在の大阪市民が百五十萬の人口でそれ以上增へぬとしても、大阪の市内交通機關は四億五千萬の延人員を運ばなければならぬのであります、況して今後非常の勢ひで增大せんとする傾を有する以上、現在の如き交通機關では根本的に其機能を欠いて居ると言はなければならぬのであります。又斯かる大勢の人を路面軌道のみで以て運び得るか否やは實際甚しき疑問であります、今日堺筋を通りましても又西横堀線を通りましても殆ど電車は皆滿員ばかりであります、之を十分に配車せん爲めには二十秒か三十秒隔に發車運轉せしめるより外ないのでありますが、それも實際は不可能であります、故に地下鐵道とか高架鐵道が要るやうになつて來るのであります、是等も大阪市區改正の己

むを得ざる一つの理由であります、唯現在を幾らか整理しただけでは日々膨脹して行く所の大阪市の將來は如何なることになるやと云ふ根本解決に達することは出來ないのであります、故に交通の方面から考へても大阪の現在の狀態は殆ど行き詰りでありまして、單に電車のことだけでも前申す通りの次第であります、況や自動車其他の交通機關を考へて見ると、如何にして地下鐵道を敷くか、高架線をどうして敷くか、又漸次に殖ゑる所の自動車を如何にして運轉するかと云ふことは今日の現狀を以てしては、到底如何なる知識を以てしても之を解決出來ぬのであります、之を解決する唯一方法は大阪の街路系統の改善即ち市區の大改正と云ふより外はないのであります、のみならず是が千七百萬坪の面積に於ける交通機關でさへ此通りの始末ですから、將來五千萬坪の面積になつた時のことを考へますと、其結果はどうでありませうか、之を統計に據つて見ますると、倫敦の如きは千九百三年から千九百十一年までの統計を見ますと人口は一割足らずしか殖ゑて居らぬのに市內交通機關の運搬量の殖ゑ方は六割八分に增加したことを發表して居るのであります、して見ると大阪現在の趨勢より推して近き將來に於て三百萬の人口になつた時の交通量は到底現在の二倍とか三倍と云ふやうな小さい數字の話ではないのであります、此の如き將來の場合を考へますると、我大阪の現在の街路系統と云ふものは全く行き詰つて居つて何とも仕樣のないことが明かであります。幸福なる哉大阪市の市街の狀況は此市區改正事業に取つては誠に都合好く出來て居るのであります、即ち家屋その他の設備は未だ幼稚な舊式のものが多いのでありますから今日に於て將來の大計畫を發表し其計畫に則らしむると云ふことは最も適當にして且つ緊急なることで、又最も策の得たことであらうと想像するのであります。

稀ではありますが私共度々次のような批難を聞くことがあります、お前等は金のことを考へない、現在市の財政はどうであるか、今日日本

はそれだけの金のある國では無いぞと云ふやうな注意を屢受けるのでありますが、之は非常な誤りで計畫は金を以て基礎とすることが出來ない、計畫は其市の將來眞實に發達すべき所の理想を以て出發し、其方針に依て進めて行けば宜いのであります、即ち財政と云ふことは總てのことを立案する上に於て大切な考慮の中に置かねばならぬものではありますが、財政と計畫とは自から別問題であります、市區改良事業は都市の大計畫に則つて行くべきものであると云ふことが原則であつて、若し金が無ければ其計畫の實行が遲れるだけである、佛蘭西の巴里の計畫は殆ど三十年かゝつて實行されたことを考へても、都市の計畫と云ふものは決して今金があるから其金で一擧に改良すると云ふものではないのであります、のみならずさう云ふ必要が無いのであります、此事業は三十年五十年の先を想像して彈力に富んだ計畫を立て、其計畫に依つて漸々に進めると云ふことが必要なのであります、殊に財政問題に就いては私は實際問題でありますから、有ゆる方法を以て論じて見たいと思ふのでありますけれども、今日は先づ第一着に交通機關の不備よりして交通行政が殆ど行き詰りになつて居る意味から此市區改正の已むを得ざる所以を述べたのであります。

第二に申上げたいのは都市の衛生設備のことであります、都市が段々發達するに從ひまして都市の衛生狀態が惡くなると云ふことは十九世紀以來各國の都市が嘗めた所の苦き事實であります、此事實に對しては、各國共に何とかして之を改善しやうと云ふので努力して來たのでありますが、最近三十年間に歐米の大都市はそれぞれ其衛生狀態を可なり十分に向上せしめ得たのであります、之を數字的に申して見ますと—普通死亡者の數で唱へて居ります—從來は歐米の都市は一般に人口一千人に付き一年間の死亡者が大抵三十人位でありました、尤も健康狀態の宜い所でありましても二十四五人位の死亡者があつたのであります、併しながら衛生工學の進歩其他衛生行政の進歩からして都市が有らゆ

る設備を改良し始めました爲めに、具体的に言へば下水工事を完成し、或は新に之を開始して之を徹底せしむる如き行政を見るやうになつてから、其都市の衛生狀態は非常に向上したのであります、一例を申しますと世界の最大都市である所の倫敦が今日は世界に於ける最良の健康都市になつたのであります、又其他の都市と雖も人口千人に對し死亡三十人と云ふやうな健康狀態から出發致して、今日は千人に付き十五人以下になつて居るものは多いのであります、尤も時には落下したこともありまして之には色々の原因もありますが、大体健康に注意し始めてからはさう云ふことになつて來たのです、然らば我國の都市は如何であるかと申しますと、十五六年前迄は一千人に付て其死亡は廿人以上二十四五人でありましたが、其後不徹底ながら日々幾らか注意を爲し又水道等が出來て段々死亡者が減つて、此頃では千人に付き十七八人まで漕ぎ着けたのであります、故に我が行政當局の方に於きましては非常に衛生狀態は良くなつたと云ふことを誇つて居るのでありますが、私共の眼から見ますと、之は衛生上の注意で以て其所まで漕ぎ着けたのではありますが、實は其設備に於て不徹底な点が多いから一寸注意を怠ると直ぐ落下すると云ふことは明かであります、又此程度以上に健康狀態を增進せしむることは殆ど不可能ではないかと思ふ程行き詰つて居るのであります、況んや今後都市が段々膨脹してゆきますと、其の衛生狀態が漸次不良に陷ることは明かでありまして、洵に寒心すべき次第であります、本年及び昨年に於ける京都市の衛生狀態は如何でありましたか、大阪市に於て一昨年虎列拉病發生當時當局者の狼狽仕方は如何でありましたか、京都の赤痢、窒扶斯、大阪の虎列拉等の猖獗を極めました有樣は寔に寒心すべき狀況でありました、是等の病氣は何れも野蠻病として文明國の最も恥づる所であります、之と申すのも都市の根本計畫が一向出來て居ないからして、斯かる危險が時々襲うて來るのであります、即ち衛生狀態から見ましても、我が大

阪市は大改造を要すべき時期に迫つて居ると云ふを申上げたいのであります。

更に又之を都市經濟の發展と云ふ所から申して見まするに、今の如きサンドウイッチ式の如き都市は大に改善しなければならぬ、元は場末であつた場所が、今度は其貧民窟を取り巻いて其周圍にいつの間にか相當に繁華な街が出來、さうして其繁華な街の場末に又粗末な工場や住宅が出來、又次に繁華な街が連續して出來ると云ふ風に、恰度サンドウイッチ式の市街が、今日大阪市の到る處に出來て居るのでありますが此サンドウイッチ式は都市の体面から言ひましても、將た又衛生上からも、經濟上からも改善しなければならぬのであります、之を除くにはどうすべきであるか、是が又研究問題でなくてはならぬのであります、今日我が國の都市は何れも誠に著しいサンドウイッチになつて居るのであります、此サンドウイッチ式に都市が膨脹するのを防ぐには、どうしても一定の方針を立て地域を定めて、此所は工業地、此所は住宅地此所は商業地と云ふ風に見當をつけ、さうして根本的に區域上の計畫を立てない以上は、いつまで經つても此サンドウイッチ式となつて了ふのであります、若し都市の組織が斯かる有樣であるとすれば、都市の眞實の經濟活動を見ることも出來ず、又經濟的の價値を十分に發揮することも出來ぬのであります、斯かる意味から致しましても我大阪市の如き關西方面の中心であり、又東洋の一大都市である經濟中心地が、一刻も早く其根本計畫を立てて、其實行を期することは緊急の事業でなくてはならぬのであります。私共は幸ひにして此輿論を喚起し、又政府當局者を動かして都市計畫調査會の成立に貢献したのであります、都市計畫調査會は現在政府の自發から來たのでは無くして實は我が關西建築協會の主唱に依つて出來たと云ふことを申上げても宜いのであります、此調査會は其成立新しいけれども、十分に理解ある各方面の代表者及專門家を網羅して居る点に於て、他の調査會と異つて最も眞面目なるものの一つであります

何れ近き中に適當の法律が出來て都市計畫を容易ならしめ、市區改正の事業が一日も早く出來るようにその途を開きつゝあるのであります、之に就いては諸君に於ても十分御諒解を下さいまして、有ゆる方面から此運動此事業の成功するやうに御後援あらんことを願ふ次第であります。

私は大阪の市區改正と云ふことに就いて、モ少し具体的に又數字的に申上げたいと思ひましたが、時間の都合上誠に粗末なことしか申上げられぬのを遺憾に思ひます、今日は是だけで御免を蒙ります。（了）

大正八年一月十三日午後六時より大阪市中央公會堂に於て大阪市主催の商工講演會學行せられぬ。今回は都市改良問題に關する有益なる講演なりければ本會は其聽講筆記を本誌に掲載するものなり。文責は本誌編輯部に在るものなることを茲に明にす。

◆我國大都市改善の必要

東京帝國大學法科大學教授 渡邊鐵藏氏演

予は幼時大阪市に養育せられたる緣故を以て最も愛戀の情に禁へず、今回機を得て最近の當市を視察し多大なる知識を得たり、又各般の施設が東都に比して改善の域に進みつゝあるを目擊して欣喜措く能はず、過去に於ける大阪は既に我國經濟の中心地として商界の覇權を握りつゝありしが、現時に於ても吾國商工業の中心地として最重要なる大都會なり、將來に於て當市が如何なる大發展を遂ぐべきか殆んど想像の外に屬せん、必ずや將來日本の經濟界を負ふて立つの概あり。

されど吾々は都市の外容の發展に滿足する能

はす、吾人生活の幸福を享有せんが爲めに其内容の充實を圖らざるべからず。幸か不幸か昨夏の暴動に鑑み、當市に於ても着々各般の施設を實行し、又都市改良改善の輿論勃興するに際して熱心なる調査計畫を進捗しつゝあり。余は此等の施設計畫の實行を贊同すると共に今少し廣く且大きく永遠なる道程に確實なる成功を祈らざるを得ず。

今更予は現代都市生活の缺点を列擧するの愚をなすを欲せざるも今日吾々個人として日常に於ける都市生活の不滿不愉快は擧げて數ふべからず。而して之等の不滿不平が蓄積せられ行く事は社會的缺陷の最大なるもの也何等かの方法を講じて斯の缺陷を救濟するとは國家としても都市としても大仕事なり。而も國家の一員としても都市の市民としても放擲し置く能はざる大問題也。

或種の論者は田舍も都會も両々相俟つて發展せざるべからずとし、田園將に荒れんとするを慨しつゝあり、されど都會は國家經濟の中軸にして其處に發生する數多の缺陷は必ずや之を救濟し改善に導かざるべからず、啻に市民の努力丈にては不可なり。國家亦之が補助救援を爲さざるべからず。諸君は記憶すべし過去數年に亘る大戰役に於て幾多の社會的示威運動の行はれたるを、其一歩進みたるは革命をも突發せり、而して之等は實に都市に發生せるもの也都市に蓄積せられたる數多の不平不滿に原因す、其小なるものは憂ふるに足らずと雖大なるものは恐るべき影響を齎せる也。

今日大阪市に就いて視察するに都市の改善並に其計畫に關し各種の施設の實行せられつゝあるに驚きたり。公設市場、簡易食堂、土地經營、人事相談所、實費診療所、兒童感化院等の實際的施設が孰れも東京市よりも進歩せるを目擊して却つて歎へらるゝ處多かりき。願くは之等の施設が一時的方便に終らずして永久的劃策たる實績を擧げ來らんことを。要は其規模小なりと雖至誠の貫徹に待たざるべ

からず。

元來吾々が文明國家國民を誇らんとするに方りては、吾國民の中に貧窮に苦み病魔に襲はれつゝある者の多きことを知りながら放擲し置く樣にては不可なり。現に濟生會の如き非常に努力しつゝあれども未だ充分手の届かぬなり。經濟學者の説く所の如く貧民と病魔の止まぬ間は文明を誇り得られざる也。

予等歐米視察を遂げ得たる者は、今更ながら彼等の都市が其諸設備殊に交通機關、電燈、瓦斯、上下水道並びに道路等の完備せるに驚けり。東京市の現狀の如き云ふに忍びず。大阪市亦大差なきを見る。殊に當大阪市に於て必要を感ずるは住宅問題也。敷地の狹隘、住宅の缺乏は東京より甚しきが如し。從て永久的の都市政策を立て豫め計畫を定めて五年十年後に行詰る事のなき樣覺悟なかるべからず幸にして內務省の都市計畫課に於ては種々の調査を進め、既に都市計畫法案及建築法案の二大案が今期議會に提出せられんとするの時機到來せるは慶賀の至りに堪へず。若し該法案通過の曉に於て各都市が何等實行着手の運びに至らざらんか、恰も梯子を與へられて昇るを欲せざるの愚に近し、當市の如きは既に各般の社會的事業に一指を染めつゝある以上は進んで猶豫なく遠大の計畫を實行されんことを望むや切なり。

茲に考ふべきは資金並びに財源に關する事項なり。我國家は多年軍費に巨資を投じ非常なる多額に達せり。今日尙軍備の一日も忽にすべからざるを感じつゝあれども、今や吾々の要望する方面に金を用ふべき時機に達せるが如し、殊に此戰爭にて日本の社會は購買力大に增加し、種々の事業資金倍加しつゝあり。これ等をして產業の資金以外に都市改善に流用すべき也。又郵便貯金其他の貯蓄額も增大せるの際日常生活の改善に使用すること不可に非ず。之等の零碎な資金を流用することは國家の爲めにして決して一部資本家の腹をこやすが爲めに非ざる也。從つて經濟問題の講

究を進めて都市問題の解決に資するは目下の急務といふべき也。

懐へ當大阪市が慶長元和の交に於て大規模の市街整理を斷行せることを、爾來屢々市區改正を遂行せしを知る、吾々は今日斯の進歩せる時代に出來ざる理なし、唯深く考ふべきは金の事也、市民の負擔を重くして迄も改善を求むるには非ざるも、一夕の宴會に數百圓を投ずるの市民ある也、都市全体の改善に金を惜む者は畢竟自分の幸福を知らざる者也。予は東京及大阪の二大都市の市債負擔額の割合に小額なるを知つて、此際都市全体の安寧幸福を增進する爲に進んで借金政策に藉り一日も早く改善の實を擧げんこと希望に禁へざる也。

今飜つて歐米諸都市の市債と比較して研究せんか。

市	債	一人宛負擔額
東京	一二、〇〇〇萬圓	五一圓余
大阪	八、〇〇〇	五〇
倫敦	一一〇、〇〇〇	二四五
紐育	二〇〇、〇〇〇	四〇〇
巴里	一〇〇、〇〇〇	三六〇

又大阪市に類似の都市に於ける市債總額を擧ぐれば、

フランクフルト・アム・マイン	一六、〇〇〇万円	
ミユンヘン	一六、〇〇〇	
バーミンガム	二〇、〇〇〇	
マンチエスター	二三、〇〇〇	

之等の都市は大阪市より人口小なり。

斯く世界の諸都市の狀況を見れば東京及大阪両市が其市債の小なるを知るべく、我國人士が都市の改善を意に介せざるを知るべし。借金をなすは喜ぶべき事に非ざるも、百年の大計を立て得て大局の利を得んとするなれば大に熟考を要する事なるべし。予は現在の市の財政を見て市債の尙增大するも可能なるを思ふ、少くとも東京市に在りては一億五千萬圓乃至二億萬圓、大阪に於ては一億萬圓の市債に耐へ得らるべきを信ずる者也。

斯く一方に借金政策を斷行すれば、他面に之れが財政策を立てざるべからず。今日學者間の所論は殆んど一定し來れり。其第一策は土地政策に在り。市が土地を所有して其使用料手數料の徵集を確立にするに在り。次は市營事業の利金、次は租稅、最後に市有財産の利金に俟たざるべからず。市有財産は其額必ずしも大ならず、乍併大阪築港の如きは市有財産の偉大なるもの也。大阪市の租稅は五百五十萬圓位なるべし、築港附近の土地貸借料金に在りては將來益々有望なる財源たるを疑はず。現在八十萬坪を貸與し得らるゝ由なり而して今は其四十萬坪を貸與しつゝあり。今日一坪平均八錢なりとするも數年ならずして倍加し來るは火を見るよりも明にして、五年後に於て優に五百萬圓以上の料金を計上し得らるべき也。斯の點に就ては東京市の如き其埋立地を拂下げたるは一寸先も分らぬ盲目的所業に非ずや。

租稅に關して尙研究の餘地多し。現在、國稅は混亂せる傾向なきに非ず、敎育費の如き通行稅の如き其甚しきものならん。稅制の整理を斷行して特別稅と國稅とを區別するの要を見る。されど新なる事業を經營せんとせば新稅を徵集するの外なからん。唯夫れ負擔額の增加するは積極的政策として止むを得ざる處決して退嬰主義によつて何等の改善も得べからざる也。唯新稅の研究は最も愼重なるを要し社會的不平の起らざる至當の道に出ざるべからず。其最も正當と認めらるゝは主として土地に關係す。不動產の調査の如き最も行屆かせる要あり。今大阪市に於て不動產規定を講究しつゝある如きは大に可なり。殊に地價の增加による利潤の幾分を納稅せしむるとは世界の學者の正當と認むる所にして我國に於ても實施し得らるべき新稅也、但し徵稅の方法甚だ困難にして大に研究を要すべし。乍併其稅額は左迄高價のものに非ず。歐米諸都市の例にては大抵增額の一分乃至二分を徵集しつゝあれども割合に僅小なる樣也。一九一〇

年の調によれば伯林市の如きは市内に於て六十一萬圓近郊に於て六十九萬圓合計百二十萬圓に過ぎず、されど無きに優るべし。今東京大阪に於て徵稅するとせば尙五十萬圓前後の收額を見るべし。其他名古屋神戸京都等に於ても之れに準ずる額を得べし。

又予等の考へにては娛樂稅とも稱すべき租稅の新設の如きは頗る妙なるべし。都市は必ず娛樂機關を有す、市民より娛樂場に出入するに際して其料金を幾分なりとも都市改善の資源に寄與するものとせば些少の負擔は苦痛とする處に非ざるべし。最も有意義の方法にて。獨逸の如きは盛んに行はれつゝあり。且つ其徵集の方法は頗る簡易なり。現在の通行稅に準じて簡單なる切符を發行する事も妙なり尤も實施に方りては累進率により適當に公平の措置を執るべき也、獨逸に在りては之等の稅金は都市の社會的改善資金に使用しつゝあり。公設市場、簡易食堂の如きは斯種の財源によりて維持すべきものなりと信ず市の一般經費より支出するが如きは不賛成也獨逸の例を見よ、ケルン市の如きは二十八萬圓、デユセルドフの如きも二十三萬圓を下らず。殊に當大阪市の如きは市民の芝居熱は最も旺盛なる樣なり、斯の種の都市に在りては娛樂稅の新設は大に妙なるべし。

尙倫敦伯林巴里紐育等に在りては多くのデパートメントストアあり。我國に於ても三越呉服店、白木屋呉服店の如き立派なるデパートメントストアあれども未だ寥々として振はず。歐米に在りては斯の種の商店は顧客頗る多く市内の小賣店の盛衰に關する程なれば、大概之等の大舖より其賣上高に比例して一種の稅を徵集しつゝあれども、我國に在りては未だ其時機に達せず。

要するに、之等の新稅目は將來都市改善の財源として大に研究を要する項目なりとするも、其金額は必ずしも有力なる資源に非ずされど、土地に關する各種の施設の如きは將來必ずや其成果を産むべきものにして都市の土

地政策は唯一の金鑛なりと信ず。市有地の增大經營は市債の負擔を輕減する最も重要なる要素なり。東京市の如き又當市の如き共に三菱以上の大地主となる事一大急務なるべし。

又都市の住宅問題の如きは都市の改良改善に連關する重要なる項目なり。我國今日の現狀は到底個人の力を以てして大規摸の建築は不可能の事なり。故に大規摸の會社を起して各建築の事業を經營する劃策は都市の改善に最も必要の事なり。我國が現在の如き住宅に滿足しつゝあるは立派なる家を建て得られぬ樣に考へられんが大に然らず。各種數字上の統計より觀れば決して不可能の問題に非ず。英首相ロイドジョージ氏が住宅政策を國家の問題なりと絶叫せる如く歐米諸國の住宅に關する經營は大に見るべきものあり。彼の勞働階級住宅、細民住宅の實施せられたるものに在りて、家賃の如き三圓乃至五圓に止るなり我國の小住宅にても四圓九十錢位の家賃に非ずや。これ我國社會が住宅に關して千年來何等の智慧を振はざるが爲也。

要するに、斯くの如き我國都市の現狀は公共事業に對して社會的努力の大に足らざるが爲にして、都市の有する幾多の缺陷の如きは市民が積極的努力を振起し進んで相當の負擔に應じ飽くまで共同の利益幸福を增進せざるべからず。

予は東京市の現狀について數多の不滿あり今日大阪市の現狀の大に進步の域に在るを見聞し、池上市長始め關博士等の經營劃策が着々其効果を現はしつゝあるを知りたり。今や政府も熱心なる、斯の勢を以て指導後援をなさんとするに際し、益々都市の改善、都市生活の改良が吾々の理想に近づかんことを期待して止まざるもの也。（了）

◆都市の建築

内務省都市計畫課長　池田宏氏演

都市計畫の問題も近時世上の注意を惹き、現に當大阪市も東京市の例に倣ひ、市當局者より市區改正に關する御請願あり、市區改正委員會も出來將來益々發展されんとするに方り、既に當市に於ては都市問題の先覺者たる片岡安君あり、其率ひらるゝ關西建築協會は先頃第一回大會を斯の公會堂に於て開催せられ、各方面の有識者を集められ都市に關する有益なる講演會を擧行せられたるが今更予の如き微力者の講演は寧ろ必要なからん乍併將來我國の諸市は其進歩發展に應じて都市の共通なる缺陷を糺正する爲道路、上下水道、公園、土木、衛生等に屬する各種の工業的施設を完成する事が必要にして、其根本的政策を確立する事は刻下の急務也。乍併如何に道路は立派に完成さるゝと雖も都市の建築物にして一定の秩序なくんば都市百年の計に應ずる能はざるべし。現に豊太閤の開かれし當大阪の町の如きは當時に於て大規摸の經營に成りたりと雖も、若し斯の大阪市を構成する凡ての狀態が殆んど太閤時代と同じものなりとすれば左迄交通上の不能を惹起さざらんも、今日の現狀は既に行詰りつゝあり。是れ固より舊時代の歩行者が車本位となり、又電車本位に進み、更に自動車本位に急轉せんとするが爲めに交通の不能を惹起し來りたるものなるに相違なけれども、深く考稽するときは既に建築物不能の時機に達しつゝあるを感ず。

彼の米國に於けるが如く何十階の建築物は出來ぬにしても大阪市の如き經濟力の發展增大し來れる都、將來東洋第一の大都市たらんとする所、又現在各國の近世的都市の摸型として完全に都市政策を備へたる當市の如きは或は遠から

すして斯の高層建築の出現は決して想像に難からざる也。

斯くして行詰りつゝある現狀に於て交通の不能及其困難は或程度迄忍び得るとするも、宏大なる建築物が軒を並ぶるに到らば今日の市制にては保安上救濟し得られざるべし。又都市の商工業の要素たる人の力の盛衰、其活力の消長に影響する衛生上の憂ふべき結果を齎すべし。交通上の不能は衛生上保安上さまで大なるものにあらざるも、建築物が宏大となれば、其受くる一般の損失は甚大なるもの也。又都市の建築が雜然として隨所に散在するが爲めに受くる都市の弊害は頗る多しといはざるべからず　例へば住居の地域として安寧を保ちつゝある市區に一度或種の工場出來んか住居の安寧忽ちにして破壞せらるべし。折角今日迄に維持せられたる住宅地も忽ち不適當地となり、地價の變動人心の恐慌甚だ重大となるべし。又商業の繁昌地に或種の工場現出するとせば其商業地域の損害は商業上の損失に影響すること多大なるべし。

則ち各種の工場が自から場所及地域を得、夫々其建築物の目的に適合せる樣仕向けることが出來、又建築物が安寧を保ち活力を增進するに必要なる建築に關する相當の法令及取締が施行せられねば都市改良案を如何に作成するとも、各種道路の改善擴張を斷行するとも到底滿足なる結果は得られざる也、法規の不完全、不用意の爲に當初の計畫も竟に改造の破目に陷るべし

斯くの如く、建築に對し充分の用意なく、都市改良の根本的計畫を改造の止むなきに至らば多年投下されたる大資力、連年繼續せられたる大勞力は全く徒らに空費せらるゝに至らん。而して過去並びに現在に於て之等の效果擧らざる多大なる勞費を空しく放下せる都市決して尠しとせず。殊に米國の如く近時商工業の勃興と共に繁榮し來れる各都市に在りては殊に斯の例多し。されば、米國の諸都市に於ては都市計畫問題の解決は都市建築法規の完成と平衡するに非れば不可能なりと結論されつゝあり。從つて新しき都市計畫に應ずる建築法の新法規は近時

米國に於て盛んに研究されつゝあり。紐育、市俄古ロスアンゼルス等の諸市の如き皆然り。既にロスアンゼルス、紐育、市俄古、ボストン、セントルイス諸市は立派なる建築法規を有するに到れり。獨逸に在りては既に〳〵建築法規は着々實行せられ各國の摸範となり居れる也。又佛國の如きも斯くの如き都市建築法規の完備を見るに到り、社會保安上都市衛生上及都市交通上に於て夫々完璧の域に達し、之を以て都市計畫の重要なる武器となし、都市の改善及其發達を確立しつゝある也。

而して之等近代建築法の主張は何んであるかと申せば、第一に都市の地域に關する制度なりし若し都市の地域を確分して其地域に相應する建築が整然たらざる時は、都市を更らに發展せしむるに方りては都市の衛生、保安、交通等に關して救ふべからざる缺陷發生し來りて、終には根本的大改造を斷行せざるべからざるに至らん想ふに、多大の努力と巨額の財力を傾注したる多年の劃策が、再び計畫の根本的改造を爲さざるべからざるに至らば公私の上の大損害は惹いて國家的大損失となるべし。

斯くの如く都市改良計畫不成功を齎らさざる樣に當局者の畫策は勿論、又公共團体に於ても市民としての個人に在りても、公私の上に多大なる徒費を投せしめざる樣無駄なる努力を無謀に費さざるが爲には、都市は其各種建築物の地域を確立すること最も重要なる項目なり。地域の制度とは大体都市商工業の發展すべき場所を確定するの謂にして、又住宅地の經營確保等をいふ。蓋し其目的とする所は各種商工業の益々發展隆盛を偉大ならしむるが爲也、故に工業地域商業地域を確定し、更に住宅地域の區劃設定を確實にし、夫々其業務の繁榮、居住の安寧を增進せしむるが爲めに都市の重要なる各等の道路は之等の地域に相應せしむる樣の計畫を立て又交通政策をして各種の機關の整理が地域制度の從たらしめ、以て都市に於ける各種の施設經營が完全なる圓滿なる發達を遂ぐる樣に都市計畫事業を完成せしむること最も必要ならずや。

就中住居の地域とは申すまでもなく吾々の安息所也。斯の安息所をして衛生的にらしめ、吾々の健康を保護するが其主旨なり。從つて地域の範圍内に有害の工場其他都市住宅圍の安寧を侵害する建築は全く排斥し去らざるべからず。又商業の地域に在りては大小各種の商店、會社卸商、小賣店等軒を並べて其業務繁榮の基を定めざるべからず。又工業地域に在りては、商業並びに住宅地に不良なる各種建築を集合せしめ地域内の交通連絡を圓滑にし、水運陸運の便を備て、工業上の能率を飽くまで發展せしむる樣に計畫せざるべからず。

斯く地域の劃立を具体的に決定するに方りて今日の諸都市の現狀に於ては却々の困難を感ずるなるべし、今日の大阪市は割合に自然の發達が特種の徑路を歷來りたりと雖、尙頗る亂雜也元より自然の發達が土地の形象に應じて甚だ都合よく發展し來れる部分尠なからず當中の島の如きは公館の集合地となり來れるあり、水運の利多き地區には倉庫工場の所在するあり、船場の如きは銀行會社の自から軒を並ぶるを觀る。乍併之等自然的現象を將來永久に放拋するは到底現代都市として忍ぶべからず。何等の秩序なく法制の見るべきものなくして勝手なる發展をなさば都市全体に蒙り來る損害は甚大なるものあり。又、當市の如き經濟的都市の生産の能率に影響する處頗る多大なるべし。其交通路、交通機關の如きも終に交通不能の結果に陷るべき也。

斯くの如き狀況は我國の各市に其事例枚擧に暇あらず。故に地域の制度を確立するは今回の建築法の最も重要なる骨子也、其他に在りては建築物の高さの制限の如きも大に必要なる事也紐育市の如き數十階の摩天閣を亂立したる結果交通、衛生、保安等の障害續出し來れる事想像に難からず。

素より都市は經濟の中心地也、而して其地價頗る高率なり。故に高價なる地所は高層の建築を建立して其他價の低減を謀るの策は必然の結果なるべし。又地所に相應せる之等の劃策を講

じ、或は講ぜしむることは大に必要なるべし。都市はさなきだに膨脹す、或西洋の詩人は都市の發展膨脹の狀況を形容して「蛸の八手を張れる如し」といへり。實に大都市の發展は其止まる所を知らざるが如し。乍併無制限なる發展は亦考へもの也。各種の設備を完結せしむるに方りては、個人或は公共團体の經濟力にては、改良事業の施設は到底其發展の跡を追ふの外なく又追ひ及ぶとすら不可能なるなり。されば都市計畫に都市の土地問題及高速度の交通機關等を考へ、進んで建築の高さは固より其他の事項を講究し、商工業の發展を阻害せぬ樣又交通衛生保安上より最も適當に調査研究するは一日も早く其善良なる効果を齎らさんとするに在り。

而も建築の高さは今迄の建築法の如く劃一的の制限は大に不可にして、必ずや地域と並び考ふるの要あり。仍ち土地の價格高き商業の中心地に至りては、交通道路は是非共之を廣濶にして建物の高さも相當のものに許さざるべからず都市の中驅區域に在りては少くとも東京に新築せる東京海上保險建物位迄の軒高を許すべく、又住宅地域に在りては相當に寬除し大局に差支なき程度に高さを制限すべき也。

斯くの如く地域に應じて建物の高さを定むるは獨逸の初めて行ひたる所にして、米國の如き盛んに之に倣ひつゝあり。紐育市に在りては地價高騰なる中樞の街區の如きは今後摩天閣を出來さぬ樣に法制を定めつゝあり。

地域に關聯して目下獨、米、英等に於て等しく實行しつゝあるは建物の敷地に對する建築面積の割合、若くは建築の敷地内に存ずべき空地の問題なり主として衛生上の見地より研究せるものにして住宅地域に與へたる制限也。去り乍ら、此問題は吾國にては稍趣を異にし、住宅地には空地多く寧ろ土地の利用上より制限して欲しき位也。乍併當阪神地方に在りては不幸にして空地甚だ少なく空地に關する規定を設くるの必要を見る。然らざれば將來の安寧幸福を維持するに困難なるべしと思へり。余は當地近郊の狀況を詳知せざるも、過日西宮町附近を視察し

て阪神間の住宅地たる斯の地始んど空地なく道路は寸地を惜みて狹隘甚しきを觀て將來を憂へざるを得ざりき。一朝火災等のパニックの際を想へば慄然たらざるを得ず。乍併大阪府としては今日拜見すれば築港と西九條方面との間に可なりの空地あり、これ誠に結構の事にして大阪市の將來にとりて大いに慶すべし。之等を如何に利用するか今日に於て適當な調査を經て建築上の制限を考慮するの要あるべし。市に於て將來の計畫を確立すると共に、此間に在る人々は個人としても公共團体としても相當の注意を要すべし。殊に交通保安衛生に關する利害は篤と考慮を加へざるべからず。

其他建築上の問題については既に目下に於ても災害問題に關する保安上の法制を講究するの餘地充分にあり。數年前に於ても悲慘なる大爆發事件あり、既に幾多の苦き經驗尠からざる也要するに、大阪市が益將來の繁榮を期劃する爲には、今日の狀況にては幾多の缺陷益蓄積するを疑はず。之等の點に考慮を廻らし政府に於ても水野前内務大臣就任中調査に着手し今や都市計畫法及建築法案の制定を急ぎ此頃漸く決議を經て両法案の審議を議會に附せられんとす。確定を見るの曉には直ちに施行せらるべし。永遠なる都市計畫と相俟つて、公私の努力を斷行すべく廣く經濟上より打算して多額の財力を無意義に空費せざる樣、有意義の努力を敢行して有利なる効果を齎すことを希望して止まざるものなり。（了）

◆都市改良問題

前内務大臣 法學博士 水野錬太郎 氏演

諸君、此度當市の主催により、都市問題に關して講演會を開催するに方り予にも一席の講演

をせよとの市長よりの御要求に應じ、本夕茲に諸君と相見ゆるは予の光榮とする處なり。

予は都市の問題に就きては公人として議政上の關係より幾年手掛けたる處にして、私人としても都市問題に關し研究を續けつゝあり、又都市の問題は國家の重大問題なるが故に都市の住民としても大に研究せざるべからず、現在各種の事項を抱容せるが今日以後も益幾多の問題累加し來るべし。故に斯る問題に關する講演會の如きは極めて適切にして予の最も喜ぶ所なるが故に進んで出席せる次第也。

乍併斯の事に就きては既に渡邊博士及池田宏氏より詳細說明されたる後にして、時も大分進み諸君御倦勞の色ある樣なれば極めて簡單に予が所感を申述べたしと思ふ。

予は大阪市の問題に就き間接に多年種々の關係あり、大阪築港が計畫されし當時知事西村捨三君と間接に關係したりき。又二十年前此築港が愈其工を始めんとするの際に於ても、或は電車の市營に關し、財政上の問題に就き、種々の御相談を受けたり。又市府の當局者と度々種々の問題に應酬したる因緣淺からず。予は大阪市民と共に大阪市の幸福增進を希ふや切なり。

予は本日當地に參り池上市長關博士等の御案內により築港其他の視察を遂げたるが、益改善の域に進みつゝあるを識り欣快の至りに禁へざるものあり。乍併大阪市の問題として今日以後尙幾多の問題發生し來るべし。之等の問題の中にも諸君と同感する所の問題甚だ多し。現在實際問題について「什うかして貰いたい」との希望多々あらん、例へば平易に實際問題を惹けば近時市內郊外といはず電車は殆んど滿員々々にして乘り切れぬなり、殊に雨天の時に在りては今少し便利ならんことを望むや切なり。又道路の如きも降雨に際しては普通の下駄にては步行に困難を感ず、斯の種の事例は今日御互に抱懷しつゝある所感にして、所謂今日の都市改良問題の一端に觸れたるものなる也。

斯の種の問題は目前の事例に過ぎざるも、都市に關する各種の問題に就ては各人各樣の所感

を抱かるべし、さすれば都市につき御互に考慮を費すべきはいふ迄もなからん、所謂「都市は國家の重大問題なり」といふ事は申す迄もなき處にして、都市は文化の中心、又國家の頭腦也故に都市の經營を劃策するは國家の利益を增進する所以にして、都市の物質的又精神的方面の如何を研究して國家の利益を謀るの必要ある也又既往の歷史に鑑み現在の情況を調査すること急要の問題たるを失はず。

歐米諸都市に在りては既に着々都市問題を研究し且各種の施設を經營實行しつゝあることは諸君の既に熟知する處なるべし。或人曰く『現代都市は社會福祉の原動力にして國民の幸福を增進せしむべき重大なる團体なり』と實に國家國民の基礎的要素は都市なる也。素より國家は都市以外の農村の發達隆盛を考慮せざるべからざるも、都市は吾々の實際生活に重大なる關係を有する事は疑なし。

事實の上に徵するも都市の人口は日に〳〵增加するを觀る、即ち都市集中是也。都市には財産、智識其他凡てのものが集中する結果、都市には非常に人口增加しつゝあり。歐米の實例を觀るも十年前人口二三萬の都市が現在十萬以上に達せるもの頗る多し。甚しきは百萬二百萬に達せる都市あり、殊に獨逸に於て甚し。

而して此等の都市を有する國は全体の人口の五十パーセント以上を都市に集中しつゝあり、且つ年々累加する趨勢漸く烈し。故に佛國の或學者は『若し此の趨勢を以て進まんか巴里市の如きは四百年後に於て充滿し、如何なる家をも造る能はざるに到らん、反之農村疲弊し來る、巴里は人口四千萬に達せん』と是れ必ずしも架空の談に非ず、數字上に示されたる十年、二十年の統計に基き將來の打算を致したる明細なる數字なる也。

茲に於て所謂都市と農村との調和を謀るべきを必要とする議論起る所以にして大に研究を要するや明かなり。大阪市の如きも現在人口を倍加すること數十年を待たざるべし、東京、神戸名古屋諸市亦此の趨勢を免る能はざる也。斯く

都市に多數人口の集中は社會的に考察すれば甚だ惡い事なりといふ說は幾多の學者政治家の唱へつゝある所なるが善惡はとにかく現在の事實として世界的趨勢なる事丈は明かなり。

然らば其人口年々累加する都市は之れに應する施設を謀らざれば忽ちにして缺陷起り來るべし、例へば人口百萬の都市が百五十萬に增加せば如何進んで二百萬に增加するも何等支障なきか、此等の增加に應ずるの施設經營を如何にすべきかは御互に深く考慮すべきものに非ずや。

茲に所謂都市改良問題起り來る也。都市に於ては既に幾多の問題あり、市內に交通機關の必要なれば高架鐵道或は地下鐵道の必要をも觀るべし、又商工業の各諸市に於ては勞働者集中し來るべし、其住宅の改良或は勞働者職工の慰安貧民の救濟其兒童を敎養すべき學校等に就いて考慮を要す、各種工場の諸煙筒より吹き出す煤煙の豫防如何、或は都市衛生上の缺陷竝正策等擧げ來れば數ふべからざる也。

斯くの如く各種の問題に亘りて都市は大いに何かの方策を立てざるべからず。茲に於て都市計畫の問題起り來る也。事新しく申す迄もなく都市は各其依つて來る性質を異にす、工業中心とする都市、商業によつて立つ都市、敎育都市或は奈良京都の如き名所舊蹟都市等あり。然らば都市の現狀より其將來の發展に關して必要なる劃策を立てざるべからず是れ所謂都市計畫なる也。此の計畫は大に愼重の熟慮より打算せざれば百年の悔を胎すべき也。我大阪市の如き現在築港方面に種々の家屋出來つゝあり、海に接して倉庫上家の建設は當然の事也、乍併茲に住宅を建つれば將來取除かざるべからざるに到らん、是れ將來を慮らざるに因す、而して徒らに從來の費用を捨つるのみならず新築に更らに無駄の努力を拂はざるべからず。道路の如きは他日相當の發展の時を考へずして自然の儘に放置すれば他日市民の享くる不利益は蓋し甚大のものあらん其他、公園、學校、等の配置に關しても其日暮らしの都市は百年の悔を胎すべき也。

則ち將來の悔を胎さゝる爲めに今日に於て計

畫を立てざるべからず、而して工場地、住宅地等の區分を整然たらしめ勞働者の家屋等は衛生保安上に遺憾なからしむる等夫々の考慮を加へざるべからず。次いで道路、河川の築造修理を講究し一定の計畫を立て而して始めて其都市の發展を期すべき也。

今日都市計畫の聲は諸人の高唱する處なれどもさまで珍らしからざる也、昔時も社會の趨勢に應じて夫々の經營をなしたり。されど此事業は常に所謂先手を打つの要あり、余は曾て獨逸首都伯林市を訪ひし事あり、今日は紛亂の巷なるも當時は明治二十九年、三十年の交なりき。一日其警視廳を參觀して當局者の手に將來の市區計畫圖を一覽したり、觀れば郊外地に對する施設を現はせるものにして二十間十五間の道路公園、遊園の配置より、將來の鐵道軌路、市街鐵道、或は家屋の高さ、水道の設定等極めて詳細の記載圖なる也。然も此の空想圖は現在何もなき平原なる也。余は之を視て實は冷評せり、彼等は理想に馳せて到底實現し得られざる空想を畫きつゝある也と信じたりき。

然るに十年を經たる明治四十年再遊の途上會伯林を過ぎり其郊外地を視察するや、數多の家屋、高架鐵道、市街地區の整然たる、先年空想と冷評せる彼の警視廳の圖面通のものなるに非ずや、僅々十年間の日月は斯くも彼等の空想を實現したる也、曩に冷評したる余は背汗の止むなかりしを覺えたる也。想へ、十年以前に於て彼の緻密なる計畫なかりしとせよ、如何に亂雜なる郊外地區を胎すべきかを。而して更に一考を要するは此等の經營劃策が其經費の上に於て多大なる節約をなし得たるものなる事也、彼等が十年前に於ては彼等の計畫は大なる苦痛に相違なかりし也、今日の便利、利益は如何ばかりならん。故に都市計畫の如き將來の發展を觀んとする都市には大いに必要なりと感ぜる也。又下水問題の如き伯林に於ける施設を視察せり、市の當局者は將來必ずや衛生上の不利益ありと斷じ、人口の增加に備へ置きたり。當時頗る安價なりしに爾來地價暴騰し來り、今日の下水排出

地を賣却すれば優に二億圓の市債を償還し得らるゝ由也。斯くの如き先手の考案を立てゝ置く事は大いに必要ならずや、故に都市計畫は須らく都市の經營發展に充分の注意を拂ひ一日も早く着手すべき也。

斯く申せば諸君は大に非難すべし、『斯く必要なる都市の計畫を何故に早くせざりしか』といはん、此の詰問に對しては寔に恐縮の外なき也。當時余は大都市には斯かる計畫を爲すの要ありと考慮したるも、是は自治團体の聲に據らざるべからずと思惟せり。東京の如き明治二十年頃より市區改正の事業に着手して稍其完成を觀たりと雖今後益將來改良の餘地多し。然も此間種々の紛情困難を伴ひたり、蓋し此の事業の實際が如何に困難なるかを思はしむ。

然るに近時他の諸都市に於て都市改良、市區改正の聲起り來れり。時なる哉、大阪市は率先して立てり。實に當市長助役諸氏の功績なる也東京市の市區改正に準ずる樣の要求は起り來れる也。時なる哉、時なる哉、是れ時運の然らしむる所ならんも我國の大工業都市、大商業都市の其發展の趨勢が此種事業の急要を感じ來れる也。余は實に滿腔の同意を表せる也。遂に大阪市に次いで京都、名古屋、横濱、神戸を加へたる六大都市は相率いて市區改正條令の準用を許可するに決し、早速昨年其改正案を發布するに到れり。

時期は既に遲からんも自治体より此聲起れるは喜ばしき限りに非ずや、これに就きて種々財政其他の研究を要すべきも成案ありと信ず。然るに茲に都市計畫の聲が建築家の間より起り來れるは實に意外とする處也、政治家財政家法制家衛生家等の間に何等の聲なくして東西の建築協會より建築法規に關する建議出でたるは全く空谷の跫音を聞くの思あり、片岡氏の如きは其主唱者の一人なり。斯くて豫算編成を終へたる時なりしと雖好機逸すべからず追加豫算として調査費を要求し何等の異議なく兩院を通過せるは幸なりき。都市計畫に關する費目として甚だ僅少なりと雖遂に委員會の設立に次いで内務省

に都市計畫課を置き現に池田氏は其課長たり。又片岡、渡邊、關諸氏等各方面の專門家を聚めて調査委員とし余は其團長となれり。昨年末遂に都市計畫法案及建築法案の二法案を決議し今期議會を通過し得べき段取りとなれり。時運遲れたりと雖尙決して遲しと云ふ能はず。將來に於て大都市が如何に大なる利益を得べきか測るべからず、而してこれ各都市民の決心と發奮とによりて必ずや實行し得らるべき也。則ち茲に大阪市民の發奮を乞はざるべからざる也、斯くして都市改正の事實上の實現の第一步は完成し來らんとする也。

然るに一般には尙未だ知られざる樣なり、都市計畫の言葉は深く市民の腦裡に浸潤せざるべからず、直接に市民は都市計畫の效果が時を省き、勞力を省き衞生設備を改良し、保安交通の整備を得て御互に多大なる幸福利益を齎らすべき所以を知らざるべからず、例へば、市內の一部に疫病發生せりとせよ。今日の事情にては忽ち多額の費目を消費せざるべからず。最近四日市の如き二十萬圓の費用を忽にして消失せるに非ずや、而して其結果は市稅の負擔にかゝり、苦痛に加へて危險は此上なき也。斯の如き莫大の費用を換算すれば平時に於ける不斷の改善改良に御互の努力の如何に必要なるかを察せざるべからず。

高崎市の例に觀よ、彼の上水道敷設後に於ては連年流行する赤痢病減少し從つて衞生費の額減少し各個市民の負擔も減少し幾多の災害を防止し得らるゝに到り市民の滿足漸く大となれり斯くの如き都市經營の設備は、個人となく公人となく重大の關係存在するを忘るべからず。而して此種の經營に關する市民の負擔は喜んで迎ふべきに非ずや。渡邊氏も歐洲諸都市の負擔額につき詳述せられたるが我國諸都市の現在市債及び市民の負擔額は猶未だ頗る小額たるを觀る也。英佛獨の諸都市に在りては市の當局者は各其負擔額の多きことを誇りつゝあり。債金の多きを誇るは甚だ妙ならずや、乍併彼等は大なる市債を負ふて其れ丈の仕事を敢行して都市の安

寧を保ち利益を增進しつゝある也。マンチエスター市の如き其運河を通ずるや市債額に五朱の利息を拂ふて一割の利潤を喜びつゝあり、故に水道運河、市區改正、公設市場等の改良施設事業は十年廿年後立派に償却しつゝある也、然らば彼等は借金の大なるを以て市民の幸福の施設をなしつゝある也。

斯くの如く市債の巨大なるも其償還の方策確立しつゝある以上は市債は決して虞るべきに非ざる也。我國に於ては一時市債の善惡に拘らず中止せしめたる事あり。乍併國家の利益を增進し得べき市債の多きは寧ろ喜ぶべき現象なりと信ずるもの也。故に都市の改正計畫に就いて諸君は大いに考ふるの要ある也、茲に諸君の注意を喚起する所以も亦其意深し、歐米諸都市に在りても盛んに講演をなしつゝあり。自己一人の利害のために百萬の幸福を破らざる樣心掛けざるべからず。故に初めは苦情多かりし諸都市が漸次專門家建築家經濟家の詳細なる調査を了解し市會先づ決議を起し一面市民に充分なる報告を傳へ市民亦進んで研究し來れる也。されば都市計畫に關し數多の出版物を刋行し、展覽會を開催し、統計を發表し、衛生上の調査報告や模型圖面等を陳列して市民をして一目瞭然たらしむる也。『民知り且つ之に依る』と此精神を以て御互に都市計畫の完成に努力すべきものなりと思惟す。而して余は本日特に大阪市に就き喜ばしき現象を發見せり。そは曾ては大なる失敗と見做されたる築港の如き今日の實狀より觀察すれば必ずしも失敗に非ざる也、唯時機の問題なる也、遲速は有るべき事也、兎に角今日に於て大なる利益を見つゝあるは今昔の感に堪へず。往時芦原なりし地域に今日工場の幷立を觀るに非ずや、これ當時の計畫にあらざりし處にしてしかも今日大阪市の物質的反照として予が欣快とする處なる也。

又精神的方面に於て特に感じたるは方面委員の設置是也、これ市の方面方面につき其生活狀態を調査視問する委員會にして夫々多忙なる人々之に膺り何等の報酬なくして努力せられつゝ

あり。現在十六七の方面委員が各方面の聯絡を謀り研究を怠らず、余も其一二を視察したるが是れや大都市の自治精神の偉大なる發達と觀られたり。由來大都市に在りては自治精神起らざるもの也、從つて調査却て不可能也、役人の仕事が充分に徹底せぬ事實は大なる遺憾なり。余自身の經驗に徴するも不徹底なるを感せり、然るに方面委員の爲す所を觀ればよく其實狀を發見しつゝある也、これ民意を知るの良策にして自治精神の發露なり、大阪市に此精神的發展の實際を視察して大なる喜びに打たれたり。

今や大阪市は戰後の經濟戰を前にし重大なる地位に在る事は申す迄もなき處なり。既に歐米諸國に在りては着々戰後の經營を劃策しつゝありと聞く。從つて將來の產業戰、敎育戰に對して充分なる覺悟なかるべからず。而して特に大阪市が必ずや此の大戰爭の中心地となること疑ふべからず、吾々は大阪市を措いて何等の仕事も出來ざる也、大阪市が一面益發展隆盛に活躍さるゝと共に他面に於て其內容の改善充實を着々經營實行さるゝ事切望に堪へず。特に大阪市の有力なる市民に希望する所以なり。（丁）

▲都市と建築技師▼

歐米各國にては、都市公舘の建築設計には建築技師の技能と經驗に重きを置くことの想像外なものがある、我國の一般人士が淺薄なる素人觀を以て之を壓迫するの事實多きと、又數次建築技師の不徹底なる見識を聞くのは、實に都市發展上の爲に惜むべきことである。



現代社會觀（一）

會員　茅海生

序

泰西文明の到來に驚いて堅く閉鎖された門戸は止むなく開放されて以來七十年、進んで澎湃たる時代の快潮に乘り出して歐化主義の旗織鮮明となつてからの半世紀、時には國粹保存主義の反動、外來思想に對する反感が突發して波瀾を捲き起したにせよ。明治時代の社會現象には過去の破壞、新智識の輸入に大勢は推移した。時には矢の如き急流、時には滔々たる早瀬、時には狂瀾巨岩に激することもあつた、遂には進んで數多の細流を合一して洋々たる大河を二十世紀に現出したのであつた。されど新日本の現代社會を悉細に點檢研究を怠らぬ者は、此洋々たる大河の抱容する彼の流此の流は明かに識別せられる樣である。大勢は絕ゑ間なく時に推されて進むにつれ、大の流、小の流は多少の融和を遂ぐる間もなく、流れ〳〵行きつゝあるのではあるまいか。

明治時代の社會現象はかくして過渡時代の有の儘を到る處に物語つてゐる。多くは混亂であり、混交であり、亂雜である。

現代社會の表面に活動して居られる先覺者は「新日本の文明」がどうの恁ふのと叫ばれるが、現代藝術界の大渦を眺めつゝある批評家は「暗黑時代だよ」と一喝し去られる「東西文明の融合」は新日本國民の把持すべき唯一の大目標であると多くの智識階級の名士は高唱されてゐるが、何事をも知らぬ連中は唯夫れ亂雜極まる現代文明の弊に心神を消磨されつゝある樣である目の廻る樣な忙しい現代社會が、新舊の思想、東西の習慣、古今の道德、兩洋の趣味を目茶苦茶に羅列し提供し好尙し品評しつゝあるが爲めに益々困迷惑亂の淵に溺りつゝある近代人は幸であるのか、不幸であるのか解らない。

明治の時代はやがて大正の時代となつた、大正の時代もやがて八年の春を迎へた。明治と大正と時の流からいへば何等の區劃もないが、人の心はいつか變りつゝある、又變らざるを得ぬ樣である。混亂や惑亂にいつ迄も捲き込まれて居られない。人の心は社會の心である。社會の心は今や新たなる道途を求めつゝある樣である。そして顧みて半世紀の過去を眺め、又遙かに半世紀の前途を望むとき、いつまでも恁うして居られなくなる

混亂を解決し、惡亂を脫却し、複雜を整理し、亂雜を救濟すべき運動が自然と起つて來る。社會問題の勃興されて來たのはこれが爲である。社會政策の高唱されて來たのは是れが爲である。

現代社會の先覺者が行き詰つて來た明治時代の社會現象に驚いて恁うにかせねばならぬ前途の開拓に手を下さんとするとき紛亂混雜の現狀を調査して今更ながら驚歎の聲を擧げざるを得ない樣である。救濟の船は無法に放たれぬ、うかとすれば大渦の眞只中に捲き込まれるかもしれないのである。さらば什うしたらよいかといふのが現在の狀況である、茲に議論が沸き、彼處に論爭が起る、今や將に救難の志士は勃々として現出して來たのである。

乍併大勢の移動は千萬力である。如何なる方法も燒石に水の觀がある樣である。盜賊を見て繩を結ぶの止むなき樣である。議論は解決の初步に過ぎぬ、澎湃たる大潮を容るに足るべき運河を掘鑿して之を善導しなかつたら要するに駄目である、然らずんば根本的に流域の修理を斷行する外はない。一時的の姑息案では什うすることも出來さうにない。

處が自然は公平である。天然は偉大である。滔々たる濁流も時を待てばいつか澄むものである昨日の早瀨は今日の淵である流其のものはあらゆる不自然を不斷に解決しつゝある樣である矛盾を碎き、凸凹を平げ、高低を均し、和ぐる自然作用は不可思議な覺力を振ふてゐる樣である。そして此等の覺力の潛在する所以は社會其物の偉大を物語つてゐる樣である、覺力の働く處には解決の鍵となるべき眞理が保存されてゐる。此の眞理を發見するのが經世家の力むべき任務ではなからうか。

眞理の探究それは中々の仕事である。鑛山から採掘される金銀できへ玉石混交の礦石から幾多の方法を經て精錬せられる。況んや海の樣な大河の流、混亂の現代社會から求めんとする眞理の巖は尋常一樣の鑛石と比すべくもない。求め得た礦石から幾パーセントの產額があるかそれは識る限りではない。現代の識者の活眼に俟つの外はないのである。

記者は集まり來る鑛石を先づ以て羅列して見たいのである。分類を立て、種屬を分ちて研究の一步を進むるの人は決して少なくないと思ふ。これも恁うか、彼れも如何と手當り次第に陳列棚へ供へる仕事も相當に骨が折れる。並へ終つてなんだつまらないといふ事になるかもしれぬ。併し高價な眞理は思はぬ處に轉つて居るといふ事である。徒勞に終つた處で徒勞であつたといふ最後の斷定のつく迄は行つて見れば解るものでない。前提を此位にしておく事にしやう。

一番最初に御芽出度い結婚の話から初める事にした、併し現代社會は御芽出度い事ばかりでもない、隨分鼻つまみな事柄も澤山ある、だん〳〵並べて行く中には困つに事、醜惡な事、恥しい事、嬉しい事、樂しい事數限りもない事であらう。

◆神前結婚の過去及び現在

在東京　大番町人

神前結婚の濫觴を探ぬれば、随分種々の考証もあらうが、夫れは本稿の目的では無い。又之れを的確に知るといふことは甚だ困難であるが要するに我國に於ける神前結婚は、遠き昔時より行はれたもので、こゝ百年や二百年前からのことでは無く、而も其れは何れも各家庭に於て媒酌人や親族等が立會の上適宜に行つたもので、今の日比谷大神宮のやうに、公衆の爲に式場を供給し、且つ神官が其の式禮を主宰して堂々と行つたものでは無い、從つて僧侶が葬儀の導師をなすと同樣に神官が結婚式を司宰するやうになつたのは、先づ日比谷が其の濫觴を成したものと云つてよい。

由來月下氷人の代名詞を「出雲の神」と稱する位だから出雲の大社が神前結婚を主宰した本家本元のやうに思つて居る人もあらうが、それは誤謬である、出雲の大社は大國主尊（俗に云ふ大黒さま）を祀つたもので、決して縁結びの神樣では無い、それならば何故に月下氷人を指して「出雲の神樣」といふに至つたかと云ふに、古來出雲大社の末社に諸冊の二尊（夫婦の出來始め）を祀つた小祠があつて、俗に之を「結ぶの神樣」と云つて居るが、此の「結ぶの神樣」の小祠の附近に神木と稱する大樹があり、結婚せんとする男女は各々其の名前を記した紙片を此の樹の枝に結びつけ、神前に於て夫婦の誓ひを立てたのである。此の結びの神樣の御前に於て、一たび夫婦の約束を結んだものは、其の交りは永久であるといふ信仰から新郎新婦は勿論、好配偶を得んとする男女は盛んに結ぶの神樣に御詣りするやうになつたのである。で、出雲は神前結婚とは言へ一定の形式が具備した

所謂結婚式ではなく、幼稚なる未開原人の信仰に基因した夫婦の固めに過ぎない、然らば初めて神前結婚の形式を定めた日比谷大神宮が之を公開するに至つた動機如何と聞くに、明治廿年頃同神宮内に貴婦人達ちの主唱に係る禮法講習會といふが組織され、當時の華族女學校學監たりし下田歌子女史が其の會長として諸禮式の研究改善を圖つて居たことがある、會員は何れも權門名流の夫人令嬢にて、小笠原流とか何々流とか云ふ日本の各禮式及世界各國の禮法から、其の長を取り其の短を捨てゝ、最も時勢に適合する處の「國禮」なるものを制定するに努力した、超へて明治三十三年、今上天皇陛下が猶東宮に在せし御時、畏くも宮中の古式其他に據り最も嚴かなる御結婚の御式典を營ませられた、其の翌三十四年前記國禮に更に宮中に於ける尊い此の御式典をも參酌して神前の結婚式法を創定し、之を一般公衆に推奬した、其の年の七月黄道吉日を選び、いと約まやかに光輝ある日比谷大神宮の神前に於て、此の式法に則り結婚した芽出度き最初の夫婦は、男爵高木兼寛博士の令嗣從五位喜寛氏（當四十五才）と正四位勳四等第十五銀行取締役にして日本郵船會社監査役なる有馬武氏の二女島子（當三十五）とである。之れに次では能樂の家元觀世家の婚儀、引續き高木男爵家にては其後二男醫學博士兼二氏（當三十八）と男爵神田乃武氏二女百合子（當廿七才）との式をも擧げた。

神前結婚の始めて行はれた明治三十四五年頃は、未だ多く人に知られ無かつたので日比谷でも一年に僅か十組か十一二組位の申込に過ぎ無かつたのであるが、爾來漸次世に認識せられ、今日では一年の申込み優に千五六百組の多きに達し、現に十一月三四両日の如きは去八月中既に約束濟みとなつて居たといふ有樣である。

斯くの如く日比谷の神前結婚が流行し出したので出雲大社でも明治四十年頃からボツ〳〵始め出した、けれども何分地の利を得ぬ爲め萬事手輕に行かぬ處から、今猶微々として頗る振はず、此外京都の官幣大社平安神宮でも大阪の官

幣中社天滿天神宮でも現に申込を受け相當の成績を擧げては居るが、日比谷は何と云つても二百萬以上の人口を有する帝國の首府に在るのと其の設備が完全して居るのと、今一つは神前結婚の元祖といふだけに最も盛大を極めて居る。

設備の完全な点を言へば、第一建築が之れに相應はしく出來て居ることである、先づ式場が七十二疊の大廣間、他に「夫婦控所」「親族控所」「夫婦の固めの盃をする室」等が附屬され、猶別棟として「謝禮の間」（松の間といふ）「婿、嫗の各支度部屋」等がある、婿の支度部屋は二階の西洋室二間で約四十疊位あり、嫗の支度部屋は階下の日本室二間で二十四疊も敷かれて居る建築材料には總て木曾の檜を用ひ、其の様式は御殿作りになつてあるから、微塵も輕浮の調子がなく、おのづから莊嚴の念を起さしめる。

元來日比谷大神宮とは世間の通り名、堅苦しく本名を名乘れば神宮神部署東京支署と稱するので其の本署は勿論伊勢の大廟に置かれてある其の始めは、明治元年神宮敎本部として設立された法人團体が、其後伊勢の分家のやうになつて、今では公立のものとなつたのだから、最初より此處で結婚式の請負を營業にしやう杯とは考へて居なかつたのである。從つて其の建築も結婚の式場として設計されたのでなく、伊勢の工匠が伊勢神宮の建築樣式に多少の新しい試みを加へて造營したに過ぎないのが偶然にも結婚式場に適合した迄である。

而して現時は華士族平民を問はず、學者、軍人、政治家、文藝家、實業家、技術者、藝人等あらゆる方面の擧式申込を受けて居るが、就中其の最も多數を占むるものは實業家であるといふことだ。

式の等級は特別一等五拾圓、全二等三十五圓全三等廿五圓、松號二十圓、竹號拾五圓、梅號十二圓の六等に分ちて、明治三十四年以來諸物價暴騰の今日に至るまで、式の次第も料金も改正變更せずに續けて來たのであるが、最近內輪に於て料金値上の議もあり、之れに反對するものもあつて、未だ決定し兼ねて居る、併し是れ

は早晩値上げされるであらうと思ふ。

終りに結婚式並に親族盃の次第を掲げて一先づ本稿を結ぶことゝしやう。

▲結婚式

時刻　神前を装飾す
次　修祓
次　神饌を供す
次　婿媳着座
次　主禮（神官）祝詞を捧讀
次　媒人左の如き誓詞を捧讀す

誓詞　大正　年　月　日を吉日と定め婚姻の式を行ふとして謹きまつる大神等の御前に於て何某と何某媛某（官位、勳、功、爵、學位等あれば肩書す）と夫婦の契を結び堅むるは尊き神慮に依れることゝよろこびまつり今より後千代に八千代に相睦び相親しみかりそめにも夫婦の道に違ふことなく互に補翼して家政を整へ子孫の繁榮を計るべきことを誓ひ奉る茲に兩人に代りて媒何某謹みてまをす。

次　神酒を銚子に移す
次　膳を据、先婿の方次に媳
次　盃盞を婿の方に置く
次　一献婿第一盃を擧げ之を飲み媳に進む、媳飲て之を納む
次　二献媳第二盃を擧げ之を飲み婿に進む婿飲て之を納む
次　婿媳神前に進み拜禮退下
次　神饌を撤す
次　退下

▲親族盃の次第

豫め
次　式場を辨備す
次　婿方親族着座
次　媳方親族着座
次　盃盞を置く先婿方首席尊族次に媳方首席尊族
次　婿方尊族盃を擧げ之を飲み媳方尊族に進む
次　媳方尊族盃を擧げ之を飲み婿方尊族に進む
次　双方親族順に盃を受く
次　双方の盃を媒人に納む
次　媒人挨拶
次　親族挨拶
次　退下

以上

神前結婚の過去及現在は斯くの如き徑路を執つて進んで來たものであるに相違あるまい。其起源は必ずしも價値ある傳說から出立せざるにせよ。時勢の要求から歡迎され流行し來る以上は。現代社會の反面を物語るに足ゝ立派な材料であるに相違ないと思ふ。

新しき幾多の試みも成功するのもあれば、失敗するのもある失敗は成功を産み、成功は失敗を宿すの觀察からいへば、最後の日が來なければ解らない譯であるが、既に現代社會の要求に合致し、現代社會の流行を贏ち得られた日比谷太神宮の新施設は目醒ましき成功の一であると惟はれる。

顧みて現代流行の神前結婚が其第一步を我國上流の貴婦人界の手に產まれた事は、寔に賀すべく敬すべき事實である。新時代の儀禮を研究するの成果が「國禮」の樹立に貢獻し、古今東西諸禮の短を捨て長を執るの抱懷が、遂に現代國民の敬神思潮に觸れて、現代社會に手の空しかりし神官をして新たなる榮ある意義ある趣味ある儀禮に携はしむるに至つたのは寔に至幸といはねばならぬ事實である。

今や神前結婚の形式は殆んど完全の域に達し、上は舊禮を尚ぶ華胄社會より下は簡便主義の薄級者階級に及び進んで洋の東西、人種の如何も問の必要なく日比谷太神宮門前市をなすの盛況を齎らしつゝあるとは、一面新奇を歡迎する流行性社會的時好であるに相違ないにしても、他面當事者の研究がよく現代社會の要求に順應して簡健質實なる儀禮を案出したるが爲である

願くは斯くの如き意義ある趣味ある革新運動が隨所に現出して惑亂の現代を整理するの道に貢獻する處多きことを希望して止まない。そして迂遠なる世の先覺者に事實的證據を提供すると共に現代社會の自然的融化作用の酵母を到る處に散布するに勇ならんことを祈禱して止まない。

記者は茲に神前結婚の將來について一言を留めたい。現在斯くの如き盛況を呈しつゝある神前結婚は現代の社會的要求の推移につれて亦多少其色彩を異にして行かればなるまいかと思ふ幸にして今日の儀禮は甚だ簡素壯重であつて將來に多大の進步發展すべき餘裕あるが爲めに、行詰つてしまつた小笠原流や、何々流の諸禮式と同日に語るべからざる長所を持つて居ると思はれる。從つて現在日比谷太神宮に於ける諸設備の如きもよく現代社會の要求に相應してゐる樣であるが。建築的設備の上から觀察すると尙頗る幼稚の域を脫して居らぬ。これは現代の建築界の現狀が混沌としてゐる以上は無理ならぬ現象であるけれども、今日都市萬般の建築的大勢から觀察すれば尙頗る初步的道程に在ると思はれる。從つて神前結婚の將來は其建築的設備の上に一步を進めなければならぬ時期は既に到來しつゝあるものであることを注意したい。そして其建築的設備の計畫に於て又よく現在の要求に順應するの大方針を忘却することなくして更らに一步を進め得らるゝならば更らに神前結婚の將來に光明の到來することを信じて疑はないものである。

◆　◆



戰後に於ける倫敦の住居問題（上）

ビルデイングニウス所載
會員 M I 生 譯

倫敦市勞働問題調査委員會の住居に關する報告が發表された。報告には、人口の狀態、家屋及室の供給、過集、建築敷地、交通機關、其他此問題に連關して解決の補助となるべき事實に就て、吾國の現狀を可なり詳細に渡つて紹介してゐる。併しながら右の報告を讀んだものは問題の解決に就いて何等實際的企畫をやつて居らぬ樣な氣がして、不安を抱かざるを得ない。數多の困難が横はつて居るのだといひ非常な努力を要するといふの外何等の企畫かないではないか。所が反對に調査した事實は出來る丈充分に整理されてゐるのみならず、此等の事實から倫敦の將來に關して演繹される色々なる推定はあまりに多くの事情を擧げてある爲めに却つて困迷たらしめる樣である。其結果誰も解決の糸口を看出す事が出來ないといふことを、正直に語つてゐる。此の報告書は全く市の住居委員會の活動を物語る處の其愼重なる調査と熱心なる努力に對する最も信用ある證據である。從て委員會は種々の經驗を之から求め之を活動の基調たらしめてゐるが結局總ての基礎となるべき經驗を積み重ねたに過ぎない樣である。從つて凡ての關係者は更に愼重なる研究を拂はねばならぬ。殊に多くの建築家、建築施工者、及び國內の總ての都市行政者等は、既に過去十年間の未

拂殘金を整理する爲めに甚だむづかしい仕事に出會した譯である。

彼等の調査の結果を綜合して委員會は人口に關して吾國の狀態は事實上變化がないと云つてゐる。故に全体として我國の現狀を稽へて見ると、此以上の人口の增加に應せしむることは此首都には不必要なことである、唯市の中心地の住民を市外に移送するの問題と連關して講究すべきであると思はれる。所が人口過集に關する數字を見ると、大戰の終り頃に於て非常な範圍に此害が擴大されてゐるが爲に現存の住居法第三部の條項に於いて現在計畫されてゐる成案に建物を改造することを市が促進せしめなければならぬことがわかる。

不適當な密集狀態に關しては非衞生的な部分に百八十萬人の住民がその影響を被つてゐることが調べられてゐる。從て多くの不健康な家屋は取毀してしまうのが最良策と思はれるが、現在住居するに不適當であつても改築すれば住まふことの出來るものは兎に角或期間內にその家主をしてあらゆる点に就て、合理的に人間の住居と改造せしむる樣に地方廳が努力すれば出來るのである。

委員會の結論によると、戰後住居の狀態が非常に不滿足なとになり、改良すべき範圍が以前よりもずつと廣くなつて來るし又從來よりも一層急速に押し進むに相違ないとされてゐる。然るに市會は住宅の人口過集、並に其の衞生に關する行政執行の衞生課に有力者を有しない。從て法規を強いても布く爲には府會（Metropolitan borough council）と協同動作を取る必要がある。住居の目的に叶ふ土地に關しての報告にはテームス河北岸は現在の建物で殆ど空がないけれども、南岸又は東南、西南両地方共建築地として充分に發達してゐない可なりの面積があるといふ。しかし此等の地方の敷地が迅速な發展に叶ふだらう等と云ふことは無理なことで現在の交通機關は此以上に增加した人口を運ぶにはとても不十分であるに相違ないではないか。交通機關の問題がどれ程激しい影響を住宅問題に

與へるかと云ふことは大体であるが次の様な事實を思ひ合せて見れば確然と明かであらう。勞働階級の住民約四十一萬人が毎日仕事の往復に二回宛極安い賃金で往來する。しかも鐵道會社を利用するものは皆無で他は全く無代價で街路を使用してゐる乘合自動車であるが、それ丈で外に何物もない。從て他の事も同じ樣であることは押して知る可きで、若し乘車賃金が一寸でも增加したとすれば市の周圍の地方に比して中央部に於ける住居が都合がよいに相違ない。從つて市の中央部に住む者が增加してくる。故に勞働者の賃金は甚だしく倫敦の住宅問題に影響するに違ない。

右報告の各章中、住居の設備に關する事項は吾々の讀者に特別の興味をひくことかと思ふ。此迄政府の爲す所極めて僅かであつて、千九百十五年以前は殆むど何もしてなかつた。しかし此年にウールイツチの砲兵工廠で非常な職工の增加に迫られて、三つの經營をやつた。エルサムに一ケ所、小住宅と長屋を含めて全部で五千五百六十七室、家數にして一千二百九十七軒を作つた。又ウールイツチとグリーンウイツチとベクスレーに全部で九千四百〇八室ある二千三百五十二軒の假設住宅を作つた。

過去廿五年間倫敦市廳は總計約二萬九千室にもなる住宅を設けたがそれは三萬八千人から住はれてゐる。又三軒の宿舍は三百萬磅の價で千八百七十四キユビクルの容積を設へてゐる。現在市はノーベリーとオールドオークと、ホワイトハートレーンの三地方に亘つて三つの地所をもつてゐるが、そこには八千四百十二戸以上の住居が出來戰前の價格にして六十七萬一千四百二磅の費用が計上されて居たといふ。此等の市廳にての施設は詳細に發表されてゐる。殊に前記の三つの經營に就いては昨年のビルデングニウスの四二、六二、九七、一一七、一三五、一五五及一七五の各頁に揭載されてゐる。それは住居問題委員會の好意と主任技師のダブリウイーリレー（FRIBA）氏の叮嚀なる說明から成立つてゐる。のみならず、同氏の熱心は成功

せる該委員會の賢明なる畫策を徹頭徹尾都合よく仕上げて居られるのである。

現在、ロンドン市からの補助は全部で千百十九室に限られてゐるし、府會（Metropolitan borough council）は僅か六千〇二十四室を與へ、補足として購入し改良した家屋の千百七十八室を加附した。

住宅法の下に特權を有する特別倫敦委員（Exta London Authorities）九十二人の中僅か廿五人が經營に着手して居るのと準備してゐるのとで、廿二人は二千〇七十三戸の家を提供してゐる。卅六人以上は將に考案中であるさうだが。その中の十八人によつて發表された計畫では三千六百七十五軒を建てるとのことである。

勞働者住宅供給を目的とする四つの主な博愛組合はピー、ボデードヰーションファンド。ガイヰストラスト。サットントラスト。及びリユイストラスト。である。就中後者二つは更らにバーミンガムとニウカッスルに經營の手を分けてゐる。又ピーボテーフアンドは一萬五千八百六十九室、ガイヰストラストは五千三百二十五サットレトラストは二千八百七十七、リユイストラストが千七百十室を供してゐる。サットンとリユイスはまだ手を着けぬ最初からの遺産がある。リユイストラストは一九一六年末現在資金三六八、二五八磅あつたし、サットントラストは約一、二八六、〇〇〇磅であつたが、その一部は各地方の經營に利用することが出來る筈である。又ピーボデーとガイヰスは年々蓄積の收益によつて新築建物の資金が出來上つてゐる、此收益の積立がピーボデイは千九百十六年に四九四〇〇磅、ガイヰスは一四八〇〇〇磅になつた、此等の二つのトラストは他の二つのトラストがやつた樣に、期に先つて此收入を見越して融通することも確實に出來た。此樣な狀態の下に次の樣な計畫に着手してゐる。ピーボデーはハンマースミスブロードウエーの近傍であるフルマンバレースロードに六、七五エーカーの敷地を購ふ爲に準備した、ガイヰスはその前にケンシントンバーラロードに二エーカーの地を得

て五五〇室を有する二二〇戸の住宅（團ブロック）を立てることを發表した。サットントラストは倫敦に差當りの計畫中のものがないがイスリントンに敷地購入の協議中である。リユイスはカンバウエルグリン近傍のワーナーロードに經營をやつてゐるが其一部は完成してゐる。それは此地に各八百室を有する三百四十戸の住宅團を十五ブロック建設する計畫であつた。その中四のブロックは完成されたが現在は陸軍省が使用してゐる。この計畫は全体で約二千五百室を設備することになる。

倫敦及其附近で雇主が雇人の爲に與へる住宅の數は既に餘裕がなくなつてゐる樣に見ゐる。或者は或地方廳が雇主として雇人に住宅を設備してゐる。例へば市會の如きは消防、排水等の人夫、公園の園丁等の使用人に對し住居を與へてゐる。しかし雇主が雇人に與へてゐる室の供給を總計して見ても高の知れた數で當面の問題の解決には殆ど影響がない位だ。

倫敦及近郊の地主は建物を築造はせず大抵貸地として土地を管理してゐる。八十年から百年程前から發達して來たロンドン市の地價は非常な高價になつて居るが、往年賃貸料金の低落から住宅は大程自由保有不動產所有者の手によつて管理され支配されてゐる。大な土地になると此の狀態を改正せん爲めに四十年間位を限つて以前より地代は當然少額にすることが許されてゐる。他の場合では借地を開放し又二重に貸地として貸付けることを許して居る。土地所有者によつて建てられてゐる勞働者階級の住居がある所はコーンウォルの公領と敎會の司の所有地位なものだ。前者はランベスに其敷地を移轉改築する樣に計畫中であるし、近年勞働者級の住宅を大分に建設した。敎會側では同樣にランベスとサウスワークと及ウエストミニスターとに施設したのである。

勞働者階級住宅の提供及改良に關する各組合では亦別種の住宅管理案を造つた。一九〇九年の住居法及都市計畫法の第四章の目的によれば公益組合に關し次の樣な定則が擧てある『一八

九三年發布の産業保護組合條令其他改正條項に基き登記せる組合は年利五分を越せる利益金の支拂及分配を禁止さるべきものなり』此の疑義ある條項は公共工事貸附係が土地及家屋を時價の三分の二で此種の組合に貸與せしめ得ることを是認してゐる。然るに一八九〇年の條令によれば勞働階級住宅の經營に會社、組合或は個人に對して二分の一迄差支へないのである。それから一八九三年の條令に依つて登記した唯一の公益組合は勞働者階級の住宅を可成澤山に倫敦に建設したが、今の倫敦住宅組合（有限責任）であるが、近年にはセントメルボルンとセントパンクラスに約千九百の室を提供してゐる。

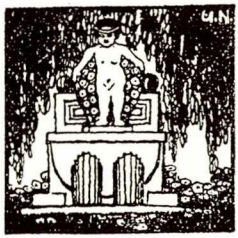
倫敦に於ける有限責任の各會社が提供した住宅は事實に於てあまり大した數でない。此等の會社の主なもの十六を選り出して見ても、其總資產は七百萬磅餘であるし、其經營した室數も約八萬三千に過ぎない。此等の會社は大程此數年前に設立されたのであるけれども、彼等の企劃は近年大して發展して居らぬ。

鐵道會社及他の法定の諸會社は强制執行の下に建設と取毀をなし得らるゝ代りに、住宅の經營提供をなすべき義務がある。此の條件の下に各鐵道會社は倫敦に住宅の經營を相當に行つたが、他の諸會社はあまり行つて居らぬ、總計約三千五百の假設小舍位で室數は約八百を計上してゐるに過ぎぬ。移轉した人の數よりも、住居を與へられた住民の數が少ないのを見ても解るではないか（未完）

◆春近し◆　讀人しらず

△心ざし深くそめてしをりければ
　消にあへぬ雪の花と見ゆらむ

△春日野は今日はな燒さそ若草の
　妻もこもれりわれもこもれり



京都古建築觀（五）

特別賛助員　伊藤清造

五、三寶院

概說＝醍醐寺三門外左方にある醍醐寺開山聖寶尊師の住房であつて、三寶門跡と稱し、古來醍醐寺座主の住院になつてゐる、慶長年間豊臣秀吉が此處で大いに櫻花を賞し宴を張り、堂宇を修繕したので今日見る所のものはその遺物である。

一擧にして海内を掌中に弄殺し、進んでは鷄林を越え四百餘洲を呑下し去らずんば止まざるの概ある英傑豊太閤は、この時代の思想と是に依る百般の文化に非常な大きな響きを以つて對し此處に所謂急造的成金藝術を大成した、蓋し成金英雄としての豊太閤に相應しいものであつた。

境内には櫻樹多くて、豊公觀櫻の跡を偲ばしめる、かの

めにあかぬ花の所と眺めまし
心散らすな春のやまかぜ

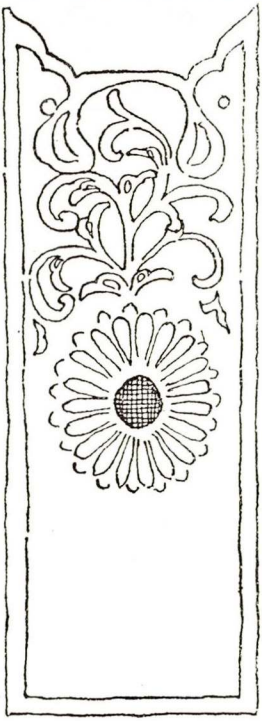
の歌の心も明かに肯定することが出來る。

京都の文化史は千年を越えてゐるけれ共全般に通じて非常に沈靜であつた、源平の戰が京都を可成り騒がしたと言つたとて源平の戰は已にもう大分沈靜な戰ひであつた、青葉の笛を吹いて露の命の明日を忘れ、琵琶を献じて武運の長久を祈り、櫻樹の蔭に佇んでは微音よく詩趣を歌つたりしてゐたではないか、又足利の戰國が

日本を擾亂したとはいふけれ共東山美術を大成する程そんなに京都は沈靜であつたのである、併し豊公一度伏見城を築き、聚落第を營むに及んで京都は前代未聞の覇氣ある時代を作成したのである、鷄林を越ねて四百餘洲をして貢せしめようとした放膽な、奔放な氣慨は百の文化にそれ式のものを生ぜしめない譯には行かない、覇氣ある成金藝術は如何にして吾人に迫るであらうか。

表書院

慶長年間豊臣秀吉の作つたもので、明治三十一年に特別保護建造物の指定を受けてゐる。入母屋單層桟瓦葺であつて、前面の一方に突出した部分を設け恰度寢殿造りの釣殿のやうな思ひ付きであらう。その屋根を切妻とし此時代特有の豪放な本蟇股を附けてゐる、北方に四段の階梯を設け屋根に軒唐破風を附けてゐる、全部妻を用ひてゐるが釣殿に似た突出した部分は前面に上げ蔀戸を用ひ、北方に唐戸を配し中のまに連ね窓を開けてゐる、此の蔀分内部の蟇股は非常に力のあるのが特に著しく、その股間にある自在畫的の草花特に萬年青の力のある葉の動く狀、豊公の覇氣が一葉一葉に刻み付けられたかの概がある、妻飾りは後世建築の普通に用ひられる懸魚と狐格子であるが破風板には桐の金具を張つてゐる、これは豊臣期の建築に常に見る手法である。

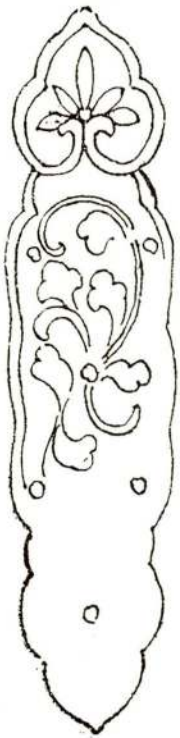


三寶院表書院高欄笠木金具

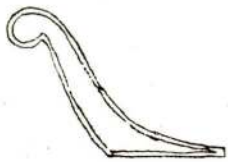
上段の間(柳の間)には床違棚があり、天井は棹縁であるがこゝは棹縁は床に對して直角に用ひられて所謂差し床となつてゐる、後世建築に於いて非常に嫌ふ所である、違棚は非常に精巧なものでその筆返しの曲線

は後世のものに比べて非常に美くしいものである、金具は皆菊唐草の毛彫りであるが所謂模様學の fitness として見ることの出來る立派なものである、而しこれ等に比べると勾欄の金具は拙いものである。

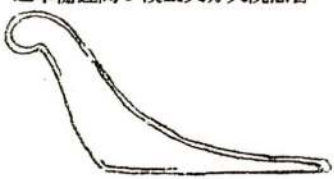
三寶院表書院妻戸金具



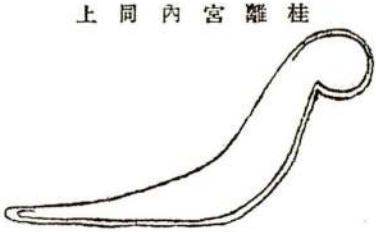
三寶院表書院の柿の間違棚筆返し



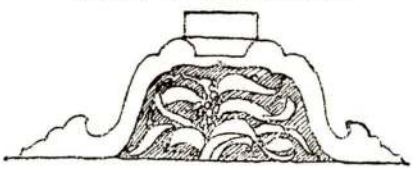
智恩院大方丈上段の間違棚筆返



上同內宮離桂



三寶院表書院本蟇股

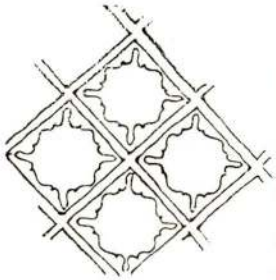


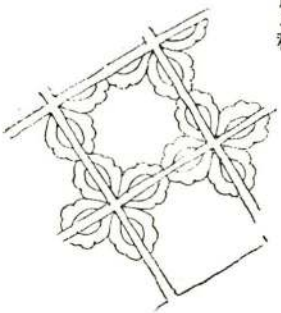
襖は金地に極彩色を以つてしたもので桃山期の氣分を溢れしめてゐるその筆致に於いてその構圖に就いて。

奥書院

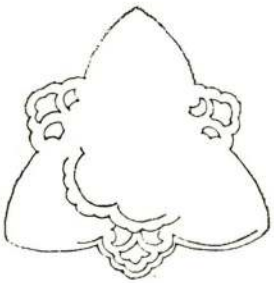
上段の間には床の間、違棚附書院、武者隱し等が立派に備つてゐる、欄間には櫛欄間を用ひ明り障子には腰高を用ひてゐるが此の奥書院は一つに宸殿ともいはれ表書院とは棟を別にしてゐる、廊下を以つて表書院純淨觀業を連結して居る、床は落し掛けが高く長押とは可成りの距離を以つてゐる、違棚は有名な醍醐棚で

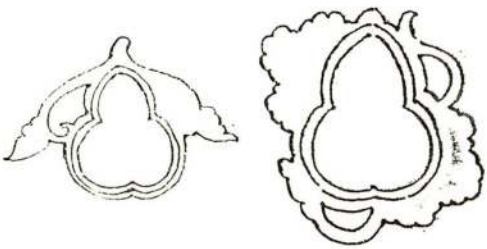
醍醐寺三寶院書院欄間透彫二種





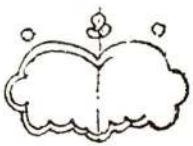
三寶院書院襖引手四種







奥書院附書院地袋引手



美くしい透しを彫つてゐる雛束、棚板等には表書院のものとは異り、中央に桐をおき、それから左右に纖細な唐草を延ばした文樣を毛彫りにしてゐる、長押は枕挟として床柱を卷いてゐる

附書院は火燈窓を開き、明り障子を用ひてゐるが火燈窓の曲線はくだらないものである、上に欄間を附け透し彫りがあるが比較的陳腐なものである、下には地袋を設け、表面に繪をかいてゐるがその引手は桐の紋を應用したもので氣が利いてゐる。

又一般に此の書院の襖の引手は極めて自由な形のものが多い、そして美くしい毛彫りを行つてゐる。

武者隱しは、こゝに士を潜ませて主人の警護に備へたもので、鎌倉時代の武家造りから武士の住宅には必ず作られたものであるが、徳川の泰平な世となつてはこんな必要もなく、漸く形式となり、装飾となつてしまつたのである。

此の書院の武者隱しの金具は、輪廓は皆極めて拙劣であるが、中に充滿した唐草の毛彫りは寸分の隙をあまさずうまく適合されてゐる。

純淨觀

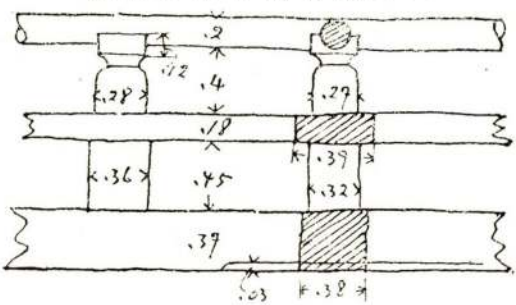
入母屋茅葺の一寸と面白い建物である、屋蓋の形が變化ある面白いものである、妻は狐格子に懸魚を用ひ、破風板は黒塗りであつて桐の金具を張つてゐる。

此れは所謂豊公の花見の御殿であつて、今は佛殿となつてゐる、廻縁を附けてゐるが極めて低く椽束は僅かに一尺三寸餘である。

勾欄は平桁が薄く、地覆は下端に水くりを有してゐる、上端は藤原、鎌倉時代等のやうに膨みがない平たいものである。

三寶院にある桃山期の建築は、此の他に玄關葵の間、護摩堂、秋草間、庫裡等があるが秋草葵の二間が狩野山樂、石田幽汀の襖が繪畫史上の價値を有してゐる、他は建築史上大いに注意すべきやうなものはないやうに思はれる、併し此等は勿論三寶院書院として前述のものと共に明治三十一年に特建に編入されてゐる。

三寶院書院勾欄見取圖



峯の白雪も消えて、春の風に柳の新芽が萠ゆる頃であつた、吾人は三寶院に藤氏には見られぬ壯美の一場を訪づれた、藤代の詩人が風は新柳の髪を梳り、波は舊苔の髪を洗ふといつたやうな三寶院の庭を望み、豪華な中に何處か瀟洒な氣分の滿ちた書院を觀て抜山蓋世の英傑豊太閤が雅懐のゆかしさをそぞろに慕はざるを得なか

つた、英雄の雅懐かな、嗚呼英雄の雅懐哉。十萬の軍を叱咤して鶏林を侵し、百萬の兵を馳驅して唐土を踏まんとした豊公が一面の靜觀はまことに之れ三寶院の觀櫻であつたらう。

あの宸殿で、あの床で、あの欄で、あの豊公が、あの顔をして坐つた時、吾人はこういふ刹那を想起し且つ三寶院にこの氣分を味ふの特權を有してゐる。

補遺

三寶院唐門

慶長四年の遺物であつて、明治三十一年に特別保護建造となつてゐる、簡單な平唐門であるが覇氣ある當期の時代精神を遺憾ないまでに反映せしめてゐる。

同じ唐破風であつても、妻入と平入とで非常に違つた表現を有つてゐることは自明の事であるが、吾人は妻入の唐門よりも平入の唐門の方に一層の床し味と深みとを感ずるといふ事實も亦自明の事である。おとなしく膨らんだ屋根の調子と棰の氣持ちよく配せられた軒付の緣とこれに依つて暗い影を生じた天井裏と吾人は深大な崇美に魅せられることが多い、一般に平入の唐門は瀟洒であつて妻入の門は豪放の感じがある、桃山期の遺物としてのこの唐門が瀟洒な中にもよく時代精神の躍然として居るのは彼の豊國神社の唐門が豪放な奔放な手法と形式とによつて豪放な表現をなしてゐるのに比べて遙かに勝つてゐるではないか。

門は黑漆塗りで、扉に菊花と桐花の紋章を表はしてゐるがよく豊臣式に出來てゐる、側面から見た唐破風の曲線も類ひなく美くしいものである。

六、海住山寺

概說＝山城國相樂郡瓶原村の三條山の中腹にある眞言宗の寺院である、傳ふる所によると昔聖武帝の勅願で天平七年に良辨僧正を開基として創建したとしてゐる、併し保延三年に一度烏有に歸したのを土御門天皇の承元々年（西紀千二百〇七年）に解脫上人が再建したといつてゐる。

亭々として立つ松樹を透して、遙かに木津の銀流を望むときまことに三千世界に超脱して佛陀の樂園に飛翔してゐるやうに別種の清美に打たれる、あへぎあへぎ辿りついた此の山嶺にこうした氣分を味ふことは少なからぬ恩惠である。

建築＝京畿地方の可成り多くの鎌倉期の建築が前に言つたやうな物哀れな、淋しい表現に富んでゐるのに比較してこの海住山寺に殘された建築はやゝこの斷定を裏切つてゐるものである全体の表現としては京都の鎌倉期の建築は一般に覇氣に乏しく藤原期の優美に一層の保味を加へたには一層淋しみのある沈靜なものとなり線や形の美しく精練されてきび〳〵したことはこの沈靜、哀愁の感を以つて一層強く吾人の胸底を衝んとしたのである。

五重塔

順德天皇建保二年に正三位參議長房が建立したものである、建保二年は源實朝の時で西紀千二百十四年に當つてゐる、我邦では源氏の後も絶へて、政子の代となつて北條氏が漸く勢を得やうとするの時代である、支那では宋の勢力が次第に衰へて蒙古が興起し元となり、金が勢力を得て中原を侵し、終に金が亡び、宋が亡び、世祖に依つて統一されるまでの可成り亂雜な支那一流の一興一敗の時代であつた、歐洲では十字軍が起り第四次の十字軍と、第五次十字軍との中間の時代に相當してゐる、英國で大憲章が發布された前年である、かゝる中に我が海住山寺の五重塔の工事はそれからそれへ進んでをつたのである。

塔は方三間で柱間眞々三尺に巾四尺の廻椽があり、擬寶珠勾欄を設けてゐる、初層は中の間に唐戸を配し兩の間には櫺子窓を附けてゐる、各層には刎勾欄をつけ組物は和樣三手先で二軒を支承してゐる。

その棰木割の各層に於いての變化は次の樣である。

	軒の出		
棰木數			
中の間	脇の間	丸桁	地棰木 飛擔棰木
初層	八支	七支	三支 五支 七支

二層　七支　六支　三支　五支　四支
三層　七支　六支　三支　四支　四支
四層　六支　六支　三支　四支　四支
五層　六支　五支　三支　四支　四支

即ち後世の塔婆建築に於いての一支落ちといふやうな形式とは全く別種のものである、内部は彩色を施し外部は丹塗りである。

木割が非常に雄大であるといふのでもないのに可成り雄勁な感じを與へてゐるのは全くその姿態の優れてゐる爲めである、初層の出が普通の制約よりも尙二支多く出てゐる位であるから初層が特に鬼瓦の上に用ひた鳥衾が長く高く反つて居る爲めに軒先に無限の力を潜ませてゐる又最上層を除いては他の塔の如くでなく稚子棟を缺除して居るが爲めに屋根の勾配が一層緩く流れて見ゐるこの例は尙善通寺の五重塔に見ることが出來る而しsky lineの變化と云ふことも考へると不利の点がないでもないが、韻律的に出入した塔婆の軒が充分の變化を與へてゐるのであるから此上の變化は却つて小細工の感がないでもない樣に思はれる。

又鳥衾が高く長く反つて居るが爲めに軒先に絶大の力を含むで居る樣な感じのある例は法輪寺の三重塔藥師寺の東塔等可成り初期の建築に多く見ることが出來る。

唐戸の八双金物は全体に多少の膨みがある爲めに非常に氣持よく見ゐる而し勿論當初のものでない。

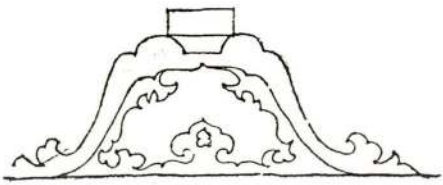
半ばは剝げた丹塗りの塔と氣持ちの好い程青々とした松とその對照は詩的である、靜に靜に語られた詩である、沈鬱な哀愁に滿ちた一刻を演じてゐる、而して其中に何處か底力のある強い氣分の潜んでゐるのは全く他の此の時代の建築に見るとの出來ない点であつて之は初層の特に重大に造られたのに歸因してゐる。

文殊堂

之れも鎌倉期の建築として明治三十四年に特建の指定を受けてゐる、三間二面の單屬寄棟棧瓦葺である正面一間に棧唐戸を用ひ左右各一間

には腰長押の上に火燈窓を開けてゐる和様の圓柱の上に和様の出三斗組をのせて頭貫の上には本墓股をのせてゐる、軒は二軒であつて地垂は繁割であるが飛檐垂は疎割である。

文珠堂本墓股



内部は化粧屋根裏を見せ前柱から後柱に肘梁を渡し板墓股と三斗組で棟を支承してゐる、永正九年上蓋を奉加したといふから或は此際のものであらう極めて簡單な軒廻りに美い本墓股が並んで居る所は何とも言われぬ快感を與へる、屋根の勾配が緩く流て沈靜な哀調を傳へてゐる極めて優秀なものであるが、正面の左右に附けた火燈窓は殺風景なもので勿論ない方が遙にましである、要するに此文珠堂で建築史的價値の存ずる物は頭貫の本墓股のみであつて凡て後世の修補になつたものらしく思われる。

═聚華の名殘り═

秀吉は又內野に聚樂第を起して結構壯麗を極めた。內野は即ち大內の野の謂で、大內裏廢して年久しく其蹟原野となつて此の稱がある。聚樂第は天正十三年から十五年まで、三箇年を要して成り、夫で之を關白秀次に讓り。文祿四年秀次殺さるゝに及むで廢した。存續僅に八年に過ぎないが、大內の蹟は此の工事によつて甚しく擾亂されたものと思はれる。平城宮は千二百餘年後の今に至つて宮殿の土壇を保存してゐるに反して、平安宮に何等見るべきものゝないのは、主として此の工事の結果もあらう（喜田博士「京都」より）



東大寺建築史 (六)

會員 須藤眞金

艸創篇

五 當時の建築狀態

東大寺の艸創當時の我が國の建築界の狀態は怎うであつたか。東大寺の艸創は天平年間の事で建築史上では巍巍時代の天平期と云ふ區劃の裡へ收容されてゐる。その天平期は希臘のペリクレス時代にも比す可き日本の工藝の黃金時代であつて、朝鮮直寫の飛鳥時代の後を承けて最う朝鮮の受け賣り文明では滿足しきれなくなつて本場の唐から直接に文化を仕入れる樣になり建築も非凡の發達をして雄麗豐滿な形式を作成したのであつた。

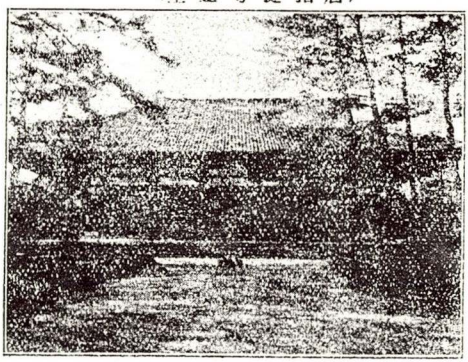
元明天皇の平城奠都に始まつて桓武天皇の平安遷都に至る迄の八十五年を稱するこの天平期の建築界は、先づ內裏及び平城京造營の大事業に始まり、長谷寺、海龍王寺、國分寺、國分尼寺、法隆寺東院、新藥師寺、東大寺、唐招提寺西大寺、秋篠寺等が建立された、之等の伽藍は皆推古、天智兩期の手法に優麗の趣を加へて著しく進步の跡を示した物であつた。そして光彩陸離たる佛敎建築の影響は神社建築にも波及して流れ造、春日造等の華麗な新樣式を產ませるに至つたのであつた。

併し何と云つても當時の建築界は只伽藍建築ばかりが畸形的に發達してゐた丈けの事で寺院

以外の一般の建築は至つて幼稚な物で、宮殿は此時代から唐制を模倣して彩色を施し碧瓦を葺いたのでは有つたが、その竣工の日子の短かゝつた事で構造の程度も想像されるのである。だから朱雀大路を中央に坊條の區劃整然たる平城京を塡充した市民の家屋に至つては太古の儘で一向に唐風の建築術の恩恵に浴してはゐなかつたのであつた。それは大倭の帝都として國際上甚だ不面目なので竟に和銅三年に家屋粉飾の詔勅を仰ぐに至つた。

（京師は帝王の居として萬國の朝する所なり、壯麗に非ざれば何ぞ徳を表せん、板屋草舍は中古の遺制にして、營み難く壞れ易く、徒に民財を殫す）と云ふ譯で五位以上及び庶人の營に堪へる者には强制的に瓦舍を構立し、赤や白で塗らせたのであつた。住宅がそんな譯だから當時の民衆に建築思想と云ふ樣な物はテンデ無かつた。非常に進歩した華麗な建築の一部分は今だに殘つてゐるが、それは國民思想とは沒交渉な物である。この時代の國民思想をうかゞふ好箇の資料は萬葉集であるが、寧樂朝の全社會の鳥瞰圖である萬葉集四千五百首の長短歌の裡に建築思想の滲み出た歌は殆んどない。

（唐招提寺金堂）



難波びと葦火焚く屋の煤したれどおのが妻こそ常めづらしき

眞木柱はめて造れる殿のごとゐませ母刀自おめ變りせず

と云ふ風に建築を世話女房に例へたり壯健の形容に使つた物はある。また

かにかくに物は思はずひだ人のうつ墨繩のたたひとみちに

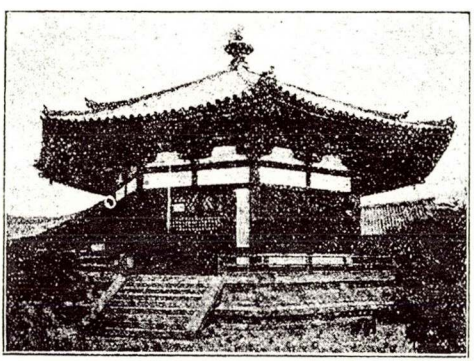
と云ふ風に飛彈人が大工の代名詞になつてゐた

と云ふ社會の狀態を匂はしたものとある。併し直接に建築に對する觀念や思想を表はした歌はたゞ聖武天皇の御製一つ丈けしかない。

青丹よし奈良の山なる黒木もて作れるやどは居れどあかぬかも

何と云ふ眞摯な御製だろう、然しまた何と云ふ卒直な御製だろう。此一首の歌に依つて寧樂朝の人達が建築と云ふ物に對して如何に無智であつたかと云ふ事を推量する事が出來る。聖武天皇は東大寺程の大建築事業の主腦者だから定めし唐式の建築には多大の趣味と智識とを持つて居られた事と憶測をして後世の建築史家は佛教建築の愛護神と尊崇して居るが、豈計らんや儀禮的の國史の上での愛護神は赤裸々の感情を吐露する歌集の上では呪咀神となつてゐる。

誠に（碧い瓦や朱の柱の唐式の建築を移し入れて見たが、怎うしても外國の建築の住み心地は良い物ぢやあ無い、矢張り黒木造りの純日本風の家が飽きが來なくつていゝ）と云ふ聖武天皇の御製は當時の多數の人達の考へであつたので、自然と一般には餘り唐式建築は行はれては居なかつたが、佛教建築丈けは唐の流行に後れない樣にと奮闘努力して立派な物を築き上げて居た。よしや民衆の理解は無くとも國民性の表現はないとは云へ、兎に角我が國の建築史を飾る天平式の建築は佛寺の上に殊き誇つたのであつた。天智時代までは普通の形だつた斗や肘木は此の期に入つて支輪や鬼斗が加はつて完全な三牛先の組物となつた。柱のエンタシスは少くなり、木材は悉く丹土で塗り、また寶相花や小佛像などの彩色模樣を施す樣になつた。紅梁の上に蟇股を用ひる樣になつたのも此期からであ



（法隆寺夢殿）

つた。そして建物全体の輪廓手法も非常に洗練されまた自在を極めた。今殘つてる唐招提寺や夢殿を見てもそれが分る。

當時伽藍の建立に際しては臨時に造寺司が設けられて其長官には常に公卿が任ぜられた。それから僧侶が造寺監護に命ぜられる。その下で建築師は官吏や僧侶の差圖の儘に働くのであつた。僧道慈が唐の西明寺の圖を携へて歸朝したので大官寺の造寺監護に命ぜられたが、此人は大變仕事にも明るく構作形製甚だ功妙なので匠手が皆んな感心をしたと云ふ樣な話もあつて天平式建築の完成には僧侶の貢献も少くなかつた事と思はれる。續日本紀には五位以上の人達の事しか書いてないので、位の低い建築技術者の樣子は一向分らないが、造平城宮司の大匠坂上忌寸忍熊、造大安寺司の大工輕間鳥麻呂、それから造東大寺司の工匠猪名部百世、礒田縄手等はいづれも造營の功によつて從五位を授けられたのであつた。

當時の大工は重に飛彈の國司に命じて出させたが、棟梁は大低朝鮮か支那かゝらの歸化人若しくはその子孫であつた。それから工事の設計書は圖面と材料明細書と丈けで仕樣書は無かつた物らしい。そして明細書には運搬及び加工造立の工手間が附記されてゐたその一例を擧げると。

勘注北殿板葺屋一宇　長五丈　高一丈六尺　廣二丈六尺

柱十四根　同別長二丈　百十二人　方一尺　別八人

梁六枝　同別長二丈七尺　別八人　廣九寸　厚八寸　卅人

宇太知二枝　同別長七尺　別二人　廣八寸　厚六寸

桁二枝　同別長六尺　別十四人　廣九寸　厚八寸

古麻比八枝　同別長六丈　別六人　五方寸　卅人

垂木十二枝　同別長一丈五尺　方五寸　別二人　二十四人

棟一枝　長六尺十二人　方九寸

上下長押十二枝

六枝同別長五丈廣八寸厚五寸別六人卅六人

六枝同別長二丈六尺廣厚同別四人廿四人

壁持板、二枝　長各九尺以三人運取十八　廣一尺厚三寸別廿人八十人

壁依板十二枝　同別長九尺　廣二尺　厚一寸別二人　廿四人

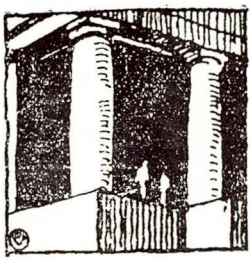
戸四具 同別高八尺八寸外廣九尺付攀鍰元目塞
隔二所 別十二人 廿四人
觸柱廿四枝 同別長三尺別一人廿四人 方六寸
桁四枝 同別長六丈別十四人 方九寸 五十六人
敷板卅枚 同別長二丈六尺別四人 廣一尺已上厚三寸 百六十人
庇回數板六十二枚 廣厚如上 別四人二百八人
庇一所八根 同別長一丈八尺 方五寸 別三人 十四人
桁二枝 同別長三丈四尺別四人 方五寸五分 八人
古麻比八枝 同別長三丈四尺 方五寸 別三人 十四人

垂木八枝 各長一丈四尺 別二人 方五寸 十六人
博風四枝 各長一丈五尺 廣一尺 厚二寸 別二人 八人
甍覆樋代一枝 長如棟 廣一尺 十人
葺板員不知 仮令レ葺レ之
用釘百反 見所顯 隱所不レ知
於 旦度者運千百廿七人二日三度運者七百廿六人日二度運者五百六十四人
以前屋丈尺勘注申送如レ前仍注レ狀以解
天平寶字五年十二月廿八日注 呑公吉人
寺主僧最善 (以下連書三僧署)

これは正倉文書の一部である。

◆人の努力◆

神は田舎を造り人は都會を造るとは歐羅巴の古諺である實に人の努力は都會の發達に於て其偉力を發揮しつゝあることを認めねばならぬ。



回想錄

會員　野人生

（一）

八帖の客間では什うやら話がはづんで來たらしい。

妻君は主人公の同窓の中では浮島さんが一番御話の面白い方である丈に、何時も〳〵笑はされるが、其代り尻の長いには少々閉口をして居る事は確である。そりあ主人にしても自分にしても暇の時には宜敷からう、けれど浮島さんは對手の御都合は少しも頓着をせぬ御方である。時とすると今夜は泊つて行かうと仰せられる事がある。そんな時には妻君はつく〳〵浮島さんの呑氣さに驚かされるのであるが、又浮島さんの奥樣に同情しない譯には行かないのであつた。

『おい嘉江子！』

と主人公の巾の廣い聲がする、妻君は「ハイ」と返辭をしながら、茶の間の鏡で一寸丸髷を寫して見てそれから裾を合して帶の所に手を加へて居たが。

『おい嘉江！』

と第二の聲が襖へ思ひ切つて衝突をする。

靜かに襖を開けた妻君の顏を見て

『二階の俺の机の右の引出しにある封書を持つて來い』

と主人公は命令を下した。

閉ちた襖の方を視詰めて居た浮島君は眞中に置いてあつた卷煙草入から國華を一本つまみ出して右手にある立派な桐の火鉢の赤い炭で火を付けた。櫻炭の半分はもう眞赤になつて居る。灰は石灰を混へて居るので白と黑と赤の區別が判然と際立つて居る。

『さうかなもう三年になるかな』

と如何にも感慨に堪へぬらしい顏をした、だん〳〵長くなると氣にしてゐる顏にはひよろ長い鬚が五六本延びかゝつてゐる。その大きな口を結んで鼻から煙を立昇らせる長い顏を眺めて居た主人は

『あの時は實際面白かつたが、又隨分と頭を使つたものだ、今から考へるとよくまあ御互に苦樂を共にしたと思ふよ、皆が眞

剣に戰つたのだと謂ふ事が出來るね』

といつた。此時襖が開いて妻君の丸顔が現れた。

『これですか』

と妻君は一つの大きな封書を差出した。

『もう一つあつたらうが』

と主人公は小さな口を尖らせた。妻君はすはこそと用意の第二の小さい封書を襖の蔭から取り出した。

『うん、それ〳〵』

と嬉しさうな眼を働かして手元に呼び寄せる主人公の側へ妻君はいそ〳〵と腰を進めた。

今一人の客は封を切る主人公の手元を見て居たが此時熱心な色を若々しい顔に漲らせながら。

『今日は是非其時分の御話を承りたいものですな。自分等の樣に此頃入會したものにはさつぱり成立當時の樣子が解らん爲か協會の主旨のある所が會得出來んので、最前の樣な意見を持つて居るのです』

『そりあ無理もないよ、古い連中でさへ君等と同じ樣な意見を持つて居る人もあるし、協會の目的が那邊に在るかを知らぬ先輩も却々多いからね』

と浮島君は國華の煙を氣持よく吹き出した。

妻君は女中の運んで來た紅茶を受取つて一々手を延ばして配布するとやがて空になつてゐた浮島君の菓子皿へ眞中の大きな青磁の鉢からカステラ二片を分けて盛り込んだ。

『此間もね僕が東京へ用があつて出掛けた時に丁度阪東博士と食堂で出會して米原迄行く間に協會の話が出て大いに僕が説明をしたものだ、最後に博士は、それで始めて君等の主旨が解つたらつかりやつてくれとさ、どうも東京の人達にはまだ〳〵僕等の畫いてゐる的が解らないと見へるよ』

と主人公は封書の中から古い原稿めいた書類を出して眺めながら述懐した。

『何うだい今度あの顚末を難波君に雜誌に書いて貰つたら』

と浮島君は提議した。

『僕も夫は贊成だ、難波にいふたら會としてはまだ後をふり返つて眺める時でないとさ、現在と將來に大いに努力するの必要があるといふのだ。それもさうだが時々は過去を顧みるのもよいと思ふね、また其位の餘裕を持つて進むのが却つて善いだらうぢあないか』

『そりあ是非難波君に御願ひして書いて貰いたいものですな』

と若い客人は浮島君に贊成した。

『いや難波が不贊成なら僕が書いてもよいと思つてる。これ見給へあの時の速記錄をちやんと保存してあるんだ』

(二)

主人公は第九回△△會談話錄と表記してある原稿の一綴を差出した。浮島君は之を受けて膝の上に置いて。

『大正六年二月十一日と日付がしてあるぢあないか。ふんあ

りあ紀元節の日だつたかな」

といひながら一枚宛目を通し始めた。

『丁度れ寺内内閣が出來て間もないので、超然内閣の攻撃が與論を刺撃してゐらい騒ぎの時分だ。建築界でも政治的氣分にかぶれて選擧運動みた樣な葉書や封書が舞ひ込んで來てれ、關西の建築家は大いに憤慨したものだ』

と主人公は話し出した。

『そうそ、あの時からだ、東京の連中の思想に飽き足らなくなつて來てこれあ何とかする必要があると考へ出したのは、僕の處には前便取消しの葉書迄貰つた事を覺えて居るれ』

と浮島君は相の手を打つ。

『當時吾々若手連で組織して居た△△會といふのがあつた。斯界の形勢頽る穩がならずといふので其時の幹事が氣をきかして紀元節を期し當面の問題について大いに議論を戰はそうぢあないかといふ意味の通知を發送した。その又會場が頗る乙な所で僕等は之を鹿ヶ谷會議と名付けて居るのだが、電車に乘つて北の方へ一時間もかゝる山奥の或温泉宿の樓上に午後の一時に集會する事になつたのさ』

『僕は電車を下りてから先の山道が約半丁とあつたから其積りで出掛けたがどうして〳〵十何町からあつたと思ふそれに道が惡くて素より車は通つて居らず、幹事が怪からんと大いに憤慨したものだ、一番遲くやつて來た北山君なんかもぶつ〳〵云ふて居た』

『明石君は幹來より先にやつて來て怒つて居た、處が、明石君はまだ△△會へ入つて居なかつたので反對に油をしぼられてねお可笑かつたよ、何故つて（あの會）をやるから來いと通知に書いてあつたのさ、其通知を出したのは幹事の怪我の功名で、其通知を見て早合點で飛んで來た明石君も感心な所があるぢあないか」

是に至つて浮島君の記憶は主人公より不確實になつて來た。

『そんな事があつたのかい』

頸をなぜた。妻君はつゝしまやかに林檎をむいでゐたが兩方の耳は一つになつて主人公の話に傾いて居るに相違ない。

若い客人はさつきから聊かゝしこまり過ぎて膝頭を傷めたが「失禮します」といひながら「アグラ」をかいた、そして恁ふいふた。

『その△△會といふのはどれ丈會員があるのですか』

浮島君はカステラを頬張りながら説明する。

『關西若手建築家を網羅して居たから、二十二三人は居つたんだが、いつも出席する顔觸は大程半分さ、當日は明石君を入れて十一人だつたかと思ふ』

といつて冷たくなつた紅茶を飲んだ。妻君はアレと思つた。浮島さんが早く飲みなさればよいにとさつきから祈つて居たに、ちつとも上らないで今頃御飲みになるのはあんまりだと考へたが、默つて林檎を小皿に分配して次の間に立つて行つた熱いのを入れてくる積りと見える。主人公は話の後を續ける。

『其記錄を見ると十人らしい、難波が來る筈であつたのだが、先生什うしたか前の晩から熱發して寢込んでしまつたので僕は明くる日見舞に行つたら三十九度からの熱であんな丈夫の奴がすつかり弱つて居た』

浮島君は膝の上の記錄の人名を繰つて居たが。

『さうだつたれ、難波は會といふと必ず顏を見せる男だから當日は第一番に來て居ると思つて居たが、成る程此の記錄に乘つて居ないは』

『處がれ八尾の話によると一八尾君も僕の歸つた後へ行つたさうだが、先生あの日の會の樣子を根堀り葉堀り聞き確めて居たさうだが、妻君が止めるのも聞かずに翌日家を飛出したさうだ。これは寢て居られんと思つたんだろう。そして難波の話ではあれ程あつた熱がすつかり冷めて居たさうだ、先生一流の荒療治には醫師も驚いて居たといふ話だ』

若い客人は林檎をかぢつて居たが此時浮島君の膝の上の記錄を拜見といふて受取つた。一つは餘談に花が咲くので問題の記錄が讀みたくなつたらしい。主人公は若い客人の方を見て。

『堺君、其記錄を讀み上げて見給へ大体の樣子が解るから、其記錄は幹事の伊丹君が骨を折つて書いた草案で、僕が大切に預つて居るのだ、肩書の片假名は名前の頭文字だよ』

堺君は何が書いてあるかと思ひながら讀み始めた。此時又襖が開いて妻君は二度目の紅茶を持つて來た。

(三)

堺君はかまわず讀み初める。

イ「諸君に御相談したいのは關西に建築學會の支部を設けたいと思ふのですが如何でせう。兎に角人數の點に於ても東京に次いで大阪は可なり會員が居るのだから、支部が出來るとしたらいろ〳〵便利な事があるだらうと思ひます其範圍に就いては御議論もありませうが畿内地方を一括して是を支部の下にまとめたらよからうと思ふ」

『その肩書の(イ)とあるのは當日の幹事の一人であり又議長格であつた今池君さ』

と主人公は口を入れる。浮島君は鹿ケ谷のあの場の光景を頭の中に浮べ出した。今池君の右に古ぼけた机を置いて速記して居る伊丹君の姿が先づ現はれる、今池君は金線の眼鏡を光らして上眼使いにしかつめらしく喋つてゐる何んでも、一番先に口を切つたのは、そうだ今眼の前に悠然と座つてゐる木津君だと。堺君は後を續ける。

キ「此間或會員の話にはむしろ名古屋を界してあれから以西を以て區分したらといふのがあつたぜ」

イ「どんな組織にするかといふ事も考へなければならぬがたとへば大會の如きも東京大阪とで隔年にしては什うだらうか、又講演會も時々大阪で開く事にしたら面白からうじやないか』

此處迄讀んだ堺君は

『これで見ますと先程私の申した通り建築學會の 支部を置き

たいといふ希望は當時の人々の頭にもあつた樣ですな』

『そうだよ其記錄は其間の消息を明白に物語つて居るだらう。まあ、もう少し先を讀んで見給へ』

カ『そうすれば役員なども一部は支部から出すといふのか』

『その肩書の(カ)といふのは伊丹君の事だ今池君と混亂するので幹事の(カ)を取つて自身に付けたのらしい』

と木津君は付け加へる。

『幹事も大變ですな速記をしたり異見を述べたり　却々骨が折れるでせう』

『其處をやり遂げるのが伊丹君の長所さ』

と浮島君は煙を上げる。

イ「役員の内三分ノ一位とそれから副會長の一人位は大阪から出したいと思ふ」

ハ「兎に角先に立つのは會の經費問題ですぜ」

『其(ハ)とあるのが今東京へ行つて居る濱寺君さ君も知つて居るだらうが却々議論家でれ、そして其時分一番若かかつた一人だ』

浮島君は床の間の柱の處に長い脚を組んで居た濱寺君を想ひ出す。

カ「若し支部を設置するとすればいろ〳〵設備もいる事だから其邊も考へなければならぬ事は勿論です。元來會費の一時拂等の方法があると便利だが、或は此際寄附金でも仰いで經費の都合を計つたら何うだらう」

『此記錄で見ても當時の幹事にも大した成案のあつた譯でない事は解るだらう、先だつものは金であるし又支部設置の問題についての調査を初めるとなると色々の事項を究めなければならぬしれ、幹事の少なからぬ苦心の在る所だつたらう』

と木津君は幹事に同情する樣な言葉を以て說明した。堺君は言葉の切れるのを待つて後を讀む。

ア「雜誌の点についても今少し改良の方法が有りはすまいか、たとへば月刊の分は單なる會報に止め、時々有益なる報告をまとめて正員限り發表し、準員は實費を支辨すれば發送する事にし、又時々は準員向のものをも出すのもよからうぢあないか」

『そら見給へ君と同じ樣な意見を持つて居た連中がちやんと記錄を殘してゐるじあないか明石君はわざ〳〵須磨から出掛けて來た位だから熱烈な議論をしたものだ、學會の現狀並びに將來に就いて餘程深く考へて居たらしい』

と木津君は肥つた身体をゆすぶりながら其の日の事を更らに想ひ出すべく眼を閉ぢた。浮島君がふと顏を擧げると眉間に「山色健」の横額の掛つてあるのに氣がついた。東鄕大將の筆である。山色健なりはいゝなと思ひながら煙を擧げてゐた。（未完）



時報

◆都市計畫法案內容

內務省都市計畫課

△都市計畫事業の調査決定機關

都市計畫事業は、自治體の區域內に限らず、經濟上社會上一體の都市を構成すべき地域に及ぼすを要し、其內容は、治く、交通、衛生、保安經濟等に亘り、其利害關係の極めて重大にして其計畫の當否は國運の進揚に至大の影響あるのみならず、其事業は、至難にして、精緻の技術に須つもの多きが故に、官民各方面の代表的智識を綜合して、之を調査決定するを要するは、論を俟たず。依つて、之が計畫及每年執行すべき事業は、自治要素の參加を認めたる特別なる官制上の機關を認むること猶ほ現行制度の如からしめむとす。

△事業執行の機關

都市計畫事業は、官公私の施設に關し、其執行關係頗る複雜なるが故に、詳細なる規定は勅令に讓ることゝし、都市計畫事業中、公共團體の營造物又は私人の事業として經營するものに對しては、特許主義を採らむとす。

△都市計畫の費用

都市計畫事業に要する費用は、特別の理由ある場合の外、大體事業の性質、利害關係の薄厚等を案じ、市單獨又は關係公共團體の共同負擔と

爲し、其負擔方法及其歩合等に關しては、關係者の意見を訊き決定せんとす。

△財源

都市計畫事業費の財源に關しては、大體現行法を襲用することゝせり。而して、特別稅の新設に方りては、成るべく現在地方稅として一般財源に供せらるゝものに觸れざることゝし、其都市計畫事業費の財源として適當なるものを選み且つ、本事業に因りて利益を享くる者をして、其利益に應じて相當負擔せしめんことを期し、施行地域內に於ける土地の合理的利用を資くると共に、土地投機の弊を防遏するに努むるを趣旨とするを要す。

都市計畫事業は、永期に亘りて巨資を要し、國家の福祉に至大の關係あるに依り、國家としても、財政の許す限り之が助成に努めんとす。

△地域制の設定

都市計畫事業の執行區域內に住居地域、商業地域及工業地域を指定し、各地域に應じて、建築其他土地の利用に就き、適當なる規定を設くるは、都市計畫の基礎として、商工業の發展を助成し、市民の能率を增進する所以なり。

然るに、我國にては、地方警察令を以て、保安及衛生上斷片的規定を爲すに過ぎざるを以て、其都市生活の安寧を害し、都市の發展を阻害すること多く、勞働者及細民の住居に至りては、殆んど顧慮せらるゝことなきも、本法案中には之等の點に關し、建築法其他必要なる制令の根據となるべき規定を收めたり。

△土地の收用制度と地帶收用

都市計畫事業の爲必要なる土地の收用に關する現行法は、今日の法律思想に適合せざる點多く解釋上疑義を生じ易くして私權の保護充分ならず、執行上亦不便なるが故に、之等の缺點を補正し、特別の理由なき限り、成るべく土地收用法の規定を準用することゝし、新に歐米各國の認むる地帶收用制及衛生上又は保安上整理を要

する地域に存する家屋を收用するの制を併せ採らんとす。蓋し、都市の道路公園の類を開設するに際し、其公用に供する土地に接する一帶の土地をも併せ收用し、以て、其隣接地境に、營業、衛生、保安等の見地より、適當なる建築敷地を區劃造成するは、都市計畫窮極の目的なるのみならず、其處分に方りては、舊沿道者の特別利益を相當保護するの方法を講ずるに於ては事業の執行上亦多大の便益あり。斯の點に關しては、曩日、東京市區改正委員會に於ても希望決議する處あり。唯、斯の事たる、私權に重大なる交涉を有するが故に、其之を許容すべき場合に就ては、特に嚴格に制限し、以て、濫用を愼ましめんと欲す。

△土地區劃の整理

都市及近接町村内の土地にして、新に發展せんとする地區に對しては、相當奬勵方法を講じて區劃の整理を遂げ、他日再整理を要せざる新市街の發達を助成するを要す。仍つて、斯の點に就き耕地整理法を準用せんと欲す。

◆建築法案内容

内務省都市計畫課

△建築物の用途に依る地域制度

住居地域に於ては、市民住居の安寧衛生を保護し、商業地域に在りては、各種公私企業の機能を充分に發揮することを得せしめ、工業地域に於ては、一定の工場を招致するを旨とする爲適切なる規定を設け、都市計畫法の實施と俟ちて其地域に應じ各種の施設を完成するは、商工業の發達を促し、都市の保安及衛生に資する所以にして、自ら都市生活の放任より生ずる人心の

不安、地價の變動を防ぎ、都市改良事業費の節約を圖り、市街の美觀を向上するの結果と爲るべし。

△建築線の設定及之と建築物との關係

建築線は、市街構築の規準にして、交通其他公共用諸般施設の計畫之に依らざるはなく、市街の體裁亦之に基りて備はる。仍て、建築物は、建築線に據らしめ、別段の定めなきときは、道路の境界線を建築線と爲し、其既に道路の新設又は變更の設計あるとき、若くは、特に必要ありと認むるときは、之より後退して指定することを得せしめ、未だ道路の開設を見ざる地區には、豫め建築線の指定を受けしめ、克く新開地に備ふる處あらむとす。道路建築物の壁面に於ける突出部に就ては、交通を妨げ、街觀を害ふが如きこと無からしむるを要す。

△建築物の高

建築物の高さは、地方の情況、地域の種別、建築物構造の種類等に依り、其災害に對する危險の程度を審査して適當なる高度を定むる等、都市保安上の要求に應ずるの途を啓かざるべからず。又、建築物が人口の過密又は交通不能の原因と成り、若くは、互に光線の射入と空氣の疏通を遮蔽すべきが如きことなからしむる爲、前面路幅に顧み、相當の高度を定むべきは勿論、別に絕對的最高限度をも定め、都市をして、衛生保安及交通上亦濟ふべからざるに至らしむることなきを要するのみならず、都市の中樞區域又は重要街路に面する宅地に對しては、私經濟上社會經濟上適當に建築物の高度を指定するの要あるに依り、之等に對しては、命令を以て適當に規定するを得せしめむとす。

△建築と敷地面積との關係

家屋に光線の射入を良くし、空氣の疏通を圖り人口の過密を防遏し、災害時の防備避難に備ふる爲、建築物の高さを調整するの外、我國の實情に照して、地域の性質と其利用目的とに鑑み

建築敷地内空地の保存に就きて緩嚴其宜しきを得せしむる必要あるに由り之に備へたり。

△防火上の施設

都市に於て特に防火に備ふるの必要あるは論なし。仍つて、防火區域を設くることを得せしめ都市の經濟上殊に重要なる地區を保護し、大區域に亘る延燒を防ぎ、非常時に於ける幹線の交通を保全せむと欲す。以て、其防火構造に就ては、防火力を檢し、民力を察し、適當に規定する處あらむとす。尚、防火區域内に於て、家屋の部分を爲すの防火壁を境界線に接して設けしむるは、防火壁築造の一助と爲り、兼ねて、市内土地の利用と爲るに依り、之が規定を設けたり。

△耐震其他保安及衛生上の施設

地質の硬軟が、震害に著しき關係あるに鑑み、必要なる地區に耐震的構造を命ずることを得せしめ、常時低濕なる地區及連年浸水を免れざるが如き土地は、自ら多數細民及勞働者住宅の集合を招くべきに由り、排水其他相當の措置を講じ、以て、社會衛生上に備ふる處あらしめ、其他、居住者の、採光、通風、防濕、防疫等衛生上の見地、及、防火等保安上の見地より建築物各部の構造施設等に關して必要なる規定を設くるは、極めて必要なるに由り、案は之に備ふるの途を啓けり。

△美觀區域

我邦の民力は、未だ俄に歐米の例に倣ふを容さゝるも、樞要の地區には、其環境の調査を積へ宮殿及著名なる社寺の神聖を維持し、名園勝區の風致を汚損せしめざるが如き用意は、我國民性の要求なるに依り、斯の點に就ても相當備へたり。

△特殊建築物の取締

多數公衆の集會する建築物、屠場、市場等公衆

衛生上殊に考慮する建築物、又は、事業の性質若くは規模の奈何に依りて公安上注意を要する建築物の類に對しては、我國亦夙に地方警察命令を以て既に多少の制限を實行しつゝありと雖も、多くは近世の需要に適せず、精粗寛嚴區々にして、改正增補の機に到達せるに仍り、之を統一整理する處あらむとす。

◆議院建築意匠設計懸賞募集ニ關スル質疑應答

臨時議院建築局

問　總坪數三千六百坪內外ノ程度如何

例ヘバ二百坪ヲ超過スルモ差支ナキヤ

或ハ百坪ヲ超過スルモ差支ナキヤ

答　內外ノ程度ハ應募者ノ解釋ニ一任ス但シ敷地面積及工費ノ關係上成ル可ク建坪數ノ少ナキヲ希望ス

問　車寄露臺等ハ建坪三千六百坪內ニ含マルヽモノナルヤ

答　屋蓋ヲ有スルモノハ總テ建坪數ニ包含ス但シ乾壕外ニ設クルモノハ之ヲ算入セズ

問　第八條七項ニ立面圖及詳細圖ハ角度四十五度ノ光線ヲ以テ投影及陰影ヲ淡墨ニテ現ハスベシト明記アルニカヽワラズ昨年十二月發行ノ建築雜誌三八四號ノ質疑應答欄ニハ二百分一立切斷面ニハ必要ナシト有之候ヘ共右ハ單ニ切斷面ノ立面圖ノミ投影ノ必要ナキ意味ニ候ヤ立面圖ハ何レモ第一回ノ分丈ケハ投影ノ必要無キモノナルカ

答　規程第八條第七項ニ依リ立面圖及詳細圖ニハ四十五度ノ光線ヲ以テ投影及陰影ヲ現スヲ要ス但シ二百分一立面圖切斷面ニハ之ヲ必要トセズ



會報

會誌

一、本會雜誌は舊臘第十四號を刊行して、其第一輯を完成したるが直ちに會員並びに各贊助員に配布發送したり、年末の際郵便事務繁忙の影響にて到着甚だ遲延せる向あるは遺憾なりし。

一、尙本誌の眞價は殊に各府縣知名有力者並びに各學會、協會、各新聞社及各學校の認むる所となり、近時申込漸く多く本會の光榮とする處なり。

一、本誌講讀者の範圍も益擴大し來りたるは寔に慶賀に堪へず、殊に本誌創刊號以來の各號を全部要求せらるゝ希望者多く第一輯第六號の如きは竟に本會保管の分皆無となりたるは甚だ遺憾なれども止むを得ざる處に屬す。

一、本會雜誌第二輯表紙圖案懸賞募集の結果は別項の如く非常の好成績を以て終了し、特選せられたる入選圖案は多少の修正をなし直ちに本月號より卷頭を飾れり。

一、右應募圖案合計九十八通は來月上旬を期し大阪市中央公會堂の一室を借用し一般の展覽に供すべき豫定なれば各贊助員並びに購讀者の縱覽を希望する所なり。

一、本會會名變更の結果、本誌題名も「日本建築協會雜誌」と改名することゝなれり。惟ふに「關西」を中心とせし本會の事業並びに本誌の任務は既に事實に於て重且大を加へ我國建築界の將來に係る處頗る多きは讀者の認むる所にして本誌の前途は洋々たる春の海に似たり。

交換雜誌

建築雜誌	十二月號	（建築學會）
建築世界	一月號	（建築世界社）
住宅	一月號	（住宅改良會）
鐵道協會雜誌	第十二號	（鐵道協會）
工業之友	第四十一號	（工手學校）
內外土木建築時報	十二月號	（內外土木建築時報社）
工業之大日本	一月號	（工業之大日本社）

寄贈圖書雜誌

通俗衛生工業評論　　西本繁
木材新聞　オートモビル(第五號)　　小林市太郎
ペイント商報　早瀬塗料商報　　鈴木省三　池上德一
造船鐵工時報　　飯田太郎吉

新入會員

一、左の諸氏は第十九回例會の決議に基き今回會員として特別賛助員より資格轉換入會せられたり。

安井武雄　村上文郷
池田宮彦　大野助二

一、左の諸氏は第十九回例會の決議に基き今回會員として入會せられたり。

青田忠時　濱田正三
籠田定憲　松田茂樹
山口榮作　竹中景一
河盛益太郎　高堂德治

一、左の諸氏は第十九回例會の決議に基き今回會員として普通賛助員より資格轉換入會せられたり

長野金太郎　吉田健治
岡部顯則

一、左の諸氏は普通賛助員たらんことを申込まれたるより理事會の決議により今回入會を承諾せり。

堀平藏　安西伊之助
森西龍太郎　岡部直則

會則變更

一、第十九回例會の決議により會則一部左の如く變更せり。

第二條「本會ハ關西建築協會ト稱ス」とあるを「本會ハ日本建築協會ト稱ス」に變更

第二十條　第三項中「入會金貳圓」とあるを「入會金五圓」に變更

會計

大正七年度收支決算書

協會費之部

收入

一、會費	一、七〇四、七三〇	円
一、寄附金	五〇、〇〇〇	
合計	一、七五四、七三〇	

支出

一、圖書費	六〇、七〇〇
一、雜品費	三〇、六八〇
一、消耗品費	一、三三〇
一、筆墨文具費	一二、五一〇
一、諸印刷費	—
一、郵便費	一四七、一〇〇

一、振替貯金及集金郵便手數料	二二、二九〇
一、手當	一七五、〇〇〇
一、例會費	二三一、九〇〇
一、理事會費	一四三五二〇
一、大會費	二三〇、六二〇
一、大會費補助	一〇六、四五〇
一、臨時會費	三七六、九〇〇
一、臨時會費補助	六六、四五〇
一、雜費	一〇五、四八〇
合計	一、七一〇、九三〇
差引殘高	四三、八〇〇
前年度ヨリ繰越	七六、六六五
合計	一二〇、四六五

備考　未收入會費合計五九六圓アリ

雜誌之部

收入	
一、雜誌賣上金	八七、七〇〇
一、廣告料	三、七七九、九六〇
合計	三、八六七、六六〇
支出	
一、雜誌費	六、六一二、六六〇
一、報酬	一三三、五〇〇
一、雜費	二〇二、〇三〇
合計	六、九四八、一九〇
差引不足額	三、〇八〇、五三〇
前年度不足額繰越	四八〇、二九五
合計	三、五六〇、八二五

本會基金第一回報告

一金壹萬壹千三百三拾四圓六拾二錢　大正八年十二月末現在基金總額

內譯

一金壹萬壹千壹百二十五圓	既收寄附金額
一金二百九圓六拾二錢	利子
計壹萬壹千三百三拾四圓六拾貳錢也	

本會終身賛助員寄附金額一覽

申込金額	既收金額	寄附者氏名
一〇〇圓	一〇〇圓	井上國助殿
三〇〇	三〇〇	石井定七殿
三〇〇	三〇〇	假田忠三郎殿
一〇〇	一〇〇	巢鴨製作所
五〇〇	五〇〇	池田組
一、〇〇〇	五〇〇	橋本組
二〇〇		
二〇〇	二〇〇	原安商會
一〇〇	一〇〇	
一〇〇	一〇〇	東松工作所
一、〇〇〇	五〇〇	清水組
一〇〇	一〇〇	

永文吉殿
池田勘藏殿
橋本料左衛門殿
濱恒次郎殿
原田金次郎殿
日本石綿盤株式會社殿
東松孝時殿
德政金吾殿
豊島停雲殿

一、〇〇〇	五〇〇	大倉組
五〇〇	五〇〇	大阪窯業株式會社殿
一、〇〇〇	一、〇〇〇	大高庄右衛門殿
二〇〇	二〇〇	川島甚兵衛殿
一〇〇	一〇〇	瀧山源三郎殿
一、〇〇〇	五〇〇	竹中工務所 竹中藤右衛門殿
一〇〇	一〇〇	辰巳吉之助殿
一〇〇	一〇〇	淺野スレート株式會社 多田學殿
二〇〇	二〇〇	中川辰藏殿
一〇〇	一〇〇	野澤幸三郎殿
二〇〇	二〇〇	熊取谷熊次郎殿
一〇〇	一〇〇	山本合資會社山本辰五郎殿
五〇〇	五〇〇	松尾和助殿
一、〇〇〇	五〇〇	松村組 松村雄吉殿
一、〇〇〇	五〇〇	鴻池組 鴻池忠三郎殿
二〇〇	二〇〇	駒井喜兵衛殿
一〇〇	一〇〇	小西end吉殿
一、〇〇〇	五〇〇	安藤組 大阪出張所殿
二〇〇	二〇〇	有山福重郎殿
二五〇	一二五	櫻セメント會社阪本已之松殿
一、〇〇〇	五〇〇	木村組 木村篤三殿
一、〇〇〇	五〇〇	大林組 白杉龜造殿
一、〇〇〇	五〇〇	錢高組 錢高善造殿
三〇〇	三〇〇	大阪煖房商會管 谷元治殿
二〇〇	二〇〇	須賀商會 須賀豊次郎殿
一〇〇	一〇〇	須賀藤五郎殿
合計一六、四五〇	二一、二三五	

會合

理事會—編輯會—第一回審査會

日時　大正七年十二月廿六日午後五時～十時

會場　大阪倶樂部

出席　片岡　池田　野村　波江　小谷(書)　伊藤(編補)

葛野(監理)

記事

一、本會雜誌編輯に關して意見を交換し大容守成の方針を執るべきことに決定せり。

イ、本誌第二輯は從來の方針を繼承して漸次内容の改善を計ること。

ロ、本誌第三輯に於て本會所期の理想を實現する樣努力すること。

ハ、雜誌に關する會計は漸次整理を持續し第三輯に到る迄に所期を實現すること。

ニ、編輯事務の簡捷を計るため研究を進め專門編輯員を物色すること。

一、本誌第二輯表紙應募圖案審査は左の順序により一月上旬迄に決定することゝせり。

イ、審査に附すべき圖案は開封の結果九十七葉全部とす

（三十日到着せる一葉あり、遂に審査に附することを得

ざりき。

ロ、審査は現在理事之に當り、舊理事は便宜立合をなすことを得。

ハ、第二回審査を本月二十八日に、第三回審査を來年一月六日に行ひ更らに一月十日を期し最後の決定をなすこと

理事會—第二回審査會

日時　大正七年十二月廿八、廿九日　（午後一時—四時）

會場　本會事務所

出席　片岡　波江　野村　松本　瀬戸

記事

一、理事各員便宜の時間に夫々審査の檢印を附し、且つ意見を交換する所ありたり。

理事會—第三回審査會

日時　大正八年一月六、七日　（午後一時—四時）

會場　本會事務所

出席　片岡　池田　野村　瀬戸　宗（舊理）

記事

一、合議の結果更らに次回の會合を開き、佳作七葉に附き熟議することゝせり。

理事會—第四回審査會

日時　大正八年一月十四日午後五時—十時

會場　大阪倶樂部

出席　片岡　池田　瀬戸　松本　波江　葛野（舊理）

記事

一、審査は合議の結果。

入選圖案を左の三種とせり。

特　選（一葉）　賞金三十圓

入　選（四葉）　賞金二十圓

選外佳作（二葉）　賞金十圓

一、應募圖案全部は之を一月例會に公表し且つ當日賞金授與式をなすことに決定せり。

一、入選者氏名左の如し。

特選　會員　淺井新一

入選　會員　内藤太郎　（二葉共）

同　特別賛助員　古賀鄉實

同　松本儀八（西野田職工學校教諭）

選外佳作　特別賛助員　伊藤清造

同　普通賛助員　瀬川　博

一、右終了後晩餐を共にし、更らに重要案件の協議をなしたり。

イ、協會々名を日本建築協會とすること。

ロ、從つて會誌は日本建築協會雜誌とすること。

ハ、新入會員資格詮衡の疑義を解くため、入會金を金五圓とし、二月より施行すること。

ニ、會計報告を一月例會に發表し、且つ豫算案を作成して決議を經ること。

ホ、終身賛助員入會金額一覽表を作成して之を發表すること

と。

第十九回例會

日時　大正八年一月廿日午後六時ー九時半
會場　中央電氣倶樂部
出席　片岡　池田　葛野　瀬戸　波江　松本　高橋　小笠原
　　今林　須川　淺井　石田　木子　吉木　内藤太　木村
　　（梅）吉井　三木　田中綱　井上　森　小寺　小林
　　南　清水　金子　平井　廣瀬　柳下　小谷（書記）
　　江村（編輯）
　　古賀（特賛）　松本儀八氏（來賓）

記事

一、本夕は寒氣頗る猛烈且つ烈風耳を殺がんとするの概あるに係らず重要案件あるが爲めに會員の押して出席せられたるは感謝に禁じざる處なり。

一、定刻には來會者半數なりしも雜誌表紙應募圖案九十八葉全部を展覽せしかば各自品評を交換したり。入選者たる古賀鄕實及松本儀八兩氏の出席を促したれば來會せられたり。

一、七時片岡氏座長席につき開會を宣し、波江主記をして審査會の經過を報告せしむ。次いで賞金授與式あり。特選者淺井君先づ呼ばれ拍手大に起る。入選者内藤君、古賀君及松本君、相次いで賞金を受く滿堂拍手暫らく止まず、選外佳作受賞者瀨川博君は病氣缺席し、伊藤清造君は遠路なれば共に郵送する事となり。

一、池田氏大正七年度決算會計報告をなし波江氏は池田氏に代つて雜誌會計の報告をなせり。

一、新入會希望者十五名の詮衡會に移る。協議の結果全部入會を承諾す。

小笠原氏より動議ありしも賛成者少數にて消滅す。

一、八時、議事に入り先づ入會金の件を附議す從來金二圓を徴收する事となり居れるを金五圓と變更するものなるが滿場異議なく賛成可決す。

一、次いで本夕の重要議事たる協會名及雜誌名を變更して「日本建築協會」及「日本建築協會雜誌」とするの件を附議す。

三木氏は本會の將來は大に擴大すべきを以て「東洋」とすべき旨の動議あり、波江、池田兩氏より原案賛成の説明あり、動議賛成者少數にて成立せず。

小笠原氏は現狀維持の可なる旨を述ぶ、理事長より本會の現狀は既に「關西」より「日本」に内容充實し來れる旨を以て説明せられ、小笠原氏遂に動議を徹回す。

則ち原案に對する採決の結果滿場異議なく可決す。

一、八時四十分休憩をなし九時再開片岡氏座長となる池田氏より本會基金の現狀報告あり、次いで座長は明治神宮外苑記念建造物實施設計案につき眞面目なる意見を交換しては如何と計り、次いで波江氏は自己の意見を發表する處ありたり。

一、九時半散會す。

編輯だより

△世界平和の第一年を迎へ、本誌も「日本建築協會雜誌」となりました。「關西」から生れて「日本」に一躍した本誌は益々責任が重大となつたのであります。

△日本の將來が永遠に亘つて有爲多望である樣に本誌の將來も永遠に多望多幸であることを信じて疑はぬと共に愈々奮勵努力を繼續する覺悟であります。

△法學士伊藤眞雄氏の「英國に於ける都市計畫法」は特に御厚意を以て本誌に掲載を御許可相成りたるものであつて、深く本會の感謝する處であります。

△工學博士直木倫太郎氏の本會第一回大會に於ける講演速記は編輯上の都合から止むなく次號に掲載する事に致しました。特に御斷りを致して置きます。

△本誌〆切は毎月五日と致しました。進んで御寄稿を下さる諸賢には御申越次第本誌原稿用紙を發送致しますから、奮つて御投稿相成る樣願ひ上げます。

△本誌購讀御希望の諸賢は本會事務所宛御申越を願ひます。又購讀料金御發送の節は振替口座大阪三九九七五番宛に願ひます。

ブルユツセル市建築規則
（上）



ブルユッセル市建築規則（上）

目次

第一章　公道
廣場、大小ノ街路、路次
第二章　街規線
街規線平面圖
大小ノ道路
地面ノ合併及讓與
市吏員ノ決定ニ對スル抗告
街規線及水準
第三章　認許
認許ヲ要スル工事
願書及圖面
突出物
調査期限
認許ノ有效期間
第四章　届出
壁塗及ペンキ塗
第五章　工事ー保安法
工事着手前認許證ノ奥印
假圍及人除ケ
敷石修繕ノ爲メ拂フ償金
人除ケ
足代及梯子
卷揚、起重機虎綱及杭
溝堀
石切、壁塗等ノ工事
塵芥
工事場ノ點燈
公道ノ維持
柵及材料ノ撤却
構造ノ方則
工事ノ臨檢
工事ノ中止
紛議
第六章　公道ニ面スル所有地ノ外構
外溝
第七章　基礎壁
基礎
壁厚及踏出
第八章　建物前面間仕切及妻ノ壁
建物前面ノ高サ
地階及各床等ノ高サ
「マンサールド」
壁厚
入口地覆石、楣及側石
木製ノ前面
手摺、笠石上ハ飾等
壁ノ連絡

引鐵
力追リ
入口及大硝子窓脇法立
梁
足代ノ穴
町ノ表札
第九章　突出物
固定突出物
遊動突出物
根石及側石
圓柱及片蓋柱
窓敷石及入口地覆石
大硝子窓
巻込ガラリ戸
目隠戸並ニガラリ戸
看板其他
戸ノ外開キ
日覆
硝子葺露除庇
樑
加出シ窓
軒蛇腹
突出ノ減少
例外ノ突出
第十章　中庭
中庭ノ面積
第十一章　屋根葺覆材料
屋根
「マンサールド」屋根
鈎
第十二章　樋
樋
水取リ
第十三章　煖爐吹子場、窯竈
煖爐
竈底
烟突ノ胴
附屬家ノ烟突
桶職工場ノ煖爐
旅舘、旅籠屋、珈琲店、居酒屋
吹工場、窯、竈
吹子場、窯等ノ臨檢
第十四章　特別構造物ニ認許
出願及圖面ノ呈出
第十五章　下水ニ支管
下水
私設支管
換氣管
區分「サイフォン」
工事ノ檢査
公設下水トノ連絡
汚物流下管
汚水ノ疎通
水槽ノ溢水
空氣切斷管
下水ノ稅
第十六章　兩便所及各種ノ衞生器
第一部　水便所及水ヲ使用スル衞生器
水便所
水便所ノ「サイフォン」（水差）
流下管ノ換氣
連續ノ小便所
使所ノ模様替
小便所
厨房流シ、汚物流シ、湯殿其他係員ノ檢査
第二部　吸收物ヲ使用スル便所
土便所
運搬用ノ桶
長屋（便所割合）
第十七章　水ノ供給井戸、水槽、水溜
桝、古井戸、ノ穴塵芥溜、

飲用水ノ供給
糞尿溜
肥料溜
井戸
水溜其他
埋込井戸、埋込桝等
第十八章　厩舎
厩
第十九章　崩壊ニ近キ構造物
崩壊ニ近キ建築
第二十章　罰則―違反
違反
原形ニ復舊
第二十一章　最後ノ規定

ブルユッセル市建築規則

市會ハ千八百三十六年三月四日及千八百四十四年二月一日發布ノ法律並ニ千八百八十三年一月八日發布千八百八十五年十月五日及千八百九十年三月三十一日改正ノ規則ニ據リ左記條項ノ規則ヲ發布ス

第一章　公道

第一條　總テノ廣場、大小ノ街路、抜道、路次ハ市會ノ決議ニヨリ府參事會ニ提議シ皇帝ノ批准ヲ經ルニアラザレバ之ヲ新設シ又ハ變改スルコトヲ得ズ

第二章　街規線

第二條　本市ノ街規線一般平面圖ハ市會ニ於テ決議ノ上更ニ府參事會ニ提議シ且皇帝ノ批准ヲ經テ規定ス

市參事會及助役ハ此等平面圖調製ノ任ヲ帶ブ

大小ノ道路中街規線一般平面圖ニ據テ規定サレ居ラザル部分ノ街規線ハ市參事會及助役ニ依テ規定ス

大道ニ限リ市參事會ノ決議ニヨリ其他面ノ合併又ハ一部分ノ讓與ヲ必要トスル街規線ハ府參事會ニ提議シ其協贊ヲ受クベシ

市吏員ノ決定ニヨリ損害ヲ蒙リタリト信ズルモノハ場合ニヨリ上級官衙又ハ法廷ニ訴フルコトヲ得

第三條　家屋ノ前面、壁、其他公道ニ面スル外構ハ其構造物及歩道ニ對シ街規線及水準ヲ市係員ニ依リ現場ニ標示セラレタル上ニアラザレバ著手スベカラズ

現場ニ於テ此等街規線及水準等ノ標示ヲ受ケタルモノハ市役所ニ出頭シ其告知書ヲ請求シ其レニ附隨セル領收書ニ記名スベシ

前記ノ請求者ハ根石ヲ据付クルト同時ニ檢査ヲ受ケ且精確ニ標示ニ從ヒタルモノタル事ヲ記載セル檢定書ヲ受クベシ

豫定水準線ヲ示セル場合ニハ入口地覆石ヲ据付ケタルトキハ並ニ歩道ノ構造ヲ終リタルトキニ直ニ前項同樣ノ手續

ヲ經ベシ

第三章　認許

第四條　市參事會及助役ノ認許ヲ得ズシテ左記ノ事ヲ爲スベカラズ

一、公道ニ面スル建物、壁、外構ヲ新築改築變更修繕又ハ取毀ツ事並ニ外構ニヨリテ圍繞セラレ居ルト否トヲ問ハズ如何ナル地面ニ於テモ建物、壁ヲ新築改築シ又ハ建物ヲ住居ニ變更スル事

一、規定ノ手續ヲ經タル街規線平面圖ニ據リ公道ニ編入サルベキ地面内ニ於テ新築改築等ヲ爲ス事並ニ此等ノ地面ニ於テ其公道ノ境界ヨリ幾何ノ距離ニアリト雖モ既設建物ニ變更ヲ爲ス事又ハ保存上ニ必要ナル工事以外ノ工事ヲ施ス事

一、土工ヲ施ス事

一、井戸ヲ堀ル事

一、糞尿溜ヲ設ケ又ハ改廢スル事

一、公道ヲ横斷シテ下水並ニ其支線等ヲ設クルカ或ハ如何ナル性質タルヲ論セズ濕ヲ設クル事及腐蝕性ノ汚水ヲ公設下水ニ注入シ又ハ之ニ蒸汽ノ排出口ヲ接續スル事

一、公道ニ面スル壁ノ上又ハ之ニ倚頼シテ如何ナル性質タルヲ論セズ器械ヲ取付ル事

一、如何ナル地所タルヲ問ハズ工場多衆集合ノ場所(芝居、觀世物等)ニ適用ス事又如斯認許ハ或ハ地所ヲ厩舍ニ使用スルカ又ハ便所等新設ノ場合ニモ必要トス

第五條　總テ家屋及之ニ附屬セル建物ノ持主ハ工事著手前市參事會ヘ所有地所ノ平面圖ニ庭ニ使用セラルヽ地積ヲ示シタルモノ並ニ既設物ノ平面及斷面ニ書キ入レ及色分ケ等ヲナシタルモノヲ呈出スベシ又清潔法ニ關シ與ヘラルヽ命令ハ服從スルモノトス

建物ヲ變更又ハ修繕セントスル者、店舗ノ大硝子窓、壁或ハ他ノ總テノ外構ヲ新設改造變更又ハ修繕セントスル者ハ其建物ノ前面大硝子窓又ハ外構等ノ構造ヲ示ス平面、側面及斷面等ニ總テ書キ入レヲ施シ之ガ其認許請願書ニ添付シテ差出スベシ

壁ノ厚、椽ノ突出、入口、窓、大硝子窓等ノ明キ鐵梁柱及持送リ位置及其寸法並ニ建物ノ蛇腹ヲモ示スベシ

此等ノ圖ハ家屋持主ノ署名ヲナシ一米突ニ付二仙米突ノ尺度ヲ用ヰ二通調製スベシ

此二通ノ圖面ハ請願受付ノ際捺印シ寫布ニ引キタル一通ハ緩込ニ保存シ厚紙ニ引キタル一通ハ若シ變更ヲ命ジタル場合ニハ其レラモ記入シタル上精確ニ之ニ從テ施工スル爲メ申請者ニ返付スベシ

第六條　目覆、看板、街燈等ノ如キ公道ニ突出スル物体新設ノ認許ヲ得ントスル者ハ其請願書ニ物体ノ形狀寸法並ニ此等ヲ取付ントスル建物ノ部分ノ圖ヲモ示スベシ

第七條　市參事及役助ハ圖面呈出ノ日ヨリ十五日間ニ其建築ニ關シ調査決定ヲ與フベキモノトス

尤モ之ハ規定ノ街規線平面圖ニ於テ道テ公道ニ編入サルベキ地面内ニ於テ爲ス工事ニアラザル場合ニ於ケルモノトス若然ル場合ニハ市參事會ハ請願受付ノ日ヨリ三ケ月以内ニ調査ヲ遂クベキ

モノトス

所有權ノ問題ニ關シテハ如何ナル場合ト雖法廷ノ判決ニ反セザル範圍ニ於テ市參事會及助役ノ決定ニ對シ府參事會又ハ場合ニヨリ皇帝ニ上願スルコトヲ得ルモノトス

第八條 第四條及第七十條ニ揭ゲタル認許ハ其認許ノ日付ヨリ一ケ年以內ニ執行セザルトキハ無效トス

市參事會及助役ハ工事ニ著手セントスル日ヨリ書面ヲ以テ通知ヲ受クベキモノトス

第四章 屆出

第九條 市參事會及助役ニ前以テ屆出ヲ爲サズシテ左記ノ事ヲ爲スベカラズ

一、公道ニ面スル建物ノ前面、又ハ外構壁ノ漆喰塗、ペンキ塗、胡粉塗工事

一、又如何ナル性質タルヲ問ハズ足代架設又ハ假ニ步道上ニ物体ヲ置ク必要アル工事

本條ニ揭ゲル屆書ハ所有者ニ依リ工事ニ著手セントスル日ヨリ少クトモ四十八時間以前ニ市參事會ニ呈出スベシ

市役所ニ屆書差出濟ノ事ハ市參事會ヨリ所有者ニ交付スル領收證ニヨリ證明スルモノトス

第五章 工事—保安法

第十條 本規則第三章ニ揭ゲタル工事ヲ施行セントスルモノハ其認許證ニ先ツ其工事施行地所轄警察官ニ依テ奥印ヲ乞ヒタル後ニアラザレバ著手スベカラズ

尙其工事タル公道ニ接シ施工スルモノタルカ又ハ柵或ハ人除ケヲ設クル必要アルモノナル時ハ所有者ハ著手ノ日ヨリ少クトモ二十四時間前警察ニ屆出ベシ

第十一條 建築師、受負人、石工、大工、其他共以上示ス所ノ工事ヲ其ニ關シ必要ナル認許ヲ受ケタル後或ハ第九條ニ於テ規定セル屆書ヲ差出シタル後ニアラザレバ着手スル事ヲ禁ズ

第十二條 公道ニ面スル建物或ハ外構ノ壁ヲ築造シ改造シ又ハ取毀ツ時又ハ建物ノ前面ノ變更ヲ爲ス時ハ其所有者ハ少クモ二米突ノ高サヲ有スル柵又ハ人除ケヲ其所有地ノ前面及左右折曲リ共設ケタル後ニアラザレバ著手スルコトヲ得ズ

此柵ハ係官ノ指圖ニ從ヒ堅固ニ設クベシ

柵ハ步道上ニ於テ其車道境ノ線ヨリ石ニ沿ヒ設置スルモノトス

柵ノ內ニ設クル入口ハ內開キトシ鐵物及錠前ヲ附シ每日工事終業後ハ閉鎖スルモノトス

材料ハ柵ノ內ニ置クベシ

持主ハ市參事會ノ特許ニ依リ柵ヲ公道敷石內ニ設ケタル時ハ其撤却後敷石修繕ノ爲メ一米突ニ付キ五十仙ノ償金ヲ市ニ拂フ可キモノトス

工事受負人ハ上記ノ工事ヲ柵取設ケ前ニ着手スル事ヲ禁ズ、若シ持主及工事受負者ノ不注意ニヨリ本條ニ反スル事アル時ハ柵ハ其者等ノ費用ヲ以テ市役所ニ於テ設置ス

第十三條 建物ノ前面或ハ外構ノ壁ノ變更ヲ爲ス時人ハ一部分ヲ改築又ハ取毀ツ時其持主ハ場合ニ依リ市參事會及助役ヨリ柵ヲ設クル事ヲ免許サル、事ナルベシ

第十四條 持主建物ノ前面人ハ公道ニ面

スル外構壁、屋根等ヲ修繕スル時ハ其修繕スル所有地ノ兩端及其歩道ノ巾全部ヲ含ム様曲折リテ人除ケヲ設クルモノトス

建物ノ前面ノ壁及ペンキヲ塗替フル者又同様ノ義務アルモノトス且此工事ハ梯子又ハ足代或ハ市參事會及助役ニ依テ其使用ノ許可サレタル職工ノ生命ヲ安全ニ保護スルニ足ル道具ニヨルノ外施行スベカラズ、建物ノ前面及外構壁變更ノ許可ヲ得タル所有者及其一部分ヲ取毀ケ又ハ改築セル者ニシテ市參事會及助役ヨリ柵ヲ設クルコトヲ免許サレタルモノ又前同様ノ義務アルモノトス

右ノ外本條ニ於テ揭ケル工事ガ變災ヲ釀スベキ疑アル時ハ市參事會ハ上記ノ外必要ト認ムル他ノ注意方ヲ命ズル事ヲ得

第十五條 工事ニ使用スル足代及梯子ハ公道ヘ職工及材料等ノ墜落セザル様堅固ニ取設ケ其歩ミ板ハ固着セシムルモノトス、足代及梯子ノ各床ハ木製ノ丈夫ナル二本ノ横木又ハ充分丈夫ナル二本ノ綱ヲ一方ノ建地ヨリ他ノ建地ヘ取付クルモノトス、其内一本ハ歩ミ板ノ上端ヨリ五十仙米突ノ高サニ於テ又他ノ一本ハ休ヲ支フル様手摺ノ如ク取付クルモノトス

同様ノ手摺ハ可成上部ノ床ニモ同ク取設ケ置クベシ

足代ニハ少クモ一ケ所ノ登リ梯子ヲ取設クベシ其梯子ノ子ハ鐵製持送リノ如キモノヲ取付平均一段六十仙米突ノ距離ニスベシ、工事場ニ圍ヒヲ設ケザル場合ニハ足代及梯子ノ下端ハ歩道ノ表面ヨリ三米突以上ニアラザレバ設クル事ヲ許サズ

特別ノ場合ニヨリ梯子ヲ歩道ヨリ架設スルトキハ建物前面ノ兩端ニ高サ二米突ノ丈夫ナル柵ヲ足代ノ巾丈ケニ取設クルモノニテ總テ道路面ヨリ架設シタル梯子ノ下部ニハ常ニ職工ヲ壹名付キ置クベシ

滑車、綱其他總テノ工事用器具ハ丈夫ナルモノニヲ且完全ナル狀態ニアルベキモノトス

第一階以上ニ達スル梯子ハ建物ノ前面ニ取付ケタル滑車及綱ヨリ之ヲ建テ且其上部ヲ支持スベシ

第十六條 市參事會ノ許可ヲ得ズシテ公道上ニ卷揚ゲ、起重機虎綱又ハ杭等ヲ設置スベカラズ

此等ノ道具ノ際ニハ通行者ニ注意ヲ與フル爲メ一人付ケ置クベシ

工事中休ミノ時ハ綱、虎綱等ヲ外シ少クモ二米突五十仙以上ノ高サアル鳥居ノ上ニ置クベシ

虎綱尻手止メノ杭ハ可成歩道際ニ設ケ且其緣石ノ高サヲ超ヘザル様スベシ

歩道ノ際以外ニアル杭ハ地盤ノ高サヨリ越スベカラズ

敷石補修ノ爲メ杭一本ニ付一「フラン」ヲ納ムベシ

第十七條 公道ヲ横斷シテ溝渠等ノ工事ヲ爲スコトヲ許可サレタル者ハ其工事ヲ施ス箇所ヲ交通安全ノ爲メ市役所ノ指圖ニ從ヒ人除ケヲ以テ繞ラスノミトス又歩行者通行ノ爲メ所々相當ノ距離ニ於テ溝渠ノ上ニ橋ヲ設クルハ勿論市役所ニ於テ許可スル場合ニハ工事進行ニ從ヒ一部分ヅヽ埋戻ヲ爲スベシ、下

水ノ修繕又ハ取毀チノ場合ニハ其下水ヨリ出ル泥土ハ公道上ニ置クベカラズ

若シ實際ニ於テ暫時之ヲ置クノ已ムヲ得ザル場合ニハ有效アル消毒劑ヲ加ヘタル後ニアラザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ且其泥土ハ直チニ取除クベキモノトス、溝堀ハ缺陷又ハ其他ノ危險ナキ樣腹起シテ爲スベシ

第十八條 公道上ニ行フカ又ハ之ニ沿フテ施ス工事ハ柵、人除ケ又ハ足場取設ノ上ハ直ニ著手シ中止スルコトナク最短時間ニ竣工スベシ若シ工事ヲ中止スル時ハ場合ニヨリ交通ノ不便ヲ來サヾル樣一時取除クカ又ハ街規線上置換ヘシムルコトアルベシ

第十九條 石ハ直ニ据付ケラルヽ樣切リタルモノヲ建築場ヘ搬入スベシ

若シ之ニ關スル現場ニ於テ其形狀ヲ變更スル必要起リタルトキハ職工ハ石屑及破片等ニヨリ通行人ニ危害ヲ與ヘザル樣石ヲ置キタル後加工スベシ

總テ壁塗、石切又ハ彫刻等ハ建物前面ノ兩側及其總高サヲ覆フ樣透間ナキ柵ヲ設ケ公道又ハ隣家等ヘ塵埃、屑等ノ散亂セザル樣設備シタル後ニアラザレバ之ヲ爲スベカラズ

第二十條 家屋ノ上部又ハ內部ヨリ屑、芥、材料等ヲ公道上又ハ下水或ハ道路線ヲ流水中ニ投棄スルコトヲ嚴禁ス之等ハ注意シテ取リ下ロシ建物又ハ橋際ニ置キ日沒前ニハ取リ除クルモノトス屑芥、土砂等ヲ運搬スル車ハ其地有內ニ乘入スベシ若シ內部ニ入ルヽコト能ハザル場合ニハ其所有地ニ並行ニ車ヲ置キ決シテ公道ニ直角ニ之ヲ置クベカラズ

第二十一條 市參事會ニ於テ必要ト認ムル時ハ工事ヲ爲ス場所又ハ其柵、人除ケ、足代等ヲ架設中ノ公道ニ持主ノ費用及注意ヲ以テ日沒ヨリ日出迄適當ニ點燈セシム

第二十二條 持主ハ其建築、修繕又ハ取毀チ中ノ建物ノ前面又ハ外柵ノ公長ニ渉リ其公道ノ工事中清潔ナル狀態ニ維持スベキモノトス

第二十三條 公道ニ面スル建物其大畧ノ構造ヲ終リ屋根ヲ葺キ終リタル後ハ直ニ柵、人除ケ、足代ノ取拂ヒ且凡テノ材料、取解材塵埃等ヲ取片付ケ一時工事又ハ材料置場ニ充テ居タル公道ノ通行ヲ復舊スベシ工事中止ノ場合ニモ之ニ從フ

材料又ハ塵埃ヲ命ゼラレタル時間內ニ取片付ナサヾル時ハ警察ノ命令ニヨリ官ニ於テ持主ノ費用ニテ之ヲ爲スベシ

第二十四條 建築ハ總テ眞實ノ材料ヲ用ヒ構造方ノ法則ニ遵ヒ之ヲ行フベシ

第二十五條 構造又ハ土地建物全部ノ臨檢又ハ其他檢査ノ必要アルトキハ持主又ハ其居住者ハ本則並ニ許可證ニ於テ命ジタル條項ヲ遵守シタル公然ノ認可ヲ受クル迄ハ關係吏員ニ其便宜ヲ與フベキモノトス

若シ吏員ガ法律規則或ハ市役所ニ於テ認可シタル圖面又ハ認許證ニ於テ命ジタル條件ニ違反ノ廉アルヲ認メタル時及足代板、梯子、滑車、足場、綱其他ノ工事用器具ノ必要ナル丈夫サヲ缺クコトヲ發見シタル時ハ直ニ其持主又ハ受負人ヘ工事中止或ハ其不完全ナル器具ヲ遲滯ナク取替フル事ヲ申付ケ其報告書ヲ市參事會及助役ニ直ニ呈出スベ

シ

前項ノ申付ニ服從セザル時或ハ其申付ノ實行ヲ遲滯スル時ハ市役所ハ法律ニ準據シ命令ヲ下スモノトス

市吏員ハ持主又ハ受負人トノ間ニ構造材料或ハ用具ノ件ニ關シ紛議ヲ生ジタル時ハ市參事會及助役之ガ判決ヲ爲スモノトス

第六章　公道ニ面スル所有地ノ外構

第二十六條　公道ニ接スル地面ノ持主ハ壁又ハ鐵柵ヲ以テ外構ヲ設クベキ義務アルモノトス

市參事會及助役ハ其外構壁、鐵柵及此等ノ下部ニ設クル側石等ノ寸法ヲ決定ス

外構壁ノ上部ハ笠石或ハ市役所ニ於テ認可スル他ノ材料ヲ以テ覆フモノトス

但外構物其他何等ノ設備ヲ有セザル空キ地ノ前面ニハ市參事會ニ於テ木製ノ外構ヲ設クル事ヲ得

持主ノ過失ニヨリ決定ノ期間內ニ之ヲ設ケザルトキハ市役所ニ於テ持主ノ費用ヲ以テ之ヲ公設ス

第七章　基礎壁

第二十七條　基礎ヲ設クルニ必要ナル溝堀ハ良好ナル地盤ニ達スルマデ堀下クベシ、且下ニ掲グルトコロノ共界壁ノ設置ニ差支ザル樣充分ノ深サトスベシ

良好ナル地盤ナキ時ハ丁寧ニ打チタル割栗積、杭打捨算盤、捨算盤、筏地形、穿井地形其他普通ノ工法ヲ用ユベシ

持主ハ壁ノ濕氣止メニ關シ充分ナル注意ヲ施ス義務アルモノトス

共界壁ハ基礎ヲ除キ歩道ノ最低部ヨリ深二米突五十仙地下ニ入ルーモノトス之ト同樣ノ深サハ公道ニ面スル外構壁及接續セル空キ地ニ將來建築スル場合ニハ其要トナルベキ壁ニ少クモ奥行十米突ノ處迄ヲ必要トス

第二十八條　基礎壁ハ地下室ヲ壁厚ヨリ少クモ十仙米突ツヽ兩側ニ踏出シ譬令後者ニアル窓入口等ノ下ト雖モ斷續スルコトナク一樣トスベシ

地下室ノ壁ノ踏出ハ高サニ準スベキモノナリト雖モ如何ナル場合ニ於テモ兩側共五仙米突以下タルコトヲ得ズ

基礎壁ノ下層ノ厚サ即チ巾ハ建地ノ高サニ應ジ市參事會及助役ニ於テ決定セラルベシ如何ナル場合ト雖モ此厚ミハ一階ノ家ニ於テハ六十仙米突一階以上ノ家ニ於テハ八十仙米突以下タルコトヲ得ズ

第八章　建物前面、間仕切及妻ノ壁

第二十九條　公道ニ面スル建物前ノ壁ノ高サハ其道巾ニ準ジ定メラル建物前面ノ最高限ハ左ノ如シ

一、公共ノ廣場、大通リ及巾十五米突以上ノ町ニ於テハ二十一米突

二、巾　十四米突ノ町ニ於テハ廿米突
三、同　十三同　十九同
四、同　十二同　十八同
五、同　十一同　十七同
六、同　十　同　十六同
七、同　九　同　十五同
八、同　八　同　十四同
九、同　七　同　十三同
十　同　六　同　十二同
十一同　五　同　十一同
十二同　四　同　十　同

十三同　三米突及以下ノ町ニ於テハ八米突市參事會及助役ハ建築ノ構造上及美觀上ニ關スル理由アルトキハ上記ノ制限以上ノ高サヲ許可スルコトヲ得

第三十條　建物前面ノ高サトハ建物ノ中心ニ於テ歩道面ヨリ軒蛇腹或ハ其建物前面ノ垂直面ニアル屋上階並ニ屋上階ノ代用ヲ爲ス「マンサールド」ノ上端マデヲ取ルモノトス

公道ノ巾ハ建物前面ノ壁面ニ就キテ測ルモノトス

町ノ兩側並行セザル場合ニハ建物前面ノ高サハ各建物前面兩端ニ於ケル道巾ノ平均ニヨリテ決スルモノトス

或町ノ街規線變更久ハ更正サルベキ場合ニハ建物前面ノ高サハ將來ニ於ケル巾ヲ以テ決ス

第三十一條　巾不同ナル一個以上ノ町ニ面スル角家ノ前面ノ高サハ其最モ狹キ町ニ面シテハ市參事會ノ許可ヲ得タル上ニアラザレバ其最モ廣キ町ニ對シ許可サレ居ル高サニ建ツルコト能ハズ

公道ヨリ後部ニアル建物前面或ハ建物前面ノ一部分ノ高サハ其町ノ反對ノ側ニ於ケル街規線ヨリ其前面ニ立ツ處ノ距離ニ應ジ決定セラルヽモノトス

第二十九條ニ揭ゲル最高限ヲ超過スル現在ノ建物前面ハ單ニ修繕又ハ模樣替ヲ爲スニ止マル時ハ之ヲ持續スルコトヲ得ルト雖モ改築スル場合ニハ其高サヲ減少スベキモノトス

內部ニアル建物ノ高サハ各其場合ニ應ジ市參事會及助役ニ依リ決セラルヽモノトス

第三十二條　住居ニ充ツル地階及其以上ノ各床ハ少クトモ三米突以上ノ高サヲ有スベシ地階ト一階床ノ間ニアル中間床及「マンサールド」ハ少クトモ三米突六十仙以上地下室ハ二米突五十仙以上厩舍ハ三米突五十仙以上タルベシ

此寸法ハ床或ハ敷石上端ヨリ天井梁ノ下端迄ヲ取ルモノトス

窓ノ上枠床上端ヨリ二米突以下ノ「マンサールド」ニ於テハ市參事會及助役ニ於テ認許サレタル方法ニヨリ通風ノ裝置ヲ施ス可キモノトス

平面圖ニハ各肝要ナル部分及附屬家其他共使用目的ヲ記入スベシ

第三十三條　公道ニ面スル建物前面ノ壁厚ハ其高サニ準シ定メラル

十五米突以下ノ建物前面ニ於テハ塗壁ノ厚サヲ除キ塗厚ノ最少限左ノ如シ

地階及中間床ハ三十八仙米突即煉瓦二枚各床ハ二十八仙米突即煉瓦一枚半

十五米突及以上ノ建物前面ニ於テハ塗壁ノ厚ヲ除キ壁厚ノ最少限左ノ如シ

地階及中間床四十六仙米突即煉瓦二枚半第一階三十八仙米突即煉瓦二枚以上ノ各床二十八仙米突即煉瓦一枚半

建物後面及之ニ並行スル壁並ニ間仕切等梁ヲ支フル時ハ地階及中間床ニ於テハ三十八仙米突即煉瓦二枚以上其他各床ニ於テハ二十八仙米突即煉瓦一枚半ヨリ薄クスベカラズ

此壁厚ハ間仕切壁ニ梁ヲ支持セシメズ建物ノ一端ヨリ他端ニ通ズル梁ヲ以テ之ニ代用スル場合ニハ之ヲ減少スルコトヲ得

公道ニ面スル建物前面ノ最高限十三米突迄ノ町ニ於テハ其共界壁ノ厚サノ最

少限ハ塗壁ヲ除キ二十八仙米突即煉瓦一枚半トシ其他ノ町ニ於テハ其兩妻ノ共界壁ノ厚ノ最少限ハ三十八仙米突即煉瓦二枚トス

第三十四條 窓、入口ノ地覆石及楣ハ石材又ハ鐵材ヲ以テスベシ窓ノ手摺棒ハ金屬製又ハ石材ヲ以テシ腰石中ニ堅固ニ植込ムベシ總テ建物ノ前面ヲ木製軸立ヲ以テスルコトヲ禁ズ、窓、入口地覆及楣モ同ジク木製ニスルコトヲ禁ズ

軒先ノ手摺、屋上階ノ笠石、上飾並ニ建物側面上部ノ妻ノ甍及段積等同ジク石材ヲ以テスベシ

公道ニ面スル屋根傾斜面ヨリ突出スル煙突ノ腰積ノ上端モ同ジク石材タルベシ

第三十五條 建物外廻リノ壁、間仕切及共界壁共總テ其接合點ニ於テハ繼手ヲ組合ハスベシ

第三十六條 建物ノ總テノ壁ハ各床ノ處ニ於テ引鐵ヲ入ルベシ

第三十七條 除外側ニ依ルノ外總テ入口窓大硝子窓ノ上ニハ力迫リヲ設クベシ入口及ビ硝子窓ニ限リ此等迫リ持ハ市參事會及助役ニヨリ其建物前面ノ大小ニ應ジ決定セラルヽ寸法ノ石又ハ鐵製法立テノ上ニ各其兩端ヲ置クモノトス

建物ノ前面ガ直ニ外部ニ現ハルヽ材料ヲ以テ構造サルヽトキハ其建築者ハ石材ヲ以テ入口或ハ窓ノ法立ヲ設クルコトノ制限ヲ受ケズ

迫リ持ハ梁下換用スルコトヲ得之ハ建物側壁ノ厚ミノ全部ニ渉ル堅石又ハ鐵製法立ノ上ニ渡スベシ若シ法立石材ナル時ハ少クトモ十五仙米突ノ巾ヲ有シ且其梁ノ掛リ代ハ少クトモ二十五仙米突ヲ要ス

第三十八條 建物ノ側廻リ及內部ニ用フル梁並ニ床組共其受クベキ荷重ヲ支フルニ充分ナル寸法ノモノタルベシ

持主ハ常ニ市參事會ヨリノ質問ニ對シ各梁又ハ鐵梁ノ荷重ヲ示ス調書ヲ差出ス義務アルモノトス

床組ノ構造ニハ堅木ノ角材又ハ鐵梁ノ外使用スベカラズ

第三十九條 町ニ面スル側面ニハ充分ナル員數ニ於テ足代ノ穴ヲ明ケ置クベシ

第四十條 持主ハ町名ノ標札及如何ナル種類ノモノタルヲ問ハズ公用ニ關シ受ケル取付ケシムルノ義務アルモノトス

第九章 突出物

第四十一條 突出物ヲ分テ固定及遊働ノ二種トス

根石、側石、地下室ノ入口、通氣口、入口ノ地覆石及段石、車輪除、擦靴器、片蓋柱、丸柱、窓臺石、胴蛇腹、軒、蛇腹、桶等ノ類ヲ固定突出物トス

ガラリ戸、目隱戸、看板、大硝子窓前ノ手摺、街燈等ヲ遊働突出物トス

地下室入口、通氣口、入口地覆石及段石、車輪除及擦靴器等ハ歩道ニ關スル規則ニ於テ特別ナル物体トス

總テ突出ハ前面ノ壁面ヨリ計算ス規則ニヨリ許可サルヽ突出ノ度カ公道ノ巾ニ準シ變化スルトキハ其巾ハ第三十條ニ揭グル方法ニヨリ測定セラル

第四十二條 根石及側石ノ突出ハ左ノ規定ヲ超過スルコトヲ得ズ

十米突及其以上ノ巾ヲ有スル町ニ於テハ十二仙米

十米突以下ノ町ニ於テハ七仙米

最初ノ段石ノ突出ハ側石ノ面ヨリ五仙米以上ヲ超過スル事ヲ得ズ

第四十三條　丸柱及片蓋ノ礎盤ハ十米突及其以上ノ巾ノ町ニ於テハ歩道面ニ於テ側石ノ規定線ヨリ十仙米以上突出スルコトヲ得ズ十米突以下ノ巾ノ町ニ於テハ五仙米トス且所有地ノ街規線ノ後部ニ壁ヲ下ゲ餘裕ヲ設クル場合ニハ丸柱片蓋等前記以上ノ突出ヲ爲スコトヲ得、然レドモ建物前面ノ兩隣ニ接スル處ニ於テハ之ニ取合ハスルモノトス

側石ヨリ上部ニ於テハ丸柱、片蓋柱等十米突以上ノ町巾ノ處ニ於テハ其街規線ヨリ十二仙米突、十米突以下ノ町巾ノ處ニ於テハ七仙米突ヨリ超ユルヲ得ズ

第四十四條　地階ニ於テハ窓壁不及入口地覆石ハ左ノ規定ヲ超ユルコトヲ得ズ

巾十米突及以上ノ町ニ於テハ十五仙米突巾十米突乃至七米突ノ町ニ於テハ十仙米突巾七米突以下ノ町ニ於テハ七仙米突

若シ窓壁石二米突以上ノ高サニアル時ハ場合ニ依リ市參事會ハ前記以上ノ突出ヲ許可スルコトアルベシ

第四十五條　大硝子窓ノ突出ハ左記ノ寸法ヲ超過スルコトヲ得ズ

大硝子窓枠	五仙米突
同窓枠ノ蛇腹及上部ノ飾（地盤ヨリ少クモ二米突五十仙以上ノ高サニアル）	五十仙米突
同窓ノ前面ニ水平ニ取付クルノ手摺棒（其大サヲモ含有シ）	十六仙米

大硝子窓ノ戸ハ巻込ガラリ戸ヲ以テスベシ

第四十六條　目隱戸並ニガラリ戸ヲ開ク時ハ金屬製煽リ止メヲ以テ窓脇壁面ヘ開キ付ケ置クモノトス窓枠壁面ノ一ケ所ヘ二枚ノ目隱戸又ハガラリ戸ヲ開キ付クルトキハ一枚宛重子合ハスモノトス二枚重ネタル處ニテ其突出十二仙米突ヲ超ユベカラズ若シ一枚ナル時ハ六仙米突ヲ超ユベカラズ

看板、額及薄肉彫刻物ハ地盤ヨリ二米突五十仙以上ノ高サニ掛クルモノトシ特別ノ許可ヲ受ケタルモノヽ外五十仙米突以上突出スルコトヲ得ズ

ガラリ戸、目隱戸、看板、額、薄肉彫刻物等ハ石ヘ垂直ニ釣リ付ケタル丈夫ナル鐵蝶番ヲ以テスルカ或ハ堅固ニ大納立ニ爲シ取付クベシ

地盤ヨリ上二米突五十仙以下ノ高サニ取付クル標札、徽章又ハ小ナル看板ノ突出ニ就テハ市參事會及助役ハ各其場合ニ應シ其突出セシメ得ベキ寸法ヲ與フルモノトス

地階ノ入口、地下室ノ入口及目隱戸ハ外開キト爲スコトヲ得ズ然レドモ側石ノ出ヨリ突出セザル場合ニハ戸ノ開キ勝手ヲ公道ノ方トスルコトヲ得

又地下室ノ戸ニ於テハ通行上更ニ不便ヲ生セザルトキハ市參事會ハ外開キトスルコトヲ許可スベシ

第四十七條　大硝子窓ニ日覆ヲ取付クルコトヲ得

日覆ハ歩道面ヨリ上二米突五十仙以下ニ下クルコトヲ得ズ

然レドモ此寸法以外ニ二十仙米丈ケハ房又ハ絲リヲ垂下スルコトヲ得

日覆ノ受鐵物ハ歩道ヨリ上二米突五十仙以下ニ取付クルコトヲ得ズ且其端ノ尙垂下セザル樣止メ鐵物ノ裝置ヲ要ス

日覆ノ突出ハ市參事會ニヨリ特ニ定メラレタル場合ヲ除キ歩道ノ規定線ヨリ三十五仙米突以内ニ止ムベシ

第四十八條 特別ノ場合ニ於テ市參事會ハ硝子葺霧除庇ヲ建物ニ取付クルコトヲ許可シ得

其構造ノ骨子ハ製鐵ニシテ堅固ニ建物前面ヘ堀込ミタル上太枘ニテ引付ケタル同ク鐵製ノ持送リ上ニ定置スルモノトス

此持送リハ其下端歩道面ヨリ最少限二米突五十仙以上ノ高サニ取付クベシ

其突出ノ最大限ハ歩道ノ規定線ヨリ三十五仙米突以内タルベシ

此屋根ノ硝子ノ下端ニハ鐵製ノ網ヲ張リタル枠ヲ堅固ニ取付如何ナル變災ニヨリ硝子ヲ破碎スル事アルモ墜落シテ通行人ニ危害ヲ及ボスコトナキ樣取設クルモノトス、若シ之ヲ葺クニ鐵網入硝子ヲ以テスル時ハコノ裏面ニ取付クル網ヲ緻スルコトヲ得、霧除庇ノ屋根ノ水取リハ第五十六條ニ準シ設備スベシ

第四十九條 樑ノ突出ハ巾十二米突以下ノ町ニ於テハ七十仙米突其以上ノ町ニ於テハ九十仙米突ヲ超過スルコトヲ得ズ其**寸法**ハ正面ノ壁面ラヨリ樑ノ橫端迄ヲ計ルモノトス樑ハ石又ハ鐵製トシ其取付ケル所ノ壁厚ノ全体ニ渉リ其壁中ヘ積込ムベシ高サハ少クモ歩道上三米突ニアルベシ

石又ハ鐵製ノ持送リヲ同ジク壁ノ全厚ミ丈ケ積込ミ樑ノ下部ニ取付クベシ此等ノ持送リハ歩道面ヨリ二米突五十仙以下ノ處ニ於テハ街規線ヨリ些カタリトモ突出スルコトヲ許サズ

水取リノ爲メ亞鉛又ハ鐵製堅樋ヲ樑ニ取付クルトキハ**此**等ノ堅樋ハ建物前面ノ壁ニ沿ヒ直下シ地盤ニ達シタル處ニテ吐口ヲ設ク可シ

樑ノ手摺ハ鐵製又ハ石ヲ以テシ堅固ニ取付クベシ

刎出窓ヲ支持スル樑ハ煉瓦迫リ持又ハ鐵ノ刎出シ梁ノ間ニ混凝土ヲ充タシ之ヲ設クルコトヲ得

第五十條 軒蛇腹ノ突出ハ建物前面ノ六小ニ照ジ市參事會及助役ニ於テ定メラルベシ

蛇腹ハ其正面ノ壁厚全体ニ渉リ積ミ込ムモノトス

第五十一條 家屋前面ノ全部又ハ一部ヲ新築又ハ改築スル場合ニハ持主ハ此規則ニ制定セル**寸法**ヨリ超過セル突出ヲ減少シ又ハ全廢セザル可カラザルモノトス

第五十二條 市參事會及助役ハ規則ニ制定セラレ居ルヨリ長大ナル突出ヲ許可シ得ルモノトス但公共建築場、紀念物又ハ美術的ノ性質ヲ帶ブル構造物ニ限ル

（未完）

役員及職員

理事長　片岡安
理事　池田寛（主計）
　　野村一郎（編輯）
　　瀬戸文吾（編輯）
　　日高胖（編輯）
　　波江悌夫（主記）
編輯補　松本禹象
　　伊藤正文
　　佐藤四郎
　　本田登
書記　岡部顯則
　　小谷信藏

會員	一三九	會員（地方）	三〇
名譽贊助員	一七	終身贊助員	三五
特別贊助員	六	普通贊助員	二三八

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正八年一月二十日印刷
大正八年一月廿五日發行　（每月壹回廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人　伊藤幸太郎
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　日本建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

廣告目次

ハ、原安商會　二八
ニ、日本石綿盤株式會社　二六
日本コルク株式會社　二四
ヘ、米國貿易會社　一九
ト、東松工作所　一四
東京建築事務所案内　四
オ、大阪窯業株式會社　二七
大阪煖房商會　二一
大野式特許品營業所　一六
ヨ、横河橋梁製作所　二二
タ、高田商會　（前）二
ナ、土木建築内外材料合資會社　裏表紙表
ノ、野澤幸三郎　二三
マ、松尾和助商店　三〇
ケ、建築事務所案内　六
建築請負業者案内　八
コ、コルク工業合資會社　二〇
エ、榮進社　一八
ア、秋山小林商店　一三
淺野スレート株式會社　裏表紙裏
メ、明正社　二九
ミ、みよし組大阪支店　一五
ミツワ電氣株式會社　二三
モ、木材商案内　一二
セ、石材商案内　一二
ス、須賀商會　二五
巢鴨製作所　一七